



大和町うるわし

東京都中野区大和町の歴史

中野区大和区民活動センター運営委員会発行
大和地域 歴史編纂委員会 編集 平成 27 年

大和町うるわし

東京都中野区大和町の歴史

発刊にあたって

2 5 3

本書の読み方等について

4

第一章 平成二十七年の大和町 1-1 1-1 1-1 6

第二章 大昔から明治・大正 2-1 1-2 2-4 0

第三章 昭和時代 前半 3-1 1-3 3-3 0

第四章 昭和後半から平成 4-1 1-4 4-2 0

第五章 大和町の今と未来 5-1 1-5 5-2 2

第六章 付録 1 大和町周辺略年表 6-2

付録 2 西暦変換表 6-6



今回の大和町の歴史の編集には今までに出版されました様々な書籍や皆様からの資料、写真等を参考にさせて頂きました。特に平成三年に中野区大和地域センターから発行されました「やまと今昔物語」は、大和町の歴史をまとめ直し、今回の発刊にあたってその原点となった貴重な本です。なお参考にさせて頂きましたその他数多くの書籍等は、それぞれの時代の各章の目次の余白に資料として掲載しています。史実に関しては、大和町の皆さんをはじめ、図書館、資料館また各章に掲げた資料等で可能な限り検証し正確を期したつもりですが、今後皆様からのご指摘や資料提供を頂き参考に資する所存ですので、よろしくお願いいたします。

発刊にあたって

本誌を利用し、ぜひ役立ててください

大和区民活動センター

運営委員会会長 吉田國臣

この度歴史編纂委員会のご努力で本誌刊行のはこびになりました。各委員のご尽力に感謝申し上げます。また地域の皆様方におきましては、我が町大和町の過去・現在を知り、未来を考えると、本誌を大いにご利用、役立てて頂きますようお願い申し上げます。

町の歴史を把握する為の材料に

編纂委員長 木村勝昭

編纂委員会は、平成二十四年二月開催の大和区民活動センター運営委員会全体会で設置されスタートしました。

大和地域の歴史と生活史をふり返る作業をすすめることにより、ともに歩んできた

大和地域での生活史を実像化すると同時に共同作業をすすめることよって地域住民の連携を強めていくことを目的としたものです。そしてあしかけ四年をかけて本誌を刊行するはこびになりました。

そもそも大和町の歴史をまとめてみようと思案するに至ったのは、地域の小中学校で子ども達に大和町の歴史を教える教材がない、また教師自身も町の歴史を把握する材料をもたない、これは地域の責任ではないかと思えたことからでした。

各編纂委員は役割分担を決め資料収集、調査活動また地域史関係公的機関の訪問、相当量の関連図書の読込等をじつに精力的に丹念に自主的に取り組みました。そして毎月一回開催の委員会で全体の基本認識をまとめつつ出版にむけた実務作業を継続して本誌の出版にこぎつけたものです。地域史・個人史など自費出版をよくみうけますが、地域住民が本委員会のようにグル

ーブ作業をつうじて地域史を刊行する例はあまりなく、そのユニークさと同時に本書の内容面においても中身の濃い「中野区大和町の歴史本」が完成したと思います。願わくは今後多くの地域住民の皆さんにご愛読いただきませう願うものです。

町という有機体の一つの物語として

副編纂委員長

編集長 布瀬川浩一

「大和町の歴史」の編集を任されたときまず思ったのは、この町にいつ何があつたとか、その頃の生活や風景はこうであつたなどの風土記的なものだけではなく、町という有機体がどう変わってきたか、ひとつの物語に出来ないかなということでした。

その内容は、まず町の現在はどうかを把握する、つぎに現在に至った歴史とその背景を見る、そしてその歴史から未来をみちびき出す。この三つの柱で構築するこ

とを、編集に携わるメンバーと確認しスタートしました。中野区の歴史資料はそこそこあるのですが、大和町に関わるものは意外に少なく資料収集に委員は大変苦勞をしました。特に地図の入手は特筆すべきものでしょう。そのような制約の中でまずまずの内容にまとめられたことは、大和町の力として認められることではないかと思えます。

町名ひとつにしても、小学校の開設にしても町だけで出来た訳ではありません。まわりを取り巻く区、都、国がどういう状態であつたかを知ってはじめて理解できるのです。またどんな出来事にも人が関わっています。先人たちがどのように活躍したかも歴史では重要なことです。

大和町の歴史を読むことによって、私たちの思い、世の中の動きに思いを馳せていただければ幸いです。

平成二十七年

本書の読み方等について

1. 本書で述べる大和町とは、現在の住所表示や町会などの現在の境界で限定するものではありません。
歴史的に見れば大和町という地名も昭和になってからで、それ以前は「沼袋南」「上沼袋」「上沼袋村大字大場」「野方村大字上沼袋」「野方領上沼袋枝郷大場」「中野郷沼袋村」「中野内大場」などと呼ばれ、その正確な範囲は不明です。なお、道路や河川の名前も含め、旧名などを使う場合には、現在名を併記してわかりやすくしました。
2. 頁番号の1・1は、一章の一頁のことです、それぞれの章の目次に各章の頁番号を付けました。
3. 引用の場合、それがわかるように書き込みをしていますが一括、省略や意識でまとめた部分もあります。
4. 写真や資料等は皆様から善意で頂いたものや、中野区から提供頂いたものがあります。編纂委員会として、今回それらの資料等は、その善意の上で使用させて頂いております。
5. 大き目の文字を使い、関連する記事には（参照の頁）を付けました。
年代には西暦併記を行い、第六章付録に、西暦換算表及び、大和町の年表が付いています。
6. 当書を読むにあたり参考資料として、「大和町うるわしの地図編」をまとめていますが、別冊としての刊行は行っていません。電子データ等で必要な場合には、個別にお問い合わせ下さい。
7. この町の人々や子ども達にまずこの町を知ってもらおうと皆が集まりまとめました。本書は販売が目的ではありませんので、定価設定はしてありません。

第一章 平成二十七年の「大和町」

一 項 現在の 大和町 1・2

中野区の位置
大和町の位置
大和町の範囲
大和町の広さ
大和町は東京の高台

二 項 町の財産・ランドマーク 1・8

公園

学校

中野区立第四中学校
中野区立啓明小学校
中野区立大和小学校

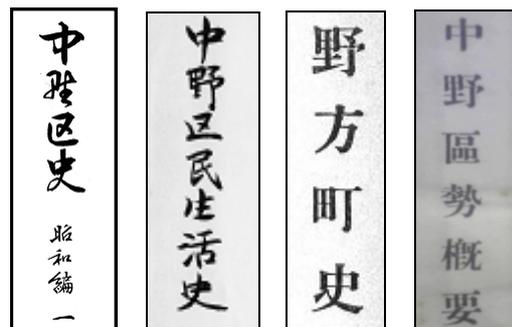
幼稚園・保育園・
児童館・高齢者施設

三 項 市民の生活を支える仕組み 1・12

町会
消防・警察・郵便局

四 項 ふれあい活動 1・14

中野区大和区民活動センター
運営委員会主催の行事
それぞれの会の活動



第一章 平成二十七年の「大和町」

一 項 現在の 大和町

私たちの町「東京都中野区大和町」
(なかのくやまとちょう)

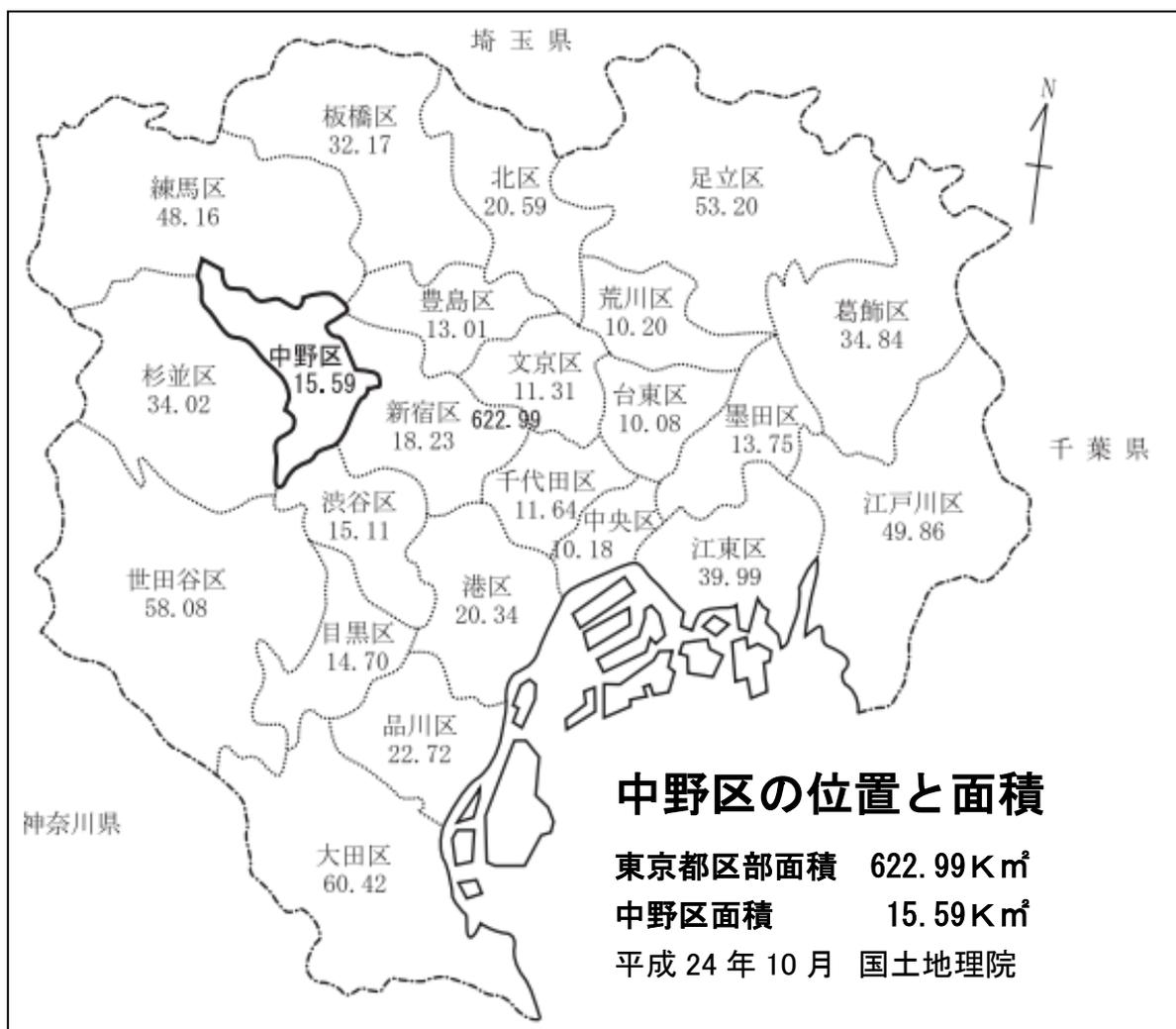
まず、私達の中野区の説明から始めます。

中野区 の 位置

「中野区」は東京都二十三区の西方に位置し、新宿、渋谷、杉並、練馬区に囲まれた位置にあります。

東京都の区部（下記の地図）の面積の二・五％位にあたり、二十三区のなかでは、十四番目の広さです。

ちなみに一番広い大田区の四分の一、一番小さな台東区の一・五倍の広さです。



北端上鷲宮 3-17 南北間 6,524m

中野区の地勢と大和町

妙正寺川は杉並区上井草
に源を発し妙正寺湧水と
合流し神田川に注いでいる

大和町は沼袋台地と野方台地
に挟まれた妙正寺川の流域に
位置している



「大和町」は区の北部を東西に流れる妙正寺川の南側に位置し、左図の緑枠で示したエリアです。

大和町の位置



北に西武新宿線の野方駅、南に中央線の高円寺駅の間のエリアで、通勤や買い物に関しては、野方(中野区)と、高円寺(杉並区)が利用されています。



妙正寺川 4 景 大和町の北側の流れ

右頁の大和町全体図を見ると、南側は早稲田通りが境となつていますが東の隅が南にはみ出しています。(2-15頁) 早稲田通りの南側は、杉並区高円寺北です。 左下(西南)に、蓮華寺があります。寺の塀に添って北へ、途中を折れ曲がってさらに北へ行くと、妙正寺川に突き当たります。鷺盛橋を渡ると向こうにマルエツがあります。 町の中央、縦の南北の通りは「大和町中央通り」横の東西の通りは「八幡通り」です。これらで一丁目から四丁目と四分割されていて、交差する北側に大和区民活動センターがあります。(下写真)



交差点

南北の「大和町中央通り」と東西の「八幡通り」信号なし



大和区民活動センター 上の交差点からすぐ北で最近その前庭に道路拡張のお知らせ看板が立ちました

左の写真は、センター内ホールの様子

大和町の広さ

環七通り（約1 km） 妙正寺川（約1・3 km）
早稲田通り（約1・1 km） 蓮華寺沿い道路（約0・6 km）
これらに囲まれています。

面積 約0・7 km²（七十ha） 強 0・6 〇・6

東京デイズニールランドや明治神宮と同じくらいの広さで、東京ドームが十五個くらい入る大きさで、中野区十九の町の中で十番目の広さです。中野区は約十五・六 km²、東京二十三区中十四番目の広さです。人口は少しずつ減少する傾向にあります。

平成二十七年（2015年）四月の住民基本台帳によりますと、大和町の人口は1万5424人です。

なお、人口密度では全国市町村で豊島区に次いで二位です。

中野区（19町丁）と 大和町の人口（区内順位）	
人口	15,424 人(11位)
中野区	318,530 人
世帯数	9,622 戸(10位)
中野区	192,511 戸
一世帯人口	1.60 人(12位)
中野区	1.65 人
人口密度	21,724 人/km ² (7位)
中野区	20,432 人/km ²
平成 27 年(2015 年)4 月	

女性数は男性の九割程度で僅かですが男性上位です。これは単身者が多いせいでしょうか、平成二十五年九月の資料によりますと単身世帯は全世帯の六十五％に達しています。

大和町は東京の高台（東京スカイツリーが見える）

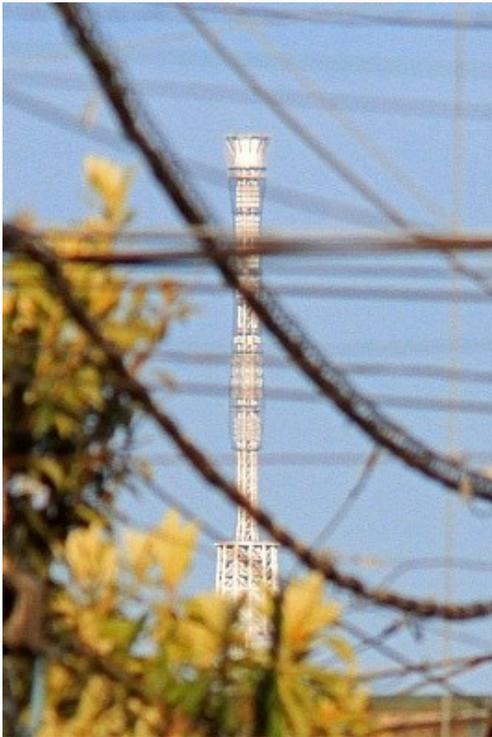
大和町は妙正寺川の南側（右岸）に広がる野方台地に位置し、おおむね四十m以上の標高があります。町の文化活動の中心を担っている大和区民活動センターは、北緯三十五度四十二分四十九秒 東経百三十九度三十八分五十六秒に位置しています。標高四十二mです。ここが大和町の位置といつてよいでしょう。

活動センターから大和町中央通りを高円寺の方へ二百×三百m行つたところの、花公園の角を曲がって一つ目の辻、此処に立つと東の方にスカイツリーが見えます。

大和町の公道で何処にも登らず、東京スカイツリーが肉眼で見える唯一の場所でしょう。天気が良くて空気が澄んでいれば、左頁の写真の通りです。

東京スカイツリーは北緯三十五度四十二分三十六秒なので、大和町のほぼ真東です。

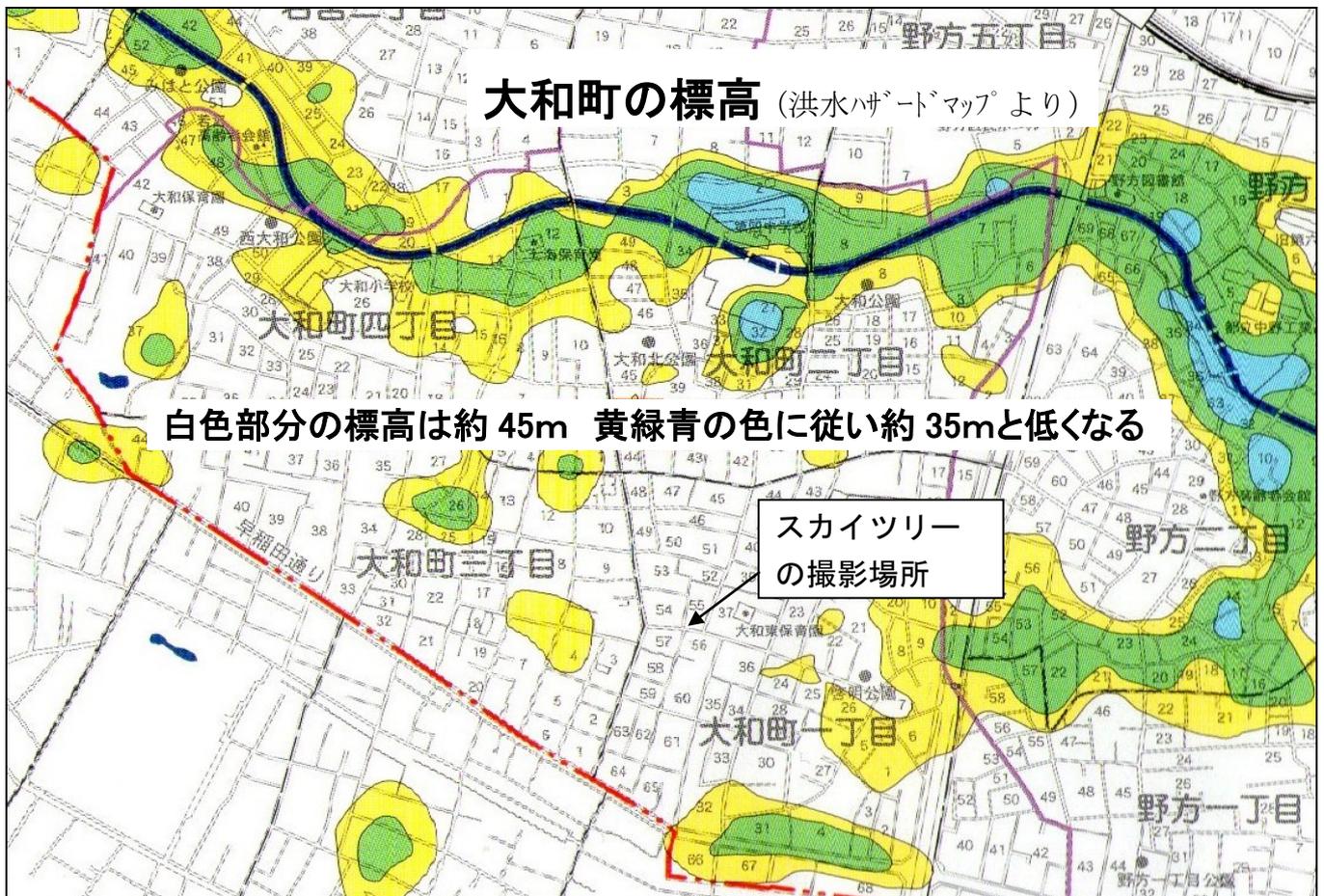
この間にある土地は、新宿（標高約三十m）文京（同二十m）台東（同十m）墨田（同十m以下）と、どんどん低くな



大和町のスカイツリー
(撮影場所下図参照)



つています。大和町の四十m強は、新宿の西側が東京の山の手と称されている実感がわきます(杉並五十m、立川九十m) 妙正寺川の付近は低く(それでも三十九m前後) 大和町中央通りの高いところは四十五mを超えます。



二項 町の財産・ランドマーク

公園（憩いと安らぎの場）

大和町には、公園が九ヶ所あります。（4-10頁）

啓明公園	一丁目二十一番	1 2 4 0 m ²
大和花公園	一丁目五十四番	4 0 0 m ²
大和公園	二丁目 八番	3 2 1 0 m ²
大和北公園	二丁目四十五番	1 3 0 0 m ²
みすみ公園	三丁目二十五番	2 0 0 m ²
大和鹿鳴公園	三丁目二十七番	4 4 0 m ²
西大和児童公園	三丁目四十二番	2 9 0 m ²
西大和公園	四丁目 五十番	1 0 0 0 m ²
みはと公園	四丁目五十一番	1 0 2 0 m ²

これらの他に、元は大和町でしたが町制改正で野方になってしまった所があります。 沼栄橋公園 野方五丁目一番

（元大和町六百番地） 7 7 0 m²

もみの木公園 野方一丁目三十八番
（元大和町三番地） 2 2 0 m²

また公園の指定は受けていませんが児童遊園とされている所があります。 大和西児童遊園 大和町四丁目十四番



中野区には約百六十ヶ所の公園があります。

しかし人口一人当たりの面積は一・二m²で、東京二十三区中二十二番目です。（最下位は豊島区）

最近できた、四季の森公園 平和の森公園 江古田の森公園などを入れてもこの順位です。大和町は一・0m²弱になります。いずれにしても公園の空間はとても大切な財産だということがわかります。

公園面積（一人当たり）のほかに、地域緑被率という物差があります。公園はもとより川沿いの緑地帯、寺社、校庭、団地の庭、大きなお屋敷、農園（最近では屋上庭園も入るようです）などの緑で覆われている部分の面積比率です。

これによりますと中野区は十六・四％で、二十三区中十三番目です。大和町の緑被率は十六％、中野区十九町の中では十位前後になっています。

中野区民一人あたり公園の面積は最近わずかに増えました。これは平和の森公園の拡張や江古田の森公園の拡張整備によるものですが、東京二十三区内では、依然として低い水準で、区も、何とか公園を増やそうとしています。

なお、今後四丁目近くの妙正寺川鷺宮調節池の上には、多目的運動場（仮称）一haが新しく設けられる予定で、番地は大和町ではないのですが、この地区に少し緑が増えます。

「大和町のみどり」

大和花公園の大きなメタセコイヤ
中央通り道路拡幅にかかっています。

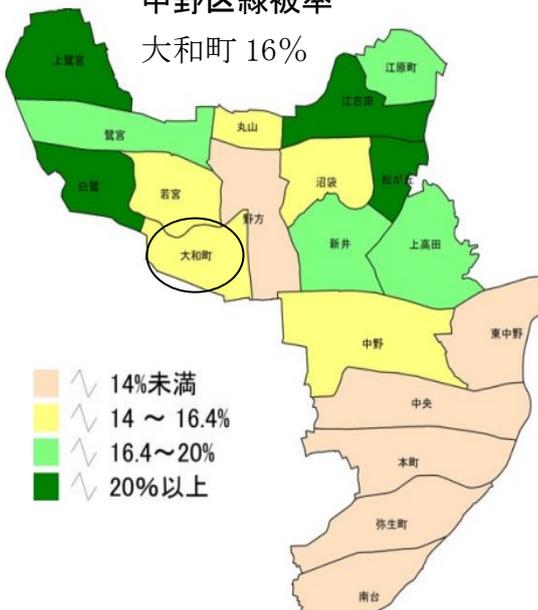


中野区立第四中学校の桜



大和北公園の百年いちよう（4・13・5・14頁）

中野区緑被率
大和町 16%



学校（歴史の頁）

学校の今後（5-10頁）

中野区内には、区立中学校が十一校と区立小学校が二十五校あります。大和町には、中学校が二校、小学校が二校あります。中学校は、第四中学校です。

小学校の二校は、啓明小学校と大和小学校です。大和町中央通りを隔てて、東と西にあります。

（児童生徒数は教育委員会平成二十四年度推計）



中野区立第四中学校（3-20頁）

開校は昭和二十二年で、六十八年の歴史を持っています。生徒数二百九十五人中野区立中学校十一校のうち十番目です。学校の真ん中を妙正寺川が流れて校舎と校庭を分けています。生徒は校舎から校庭へ出るには橋を渡らないと行けません。校舎は妙正寺川北側で大和町ではありません。住所は中野区若宮一丁目一番です。こう見ると大和町に中学校はないという事になります。広い校庭は川の南側で大和町二丁目二十七番です。学校面積の六割以上を占める校庭が大和町なので、我々が大和町の中学校として認められています。なお、若宮一は、元大和町六百四番地で、校舎完成時は、校門が大和町五百九十一番地でした。

校是は「知・徳・体」調和のとれた生徒の育成です。



中野区立啓明小学校（2-26頁）

大和町の東側、環七通り近くにあるのが啓明小学校です。開校は大正十五年で、八十九年の歴史を持つ古い学校です。児童数二百九十五人（中野区二十五校中十五番目です）校庭の芝生が美しく、校庭緑化の先鞭を切っています。図書館が充実しており、各界からの視察も多く他校からも注目されています。

校是は「やさしく・かしこく・たくましく」

人間性豊かな児童の育成です。



中野区立大和小学校（3-13頁）

開校は、昭和十五年で七十五年の歴史があります。広い校庭、プール、校舎の裏を流れる妙正寺川、付近にまだ残っている畑等が、訪れる人に開放感を与えてくれています。児童数は二百四十三人（中野区二十五校中二十二番目です）校是は「広い視野と思いやり、協調しながら主体的」

これらを持つ児童の育成です。

幼稚園・保育園・児童館・高齢者施設（含デイサービス）

大和東保育園	一丁目三十七番	園児	100人
大和児童館	二丁目八番	利用児童	150人
やはた幼稚園	二丁目三十番	園児	300人
だんらんの家	二丁目四十五番	利用高齢者	10人
七海保育園	四丁目十二番	園児	100人
大和西児童館	四丁目十四番	利用児童	150人
大和保育園	四丁目四十二番	園児	100人
若宮高齢者会館	四丁目五十一番		
その他元大和町であった 大和幼稚園 野方五丁目八番（元大和町六百十番地）	大和幼稚園	園児	300人



大和東保育園



大和児童館



やはた幼稚園



七海保育園



高齢者の為のだんらんの家



大和西児童館



若宮高齢者会館



大和保育園

三項 市民の生活を支える仕組み

町会

大和町には五つの町会があります。

東町会 大和町一丁目及び野方一丁目の一部

中町会 大和町一丁目の大部分

一和町会 大和町一丁目の一部分

北協和会 大和町二丁目全域及び若宮一丁目と

野方五丁目の一部分

西部自治会 大和町三丁目全域及び四丁目の

大部分（一部鷺宮の鷺南町会へ）

及び若宮二丁目の一部分

大和町でないのに、大和町の町会に入っている所があり、一方大和町なのに野方の町会や鷺宮の町会に入っているところがあります。住民の意思でこうなったものと思われませんが大和町に接する他の町との境界は、歴史をたどるとなかなか複雑なものがあります。また西部自治会のように、単独組織で他の四町会に匹敵するような巨大な町会（自治会）もありそれぞれ特色があります。各町会長の懇談の記事（5-16頁）



住居表示が実施され大和町1～4丁目に変更されたのが昭和42年（1967年）です町会の範囲と町名のずれが固定化しましたが、町の歴史を垣間見る事が出来ますなお、妙正寺川北側及び西側の町会境界線は、必ずしもこの通りではありません

各町会の平成二十七年（2015年）二月現在

東町会	2434人（1660世帯）
中町会	2768人（1843世帯）
一和町会	560人（352世帯）
北協和会	3666人（2204世帯）
西部自治会	6823人（4041世帯）
各町会の合計	1万6251人（1万100世帯）

住居表示地番の大和町の数字と町会内の数字に隔たりが見られます。これは野方一丁目五丁目、若宮一丁目二丁目、大和町の町会に属している人数がかなり大きいといえます。



野方消防署大和出張所 環七通り



中野大和町郵便局 早稲田通り

消防・警察・郵便局

「消防」

消防施設は、野方消防署大和出張所（大和町二一二十五）があります。

小型ポンプ車二台、資材搬送車一台の小さな施設ですが、道の狭い大和町では小型車がものをいうのでしよう。

また、主要公園には、消防の施設、貯水槽・消火栓・ポンプ・諸資材などが設置されています。

「警察」

大和町地域を管轄する野方警察署には十三ヶ所の交番があります。大和町にはありません。大和町を管轄するのは若宮交番（若宮二一十六一五）と野方一丁目交番です。

（野方一五三二八環七通り大和陸橋側道）元の大和町七番地です。大和町内に交番が無いのは、犯罪の少ない町だからなのでしょう。

「郵便局」

中野大和町郵便局（大和町一六四一）は早稲田通り側の
大和町中央通りの近くにあり、中野区には郵便局が三十ヶ所あり、その内大きな郵便局は中野と中野北郵便局の二ヶ所、大和町郵便局はこじんまりとしています（419頁）

四項 ふれあい活動

中野区大和区民活動センター

大和町近辺に居住している人達の、文化・体育を通じての集いの場、ふれあいの場の中心が、町の中心にある「中野区大和区民活動センター」です。登録をすれば、センターを利用出来ますので、多くの団体がいつも利用しています。

センターは、各町会等から推された運営委員を中心に運営されています。活動支援に加えて、運営委員会が主催する行事もあり、趣味のサークル・勉強会・スポーツ・ダンスなど、いろいろな活動の支援に加え、各町会・区が主催する防災活動や、赤十字の活動などを支援する役割を担っています。

運営委員会主催の行事

行事の一つに「大和ギャラリー」があります。ホールの壁面を利用して、写真・絵画・手芸・工芸・陶芸など自慢の一品を展示する催しです。また「カフェカトレア」は毎週水曜日に開かれる喫茶室で、老若男女が集い、楽しい雑談が聞かれます。勿論どなたでも立ち寄ることが出来ます。一階ホールには、大ちゃん和（なごみ）ちゃんがメニューを持って待っています（写真右下）



運営委員会の企画会議



いらっやいませ!

MENU
●コーヒー●紅茶
(お菓子付き) 200円

カフェカトレア
毎週水曜日10時～15時
大和区民活動センター
(お問合せ/ ☎3339-6125)
1階ホールにて開催中



青少年育成大和地区委員会



「大和地区まつり」は大和町の大きなイベントで、地区祭り実行委員会がそのつど結成され、組織や団体の枠を超えて、協力頂いています。
文化祭や運動会は、センターの建物は勿論、小学校の校庭も会場になります。

それぞれの会の活動

「ことぶき大和会」

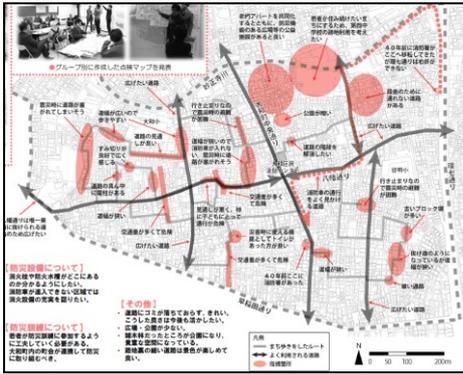
中野区生涯学習大学の卒業生・在校生の親睦会です。会員の多くは、生涯大学で学んだことや、ことぶき会で話しあつたことをいろいろな活動に生かし、各方面で活躍しています。

「大和地区民生児童委員協議会」

七十歳以上の単身高齢者、七十五歳以上の高齢者夫婦の訪問調査や、家族問題・子育て介護・福祉に関する相談を、行政や専門機関に繋ぐパイプ役を担っています。センターにはそのために、区からの職員が二名、常駐で対応しています。

「青少年育成大和地区委員会」

子ども達の健全育成を目的に、ミニリーダー講習会を中心とした家庭学校の垣根を越えた体験活動を推進しています。妙正寺川のマラソン大会は、恒例の行事になりました。



大和町点検マップ

大和町まちづくりの会作成

(5-6 頁)

今回の中央通りの拡幅の問題のみならず、大和町の将来の町づくりの為に中野区に新設された、地域まちづくり分野、大和町の担当の皆さんと共に、検討を進めています

「大和友愛会」

生涯青春の老人クラブで趣味、健康、教養学習、地域の支援、などを目指した自主的な組織です。中野区の地域支えあい推進の一環で、中野区友愛クラブ連合会を通しての相互交流もあり、既に区内には七十もの友愛クラブがあります。

「大和町まちづくりの会」

なお、センターの前の中央通りは、平成二十五年十二月、東京都建設局により総延長七百十m、道路幅員十六mに拡幅という、木造密集地不燃化プロジェクトが発表されました。この拡幅を契機にして町づくりを考えようと、大和町まちづくりの会が別に組織され、大きな将来の町のテーマに取り組んでいます。(5-6頁)



夕暮れの大和町
大和区民活動センター前

第二章 大昔から明治・大正

一 項 昔の「大和町」

2・2

先史時代から人が住んでいた大和町
古墳時代の遺跡は大和町からは発見されず
八幡神社
むすび稻荷神社 庚申塔・厄除不動 育英地蔵
八幡神社と蓮華寺と三十六人衆
鎌倉道

二 項 現在に残る呼称「大場」の登場

2・10

沼袋（大和町辺り）に移住してきた一族
上沼袋村大場（大和町）の地名
堀江家文書絵図
お犬屋敷は大場村（大和町）まであった
官製地図に載る大場村
天保郷帳

三 項 明治時代 江戸から東京へ

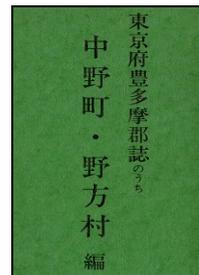
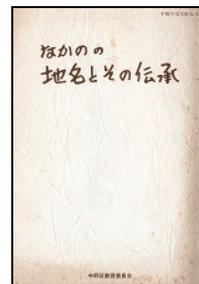
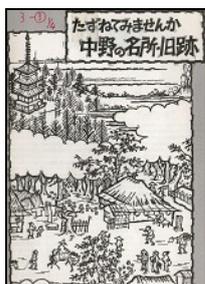
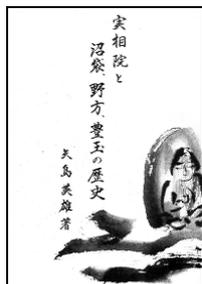
2・18

武蔵国から東京府への時代
上沼袋村 東多摩郡から豊玉郡野方村へ
文明開化、変貌する世の中 豊多摩監獄
蓮華寺 満願寺 公立学校の誕生

四 項 大正時代（明治末から昭和初めまで）

2・28

幻の中野飛行場 幻の外圓鉄道
幻の日本初のモノレール計画
人々の生活
「歴史、農産物、四季、施設、関東大震災 習俗」
「やまと今昔物語」に見る大正時代の「大和町辺り」
野方村は中野町より豊かだった？（大正初期）
新道（大新横丁）の開設 開設記念碑
大新横丁を走るバス 山本邸



第二章 大昔から明治・大正

一項 昔の「大和町」

先史時代から人が住んでいた大和町

中野区では先史時代（縄文・弥生時代）の遺跡（土器・石器）が、約七十ヶ所で発見されています。その多くは妙正寺川と江古田川が合流する辺りに集中していますが、大和町でも二ヶ所で発見されています。

大和町二丁目（八幡神社付近）と四丁目（大和小学校の西側付近）です。八幡神社付近から、厚手縄文土器（縄文中期）が出土したことで、現在大和町では、この2ヶ所が、埋蔵文化財包蔵地として指定されています。

地形上では妙正寺川に近く、なおかつ高台にあって水害の恐れのない場所だったのです。

大和小学校辺りからは、薄手縄文土器（縄文後期）や石器類（石斧・石鍬・石棒）が発見され、狩猟・採集だけでなく農業が行われていたことがわかります。

沼袋から下流にかけての妙正寺川北側の台地には、竪穴式住居跡がかなり発見されており、この辺りでは、かなりの縄文人が生活していたのでしょう。



- 大和町の埋蔵文化財包蔵地(⑫⑬大和町内)
- ⑫八幡神社(2丁目30番全域)
 - ⑬大和小学校西側(4丁目14番全域)
 - ⑧川北橋北側 ⑩大和小学校妙正寺川北側

東京都埋蔵文化財センター資料室によれば、八幡神社遺跡⑫と⑬の遺跡が登録されていますが両遺跡とも発掘調査報告書がなく、上記の説明の発掘品の保管はありませんでした。上の写真は改装工事中のUR団地、旧山本邸(2・40頁)北側でやっと見つけた物です。4.5cm x 3cm x 8mm ふつくらと反って縄目がある事からその時代の土器と思われる、この裏表の断片から、遠い昔を想像して下さい

古墳時代の遺跡は大和町からは発見されず

古墳時代の遺跡は、中野区から十七カ所発見されていますが、その大半は江古田・沼袋・新井など妙正寺川の溪谷沿いにあります。大和町からは発見されていません。

高塚墳や横穴墳、集落跡が発掘され、鉄の刀剣・土師器・石器などが出土しています。

沼袋氷川神社付近の遺跡の竪穴式住居には、製鉄場(溶鉱炉)の跡がある住居が発見されました。原始的な方法で、水草(蘆・茅・葦)の根に付く褐鉄や砂鉄などを精錬し鋤鍬などを作っていたと思われます。

農業の発達は、鉄製の農機具の開発が不可欠ですが、案外この辺りの古代人は、進んでいたのかも知れません。しかしその後、この辺りから(中野から杉並にかけて)人々が一斉に居なくなるという現象が起きています。飛鳥・奈良時代の頃の遺跡がまったく出土していないということから推察されている説です。

地区の歴史書などによると、期を同じくして国分寺市・多摩市など多摩川流域の人口急増が確認されていることから「当時の国府(府中市)周辺の開墾と武蔵国の国分寺建設の

ため多くの人手が必要となり、この辺りの人々が徴発されたのではないか」と説明されています。

妙正寺川を下った対岸の落合地区では、この頃の遺跡が多く見つかっていることから(落合遺跡・目白大学構内の発掘による)稲作に適した土地を求めて人々が集団で移住した(朝廷が米での年貢を求めたため)という説もあります。

平安時代に入ると律令制の拡大と共に、各地に郡郷の制度が確立され、武蔵国多摩郡(後に多摩郡)海田郷(うめだ)という地名が記録に出てきます(和名類聚抄・平安時代)海田郷には中野、本郷、新井、沼袋、江古田、鷺宮、馬橋、高円寺など十数ヶ所の村が入っています。

大和町は沼袋村の一部かと思われます。地名が記録されているところを見ると、居なくなつた人々が戻っているのがわかります。平将門が朝廷と戦ったとき、武蔵國中野原に出陣し、敗れて下総に逃れたと伝えられ、また共に戦った弟の平将頼が、討ち死にしたのが中野城山辺り(中野一丁目付近)といわれています。(将門記)

いずれも伝説の域を出ていませんが、大和町を含めたこの辺りも記録に残るほどの古戦場だったのでしょうか。

八幡神社

平将門の乱を抑えた朝廷は、東国（関東北部）及び蝦夷（東北地方）平定のため有力武将を随時派遣しました。その頂点が源氏の棟梁「八幡太郎」と称された源義家とその父源頼義です。彼らは武蔵国をその前進基地とするため、源氏の信奉する八幡神社を各地に建立したのです。

大和町八幡神社の縁起には

『永承年間（1046〜1052年）源義家が奥州地方に進軍する途中に、ここに陣地を作り、石清水八幡宮の遥拝所を設け、戦いに勝てますようにと祈った。

その後天喜四年（1056年）義家の武勇を慕う村人たちが、八幡神社を造営した』と書かれています。

荻窪八幡神社の縁起にも同様のことが記されています。

杉並の大宮八幡宮について、中野区史には

『源頼義が奥州発向の途、武蔵上阿佐谷の地に屯したが……略……

八幡大神の加護する所にして、賊徒を誅するを得ば、帰途必ず神祠を営構せんことを誓い……略……』と書かれています。帰途創建したのが今の大宮八幡宮である』と書かれています。



八幡通りから続く参道

その参道を掃除する

地元の皆さん





八幡神社の本殿 右側にやはた幼稚園 左にむすび稲荷神社がある (次頁)

源義家、新田義貞、太田道灌などに手厚く遇された神社は、その後大場村の鎮守社として栄えました。

現在の社殿は昭和三年（1928年）造営の木造権現造り（もくぞうごんげんづくり）です。

江戸、明治、大正、昭和、とそれぞれの歴史がこめられた多くの貴重な物が置かれてあり、その中で主なものを古い順にまとめました。

供養碑 貞享二年（1685年）

石造り手洗い鉢 宝暦十一年（1761年）

（むすび稲荷神社の脇に置かれている）

狛犬一対 文政十三年（1830年）

（神殿大修理と共に置かれたもの）

大太鼓 天保二年（1831年）

乃木希典の書による慰霊碑 明治四十一年（1908年）

狛犬一対 昭和九年（1934年）

（台座には、大和町の誕生に尽くされた本橋虎之助、伊藤益次郎氏の名前が刻まれています）

むすび稲荷神社

徳川時代沼袋の里、稲荷森（とうかのもり）に京都伏見稲荷神社の分霊を迎えて村人が五穀豊穡を祈念したのが始まりです。



稲荷森は現在の大和北公園のあたりにあったようです。鳥居には昭和9年の年号が刻まれています。右側奥にある手洗い鉢はとても古く正面に正八幡宮御寶前、側面に寶暦11年と刻まれています

庚申塔・厄除不動

八幡神社鳥居のわきにある厄除不動堂の中にあり、側面に武州多摩郡上沼袋村大場の文字がある石塔は、庚申塔です。庚申尊が刻んである石塔が庚申塔で、庚申塚ともいいます。正面に刻まれているのは青面金剛像のようです。

厄除不動堂の中で不動明王さまと同居しているところは、なんとも奥ゆかしいと感じさせられますが、青面金剛像が刻まれたのは元禄六年（1693年）といわれるから驚きです。



庚申さまは中国道教の教えです
高円寺北にも見ざる言わざる聞かざるの三猿を
従えた立派な堂宇があり、そのお堂の前の通り
が、今も賑やかな庚申通りです
それは正徳6年（1716年）の建立といえます
から、大和町の庚申塔のほうが、古そうです
写真一番左の石塔が庚申塔です（2-19頁）

育英地蔵（こそだてじぞう）

子育て地蔵と呼ばれている「育英地蔵」の歴史は古く、貞享二年（1685年）この地で没した旅僧を供養して建てられたといわれています。いい伝えに「大病の子息に心痛めていた親御さんの夢に老松の下に地蔵尊が現れ祈願すれば難病治癒する」とのお告げに信心の結果病気が治った」とあります。



育英地蔵尊

この堂宇は八幡神社氏子総代会の寄進で昭和 28 年（1953 年）に完成しました

現在では七体のお地蔵さんが鎮座しています

近隣の人々のご好意できれいな赤い前掛けをかけてもらい、花も絶えません

八幡神社と蓮華寺と三十六人衆

大和町の東西にそれぞれある、神社とお寺、時代も違い、成りたちも違って、全く関係がないと思われるかもしれませんが、実は蓮華寺の池（4-15頁）を通して、意外なつながりがあることがわかりました。

蓮華寺にはそのお寺が来る前から、きれいな湧き水の出る池があり農業用水としても利用されてきました。江戸地図に出井と書かれています。（2-13頁）

当時この池は、三十六人衆（松本・伊藤家）と呼ばれる村の氏子たちが所有していました。八幡神社は歴史はあるものの、無格社で、村社に格上げするには所有資産が不足でした。

そこで、氏子である三十六人衆が池を八幡神社に寄進し、神社としての資産の増加を図り、正式に村社に昇格することができたのです。（神社は明治政府により、社格制度という延喜式による社格にならって格付けされましたが、第二次世界大戦後、GHQによりこれは廃止されました）

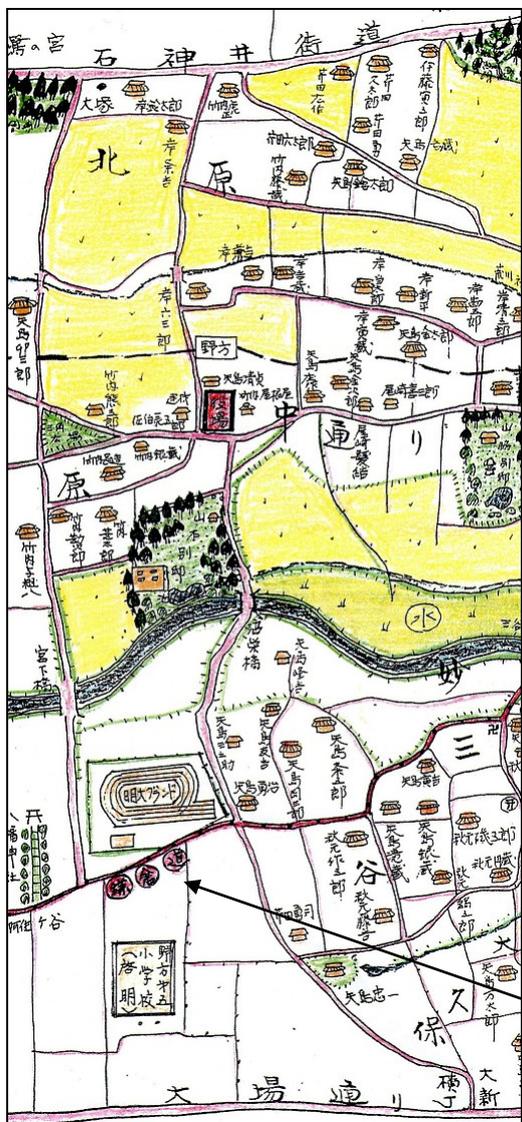
なお、蓮華寺の池の中之島には三十六人衆の手で、弁財天を祀りました。今は朽ち果てていますが、現存しています。このような経緯を辿り、八幡神社の資産になったものを、昭和四十三年（1968年）今度は蓮華寺の頼みに応え譲り渡しました。格付け自体はその時、既になくなっていました。

鎌倉道

鎌倉幕府成立に功のあった武者たちが、いざ鎌倉のとき駆けつけたといわれる鎌倉街道・鎌倉道は、武蔵国に幾筋もあります。

郷土の歴史家矢島秀雄氏は著書「実相院と沼袋、野方、豊玉の歴史」の中で「沼袋・大場に鎌倉道があったとの先祖の言い伝え」を具体的に、大和町八幡神社の南側の道（現八幡通り）であると示しています。

大和町八幡神社南側の道（八幡通り）は鎌倉道？
（同書の付録地図、部分）



大和町の鎌倉道といわれるルートは東から清谷寺、三谷橋、八幡神社、大和鹿鳴公園、西大和児童公園、蓮華寺、お伊勢の森、阿佐ヶ谷世尊院西側を通る道です。

平安時代末期から室町時代まで石神井川沿いに勢力を張った豊島一族は、鎌倉幕府成立に功があったのですが、この道を通って鎌倉往復をしたのでしょうか。

しかし後に、鎌倉幕府滅亡の時、鎌倉街道が足利・新田軍などに攻め込まれる道となってしまったとは皮肉なものです。豊島一族はしっかりと新田軍の一員として奮戦したことが「太平記」に載せられています。

足利一族に鞍替えし、室町幕府でも勢力を保った豊島一族ですが、江戸を拠点とした太田道灌に滅ぼされてしまいました。（豊島の名は豊島区・豊島園に残っています）

このときの戦いが鎌倉大草子に『文明九年（1477年）四月、道灌江戸より打ちいで…略…江古田原沼袋と云う所に馳せ向かい合戦し、豊島平右衛門以下百五十人討ち果たす…』とあり、江古田・沼袋という地名が後世に残る書物に、はっきりと書かれています。

太田道灌は、江戸より平川（神田川）を遡り落合で妙正寺川に入り、本陣とした沼袋氷川神社へ軍事物資を輸送したといわれています。

二項 現在に残る呼称「大場」の登場

室町時代、大和町の辺りは武蔵国多摩郡（多摩郡が多摩郡・多西郡に分割）中野郷沼袋村と称されていました。平安時代の「多磨郡海田郷」はありません。

小田原北条氏の記録「小田原衆（北条家人）所領役領帳」太田新六郎の項に、一貫文 中野内大場 源七郎分とあります。一貫文とは所務のこと、中野・大場は明らかに地名です。

沼袋村の南部で、妙正寺川を渡った高台（大和町の殆どを占める）を「大場」と称した記録が出てくるのはこの頃からです。

沼袋（大和町辺り）に移住してきた一族

武蔵国には、室町時代の武士たちが一族の存在を示した板碑が多く建てられています。中野区内に二十基あり、その内七基は江古田川と妙正寺川の間、禅定院・実相院・清谷寺・沼袋氷川神社にあります。

それらによってこの地で生活をした人達のこと垣間見られます。

矢島秀雄氏は著書「矢島寺と矢島氏」の中で、「実相院の縁起には『正平七年（1352年）戦に破れた新田六郎左衛

門尉政義の三男、矢島三郎信氏の子孫である矢島内匠、矢島図書等、が結城一族と沼袋に來たりてこの寺を建てた』

（途中省略）と書かれている」と紹介しています。

昭和二年（1927年）発行「野方町史」の中で、当時の町長伊藤徳蔵氏（禅定院檀家）は言い伝えとして「・鎌倉時代に於ける工藤祐経一族にして、当地に転住してより伊藤姓を名乗り、当家はその分家なり・」と語られています。前述の寺社の中には妙正寺川の南から北へ移動したのもあって、当時の位置関係の把握が難しいのですが、いずれにせよこの時代に、後世に残る一族が勢力をはり始めたということがわかります。



清谷寺の板碑

応永6年（1399年）建立 十三佛種子

の板碑緑泥片岩 高94cm 幅33cm

（中野区文化財）

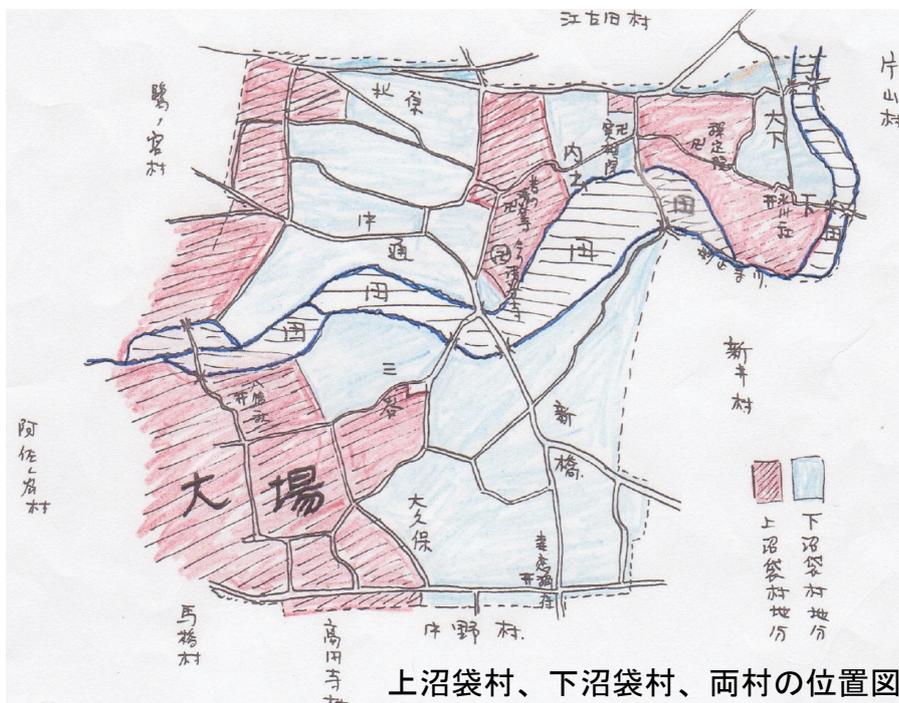
刻まれた梵字は阿弥陀如来を意味する

上沼袋村大場（大和町）の地名

江戸時代に入ると中野郷は、中野・本郷・雑色・江古田・片山・上高田・新井・上沼袋・下沼袋・上鷺宮・下鷺宮の十一村になります（沼袋村は二つに分割）上沼袋村が今の大和町に重なります。この時代は、江戸郊外も細かく分割された区画に入り、年貢取立てなど厳しく管理されていることが「新編武蔵風土記稿」に記載されている、石高表や人足徴発記録、戸数表などからわかります。

新編武蔵風土記稿は江戸時代後期（1820年頃）に編纂された武蔵国の地誌で、土地・地域・生活のことなどに渡って編集されています。新編武蔵風土記稿は「地誌取調書上を各村に提出させたうえ、実地に出向いて二十年かけて調査した」とあることから、内容は歴史本ではなく、江戸時代中期の事柄を纏めたものであると推察されます。それによりまずと、多摩郡野方領に五十四の村があると記載があり上沼袋村、下沼袋村が登場します。

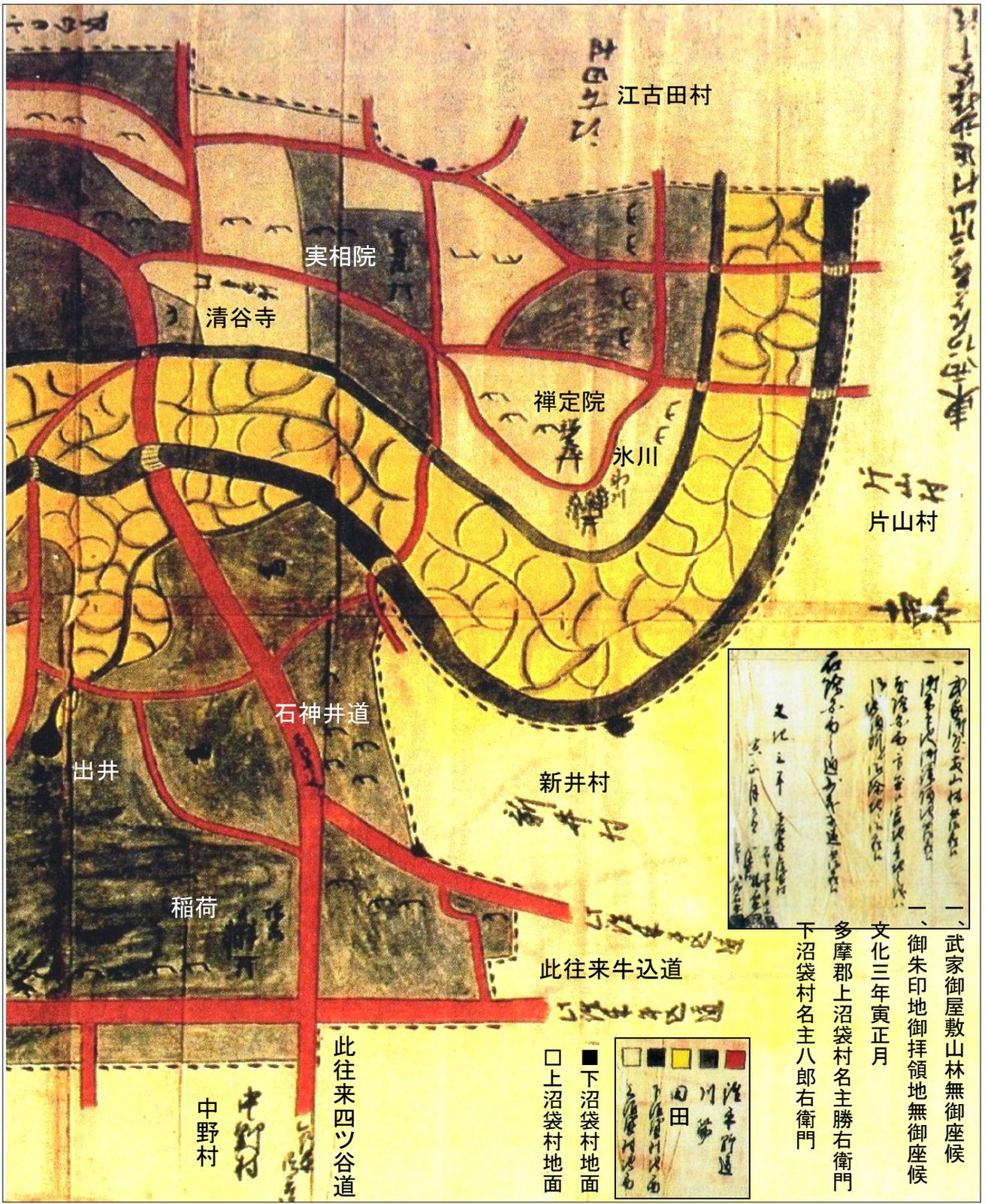
ここで「野方領」という言葉が出てきますが、行政区画の地名ではなく、広く地形・地勢を表したものの様です、領は幕府直轄領の意かも知れませんが、なぜなら、豊島郡野方領四十村（内藤新宿 上落合・下落合 上石神井・下石神井 練馬）など多摩郡野方領五十四村（田無 上井草・下井草 阿



上沼袋村、下沼袋村、両村の位置図

大和町辺りは武蔵国多摩郡 野方領 上沼袋村に所属していますが、上沼袋・下沼袋村はどちらも飛び地が入り組んでおり、場所を一言で表すのは難しい状態にありました
江戸時代堀江家絵図（文化3年と天保8年の2図から復元）

佐ヶ谷 馬橋 上沼袋(枝郷大場村) 下沼袋(枝郷新橋村) など新座郡野方領三十四村(野火止 上保谷・下保谷)などと複数の野方領が記載されているからです。(しかしその後、野方の呼称は豊島郡、新座郡からはなくなり、多摩郡にのみ残りました。ひよっとしたら現在の中野区の称号が野方区になっていたかも知れません)



東上野村山行...

一、武家御屋敷山林無御座候
 一、御朱印地御拝領地無御座候
 文化三年寅正月
 多摩郡上沼袋村名主勝右衛門
 下沼袋村名主八郎右衛門

一、武家御屋敷山林無御座候
 一、御朱印地御拝領地無御座候
 文化三年寅正月
 多摩郡上沼袋村名主勝右衛門
 下沼袋村名主八郎右衛門

沼袋
 川
 田
 下沼袋村
 上沼袋村

此往来四ツ谷道
 此往来牛込道
 ■ 下沼袋村地面
 □ 上沼袋村地面

「多摩郡野方領の上沼袋」
 (新編武蔵風土記稿より)
 「上沼袋村」

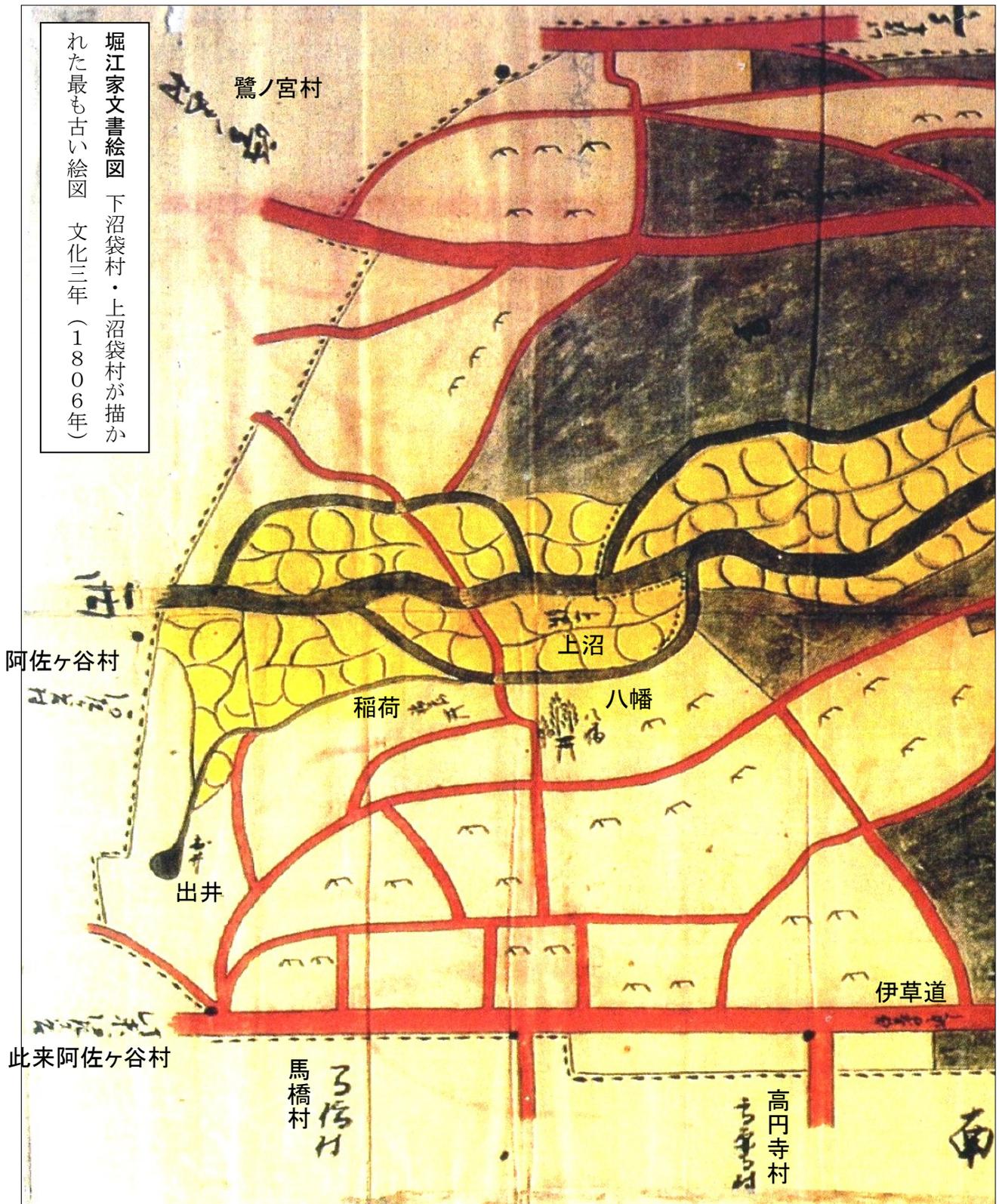
沼袋の地名は古し「鎌倉
 大草子」に見ゆ。されば
 文明年間(1477年)の
 頃より此処にあり：

東は新(荒)井村、西は
 大場村に続き、南は新橋村、
 北は下鷲宮村に接す、そし
 て土性は野土にして陸田多
 く水田なし民家は六十軒あ
 りと記されています。

大場が大場村として別記
 載になっているところが注
 目です。上沼袋村と並列で、
 枝郷大場村が出ています。

「上沼袋村枝郷大場村」
 大場の唱えは古へよりの
 ことにして北条家人所領役
 領帳にも見えたればこの地
 は本村の西の方にて、東は
 下沼袋村枝郷新橋村に接し
 地形平衛にして土性野土に

堀江家文書絵図 下沼袋村・上沼袋村が描かれた最も古い絵図 文化三年（1806年）



して陸田多く水田少なし、民家三十六軒此処に散在せりと記されています。
江戸時代後期には大場村は枝郷とはいえ、きちんとした地名を持っていたと考えられます。

堀江家文書絵図（上図）

絵図の左面には八幡神社と、西に出井（蓮華寺の池）の描き込みがあります。
当時今の和町は上沼袋村と下沼袋村が入り組み、白と黒で色分けしています。
家並みや旧道も特定でき、八幡の西側には稲荷と書かれた鳥居が見えます。
伊草道（旧所沢街道、現在の早稲田通り）の南側を見ると村の境界は高円寺村までのみ出し、点線で示されています。

大場村（大和町）まであった

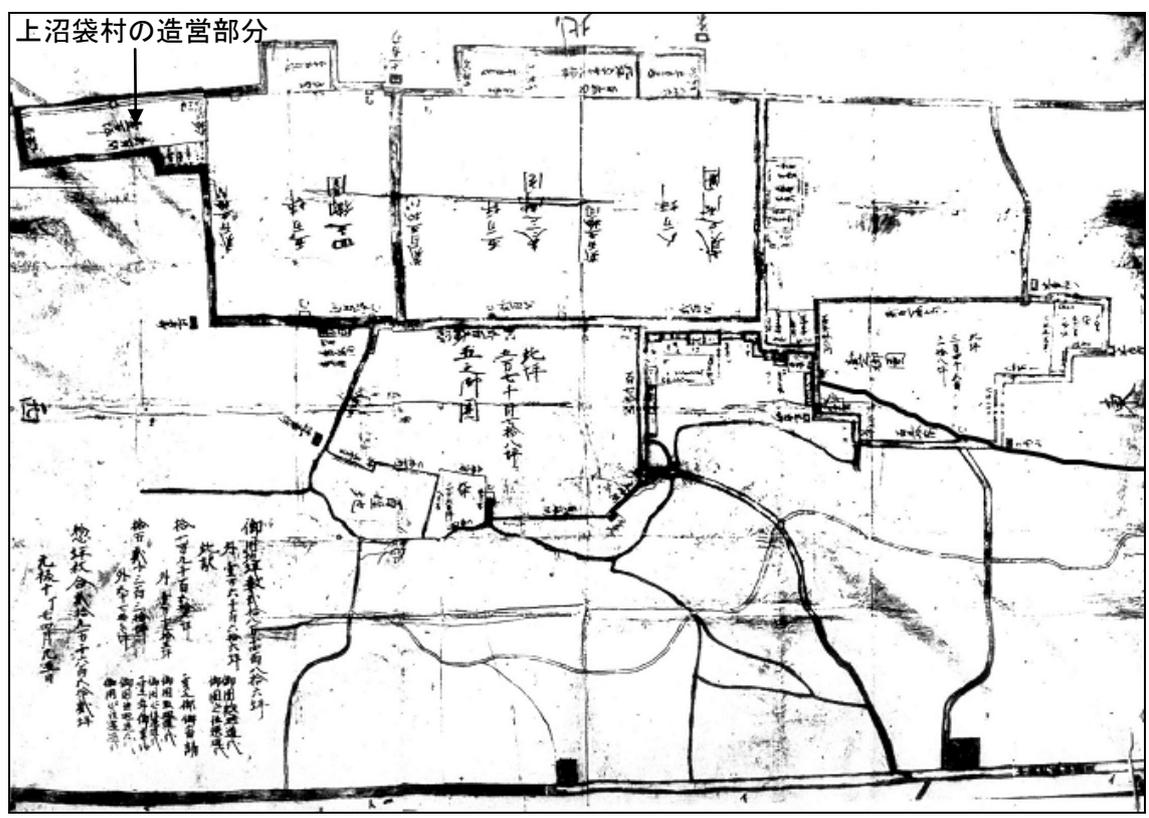
貞享四年（1687年）から元禄時代にかけて、五代將軍、徳川綱吉の、いわゆる「生類あわれみの令」が制定されて、動物の殺生が禁止され、特に犬が手厚く扱われました。近郷から十萬頭もの犬が集められ中野村で飼われました。「御囲いお犬屋敷」です。現在のサンプラザの東から、四季の森公園・区役所・中野駅の南、桃園川近くまでの広大な地域です。

野方町長伊藤徳蔵氏は、町史に「初代伊藤徳佐衛門はかつて中野に犬囲いを造営し」と述べています。大場（大和町）からも二町歩（数千坪）提供しています。早稲田通りの南側にはみ出した部分が相当します。（前頁参照）

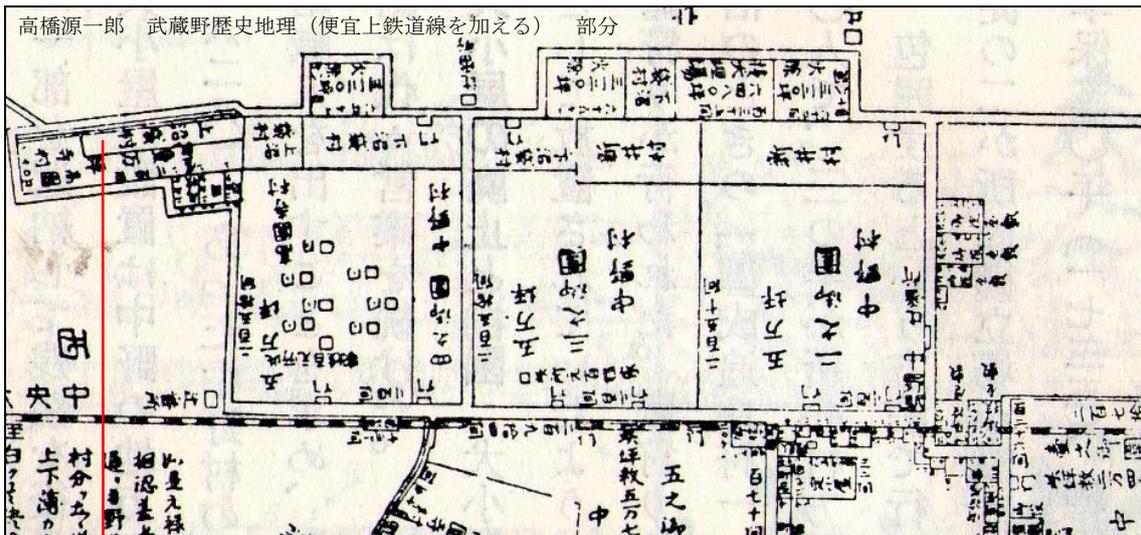
なお、天保八年（1837年）の堀江家の別の絵図には、この部分が「御領田畑」と特別の記述がされています。

お犬屋敷が廃止になってから、屋敷跡は將軍遊猟の地とされました。享保年間（1720年頃）には、この辺りも鷹狩りの場として賑ったようです。

一回の狩に、近隣から七百五十名もの人足が役務として駆り出されるのですが、宝暦年間（1763年頃）十一代將軍家治の時は、中野郷十一村からも人足として二百三十八人が駆り出されています。上沼袋村からは九人と記録されています。（中野区史より）

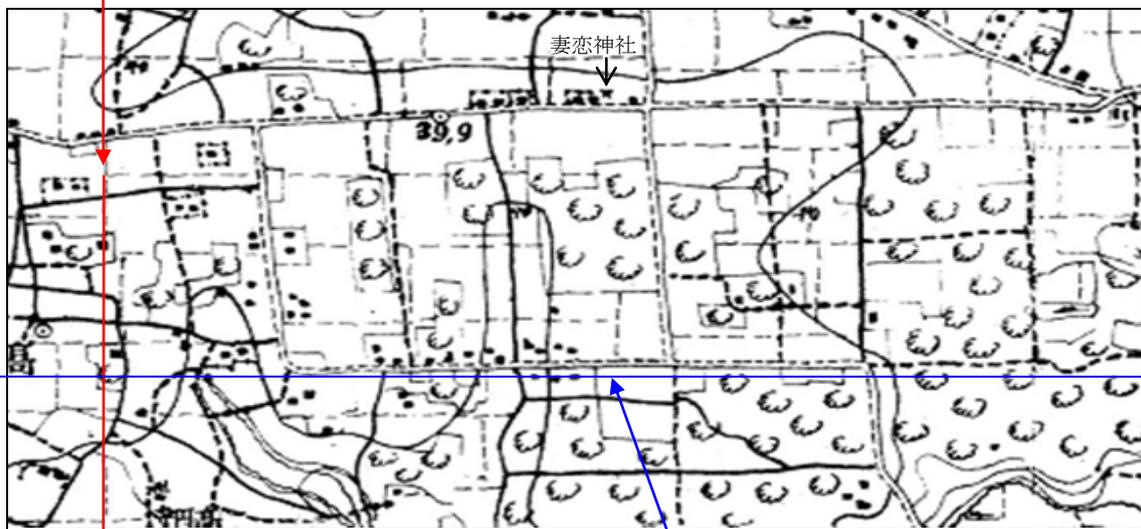


元禄 15 年（1702 年）お犬屋敷御囲い全体図 変遷の過程は左頁参照



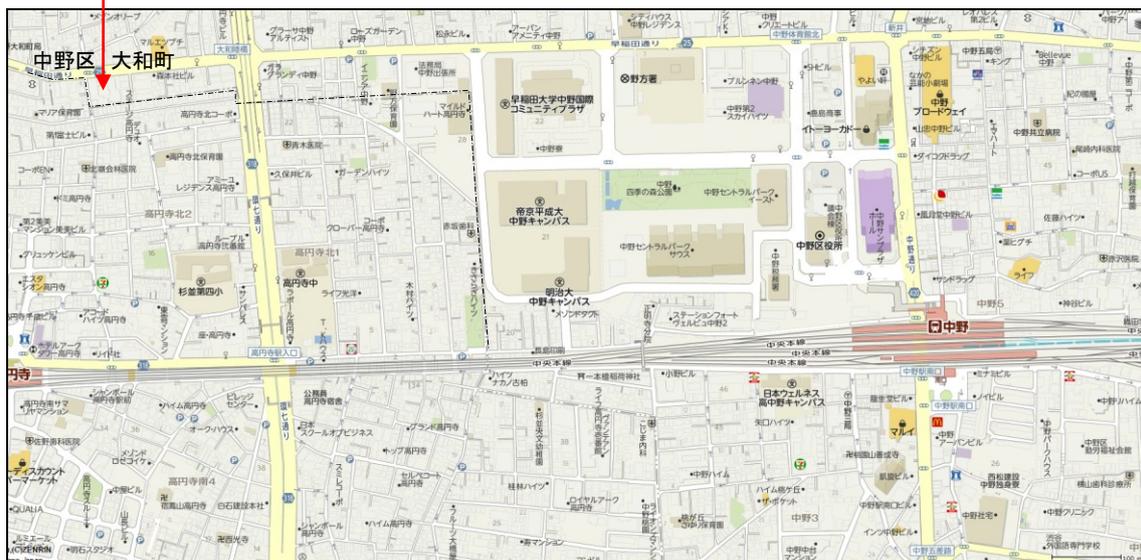
元禄 15 年の御囲い図 右から二、三、四の御囲いと西側の土地 (上沼袋村)

—この土地が中野区と杉並区との境、中野区大和町 1 丁目 66~68



明治 13 年の同上部分地図

中央線の位置



平成 27 年地図 御囲いに警察病院、大学、四季の森、体育館、区役所、サンプラザ

官製地図に載る大場村

幕府の命で、天保時代（1838年頃）四度目の全国地図が作成されました。これに、大場村が上沼袋村とは別に載っています。上沼袋村枝郷と添え書きがあります。一里塚のある通りは成木街道（青梅街道）です。



大場村（現在の大和町）近郊の詳細地図

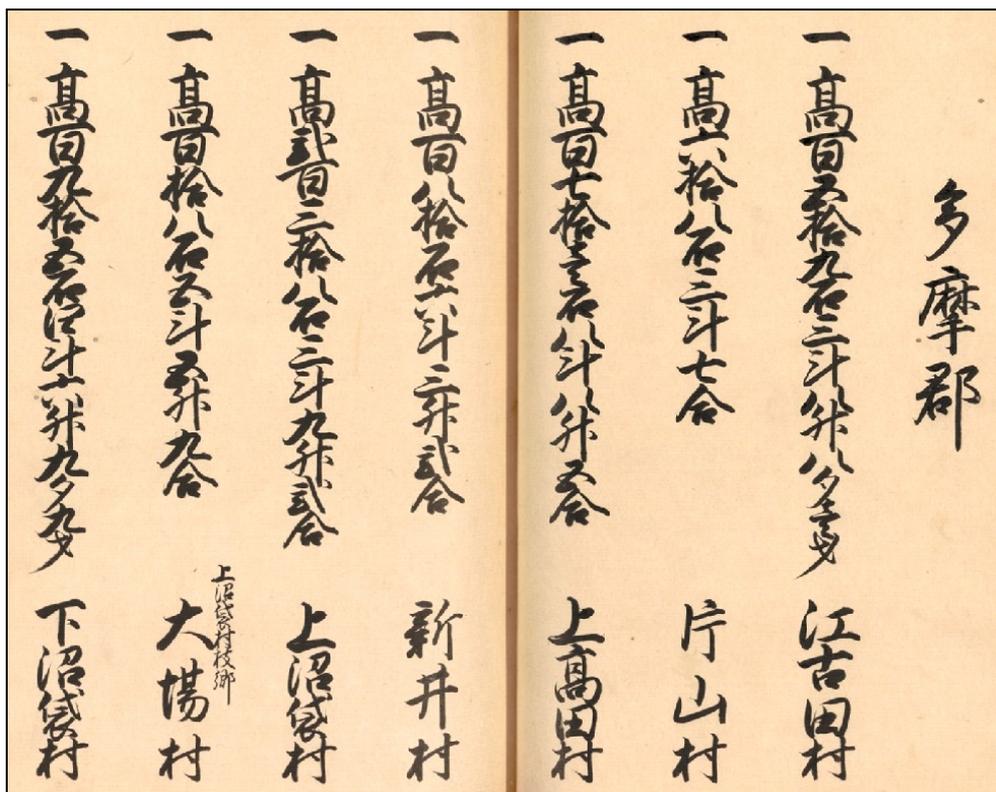
近隣の村は時計回りに北から、下鷺宮村、上沼袋村、新井村、高円寺村、馬橋村、阿佐ヶ谷村と今とほぼ同じで、下図の御城江戸城（四谷門）から内藤新宿、中野村を通り約2里半の距離



天保6年（1835年）作成が命じられ天保9年に完成（部分） 国立公文書館

天保郷帳

天保郷帳は、松前島（北海道）から琉球（沖縄）まで
国郡ごと各村の石高が記載されています。



武蔵国郷帳 多摩郡 上沼袋と並び枝郷大場村 石高百拾八石



環7通りの東側
早稲田通りから
横丁の入り口の
商店街の看板



バス停のサインに
大新横丁と大場通り

大場村はその後、上沼袋村となり（上沼袋村の大場以外は下沼袋村へ）大場の地名は消えます。
でも、よく見てみれば、大場通り商和会、大場通りバス停、大場川（妙正寺川）、大場通り（早稲田通り）、大新横丁（大場村と新橋村を通る道）、三丁目には大場診療所、などに当時の地名が残り、地元で長く住んでいる人達の中には、いまだに、大場の名称を使っている人もいます。

武蔵国多摩郡の項に上沼袋村と並んで大場村が出ています。国の重要文化財である資料に、名前が出ていることはなんと素晴らしいことです。



天保郷帳(重要文化財)

全 85 冊の内の
武蔵国郷帳上の表紙

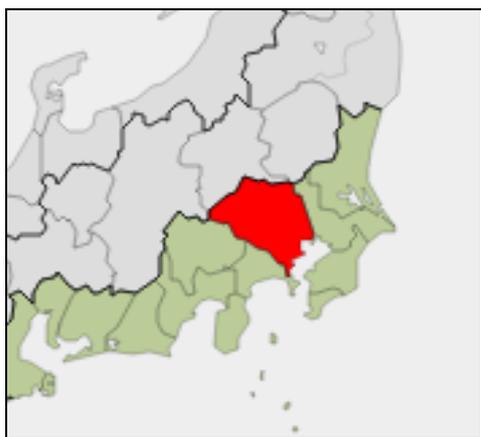
(国立公文書館蔵)

三項 明治時代 江戸から東京へ

慶応四年・明治元年（1868年）日本国に革命が起きました。徳川幕府の崩壊、明治維新です。天皇を頂点とする明治政府が発足したのです。

新政府の役人は、各地の藩から、お殿様の権限を剥奪して、新しい統治組織・府県を設置し管理者・府県知事を任命しました。

廃藩置県です。上沼袋村枝郷大場村を包括する多摩郡はどのようなのでしょうか、それより多摩郡を包括する武蔵国はどうなったのでしょうか。



武蔵国（江戸時代 赤色部分）
明治になる前までの武蔵国は、秩父、埼玉、神奈川（横浜、川崎）にまたがる、大きな国でした。周りには、相模、甲斐、信濃、上野（こうづけ）、下野（しもつけ）、下総（しもうさ）、のそれぞれの国がありました

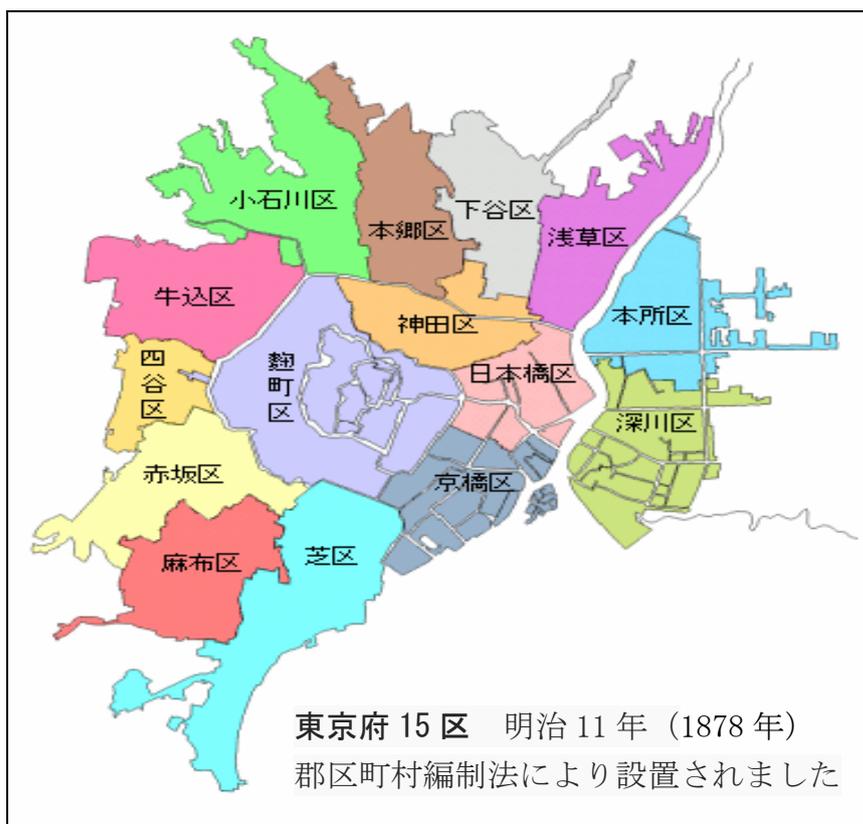
武蔵国から東京府への時代

武蔵国は大きく分けて、東京・埼玉・神奈川（横浜・川崎）に分割されます。しかし政府の施策は揺れ動き、府県の設立、分離、集合が繰り返されます。

何故なら、反対運動や陳情が各地で勃発したからです。権力者どうしの利権の衝突もあり、やっと現在の基礎が出来たのが、明治十年（1877年）頃です。

江戸城を囲む地域（山手線内側と隅田川沿岸）は東京府に、その西側の幕府直轄地は武蔵知県事の管轄に、南は品川、北は小菅（元小菅刑務所）現在東京拘置所にその名があった）となりました。長浜（滋賀県の飛び地、世田谷区あたり）まであったのです。

埼玉県となるのは大宮、浦和、入間、忍、岩槻、川越など十数ヶ所の藩がそのままとなりました。武蔵国であった横浜・川崎は神奈川県に入りましたが、町田など多摩川沿いの地域はどちらに所属するか随分と揉めた様です。（多摩川・玉川上水を含めた水利権の取り合いがあったからです）多摩郡は、武蔵知県事管轄になりましたが、一年で品川に包括されます。明治二年（1869年）のことです。それから二年も経たずに品川・小菅・長浜は東京府に統一され、多摩郡も東京府になりましたが、今度は一年



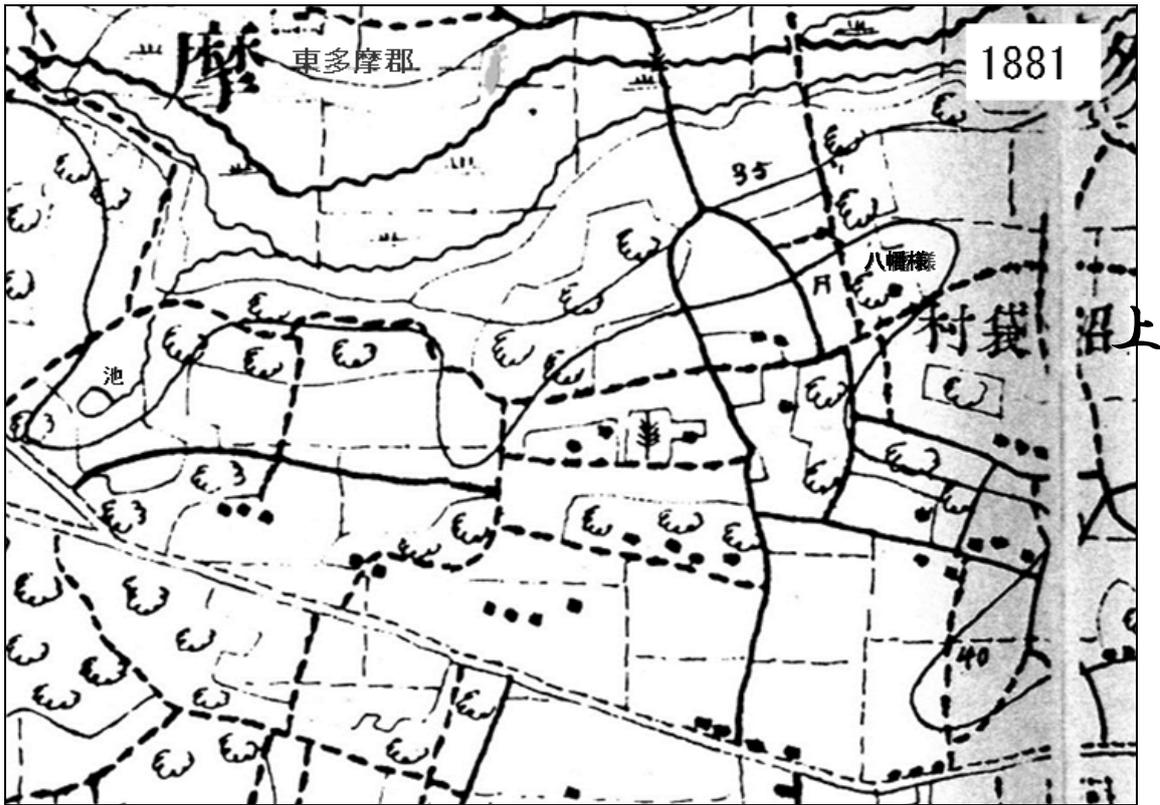
弱で、上沼袋村を含む多摩郡東部三十一村が、神奈川県に移管されます。明治五年一月のことです。これには反対運動、陳情などが激しく起きて、再び同年八月、東京府の管轄に戻ります。これらは、わずか三、四年間の激変です。



八幡神社前 八幡通りの石塔

武州多摩郡上沼袋村大場の文字が見える
東京府東多摩郡野方村大字上沼袋になる
前の江戸時代の大和町地域の村名

明治十一年（1878年）郡区町村編成令の施行に伴い、東京府には十五区と六郡が置かれ、多摩郡は東多摩郡に編入されます。（六郡：荏原・南豊島・北豊島・東多摩・南足立・南葛飾の各郡）
翌年、東多摩郡の江古田・片山・上高田・新井・上沼袋・下沼袋・上鷺宮・下鷺宮の八村は、市町村制施行に伴い「野方村」となります。
それまでの各村は大字（おおあざ）で示されます。野方領と呼称されていた「野方」が正式の地名となったのです。
現在の和町あたりは「東京府東多摩郡野方村大字上沼袋」となりました。



上沼袋村大場の区域を示す最古の測量図 明治14年（1881年）鳥居が八幡神社

上沼袋村

明治十四年（1881年）作成の地図（最も古い測量地図と思われる）を見ますと、等高線が引かれ八幡神社が高台にあるのがわかります。黒い印は民家です。

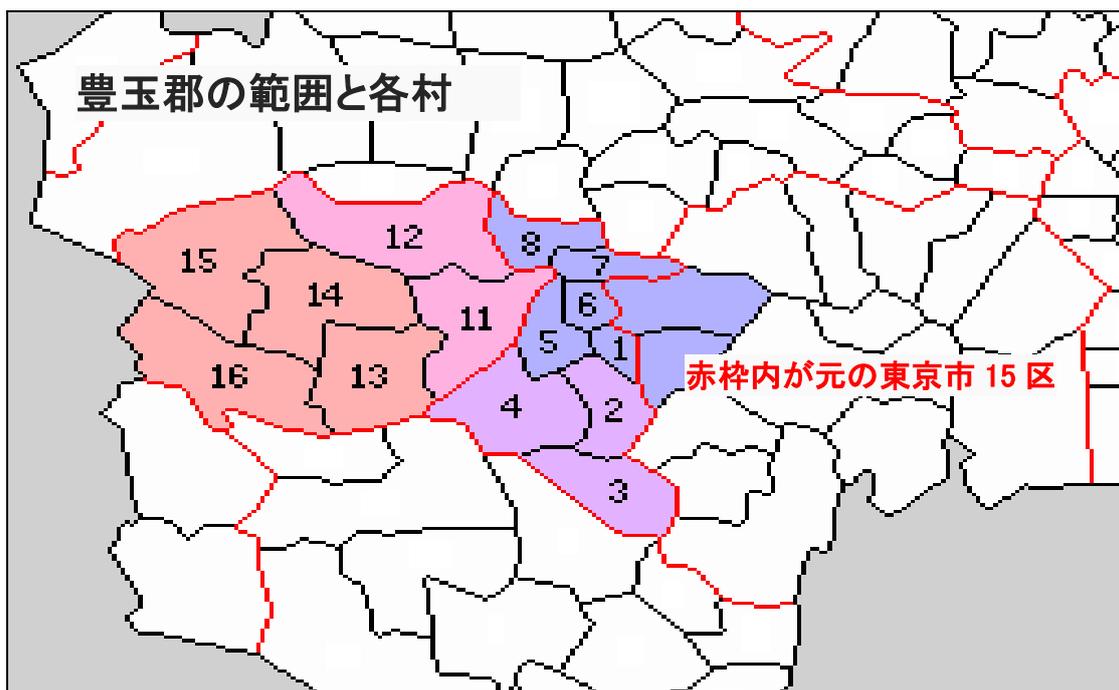
新編武蔵風土記稿の上沼袋村枝郷大場村の項

「：地形平衡にして陸田多く水田少なし、民家三十六軒 此処に散在せり：」の記事が浮かんできます。

明治二十二年（1889年）市制・町村制が施行され、中野・本郷・本郷新田・雑色の四村が「中野村」となります。「野方村」は八村ですすでに構成されていましたが、改めて野方村の地名が確立します。それまでの村名は大字で表示されるようになります。

（八村・江古田・片山・上高田・新井・上沼袋・下沼袋・上鷲宮・下鷲宮の各村）

この時、野方村の村長が上沼袋村大場から出たことで、入会権などを含む諸問題が表面化し、大場が上沼袋となることで決着します。大場以外の上沼袋は下沼袋に移り「大場」は正式地名でなくなり通称となります。



現在の区 青:新宿区 紫:渋谷区 赤:中野区 橙:杉並区 豊玉郡各村 1.内藤新宿町
 2.千駄ヶ谷村 3.渋谷村 4.代々幡村 5.淀橋町 6.大久保村 7.戸塚村 8.落合村
 11.中野町 12.野方村 13.和田堀内村 14.杉並村 15.井荻村 16.高井戸村

東多摩郡から豊玉郡野方村へ

野方村・中野村が包括される東多摩郡は、明治二十九年（1896年）南豊島郡と合併して豊玉郡となり、「東京府豊玉郡野方村大字上沼袋」の発足です。

明治三十年（1897年）中野村は町制施行に際し「中野町」となりますが、野方村はそれよりはるかに遅い大正十三年（1924年）に「野方町」となります。このことが、後の区名設定のとき遅れをとったものとなったのでしょうか。

明治三十一年（1898年）東京府は十五区を東京市とします。

中野町・野方村、はその中に入らず、東京府豊玉郡のままでした。

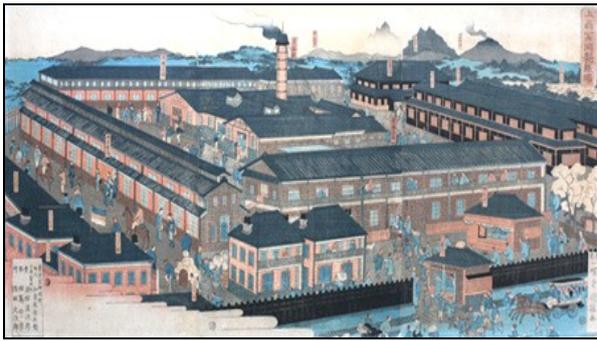
東京市役所

当時麹町区有楽町にあった、東京府庁との合同庁舎鉄骨レンガ二階建造
 現在この場所には、東京国際フォーラムがあります

文明開化、変貌する世の中

新政府の人々が、新しい文明を諸外国から取り入れようと必死になっていたのは、諸々の文献や記録で垣間見えますが、野方村大字上沼袋まで文明開化は押し寄せたのでしょうか。明治五年（1872年）新橋〜横浜に鉄道が開通しました。同年、富国強兵の担い手としての国策事業、富岡製糸場が開業しています。（平成二十六年世界文化遺産に登録）

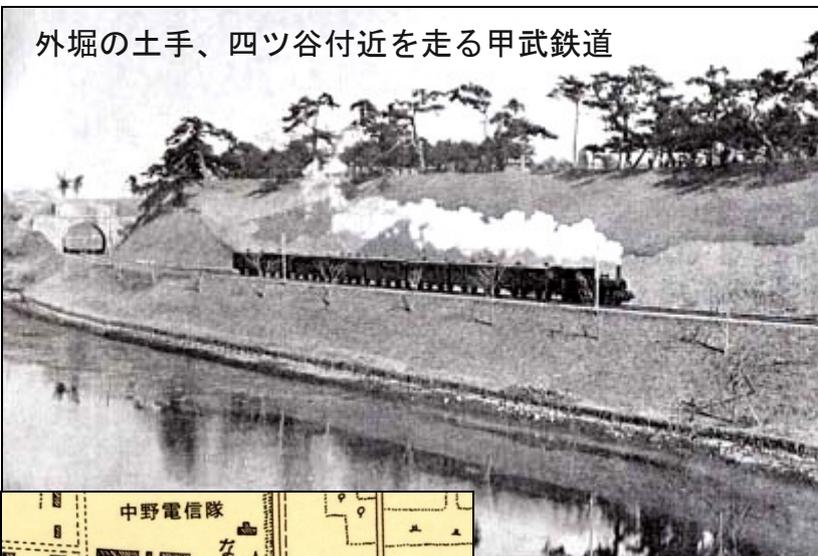
またこの頃、自転車が始めて輸入され、野球も日本に入ってきました。同時期に、パン、あんぱん、チョコレート、アイスクリーム、鉛筆等が世に出されています。



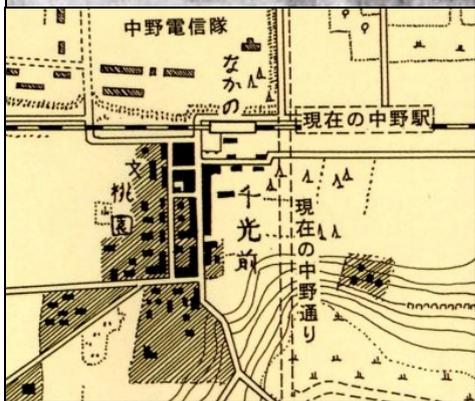
錦絵「上州富岡製糸場」 (明治5年)



横浜蒸気出車の図 (明治5年)



外堀の土手、四ツ谷付近を走る甲武鉄道



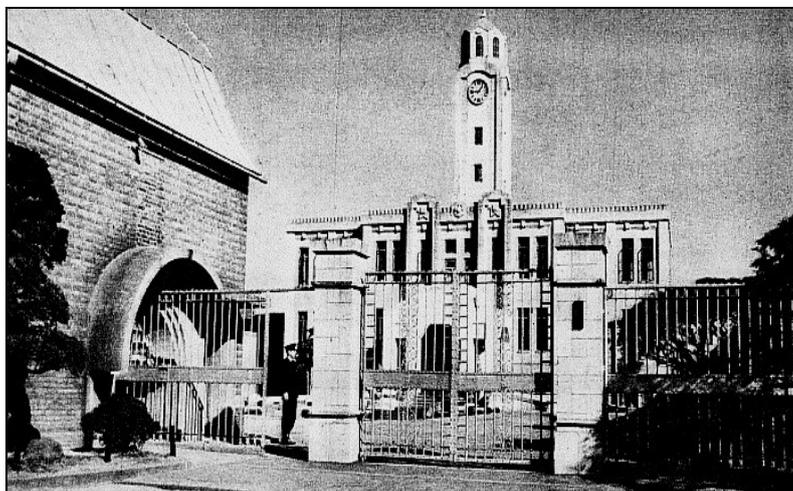
当時の中野駅

明治二十二年（1889年）甲武鉄道（現在の中央線）新宿立川間が開通し、中野駅が出来ます。しばらくして中野駅周辺には、鉄道第一大隊・電信隊・気球隊などの軍事施設が移転し、また新設されたりします。ちなみに高円寺駅はそれから三十二年経った大正十一年（1922年）に開設されました。

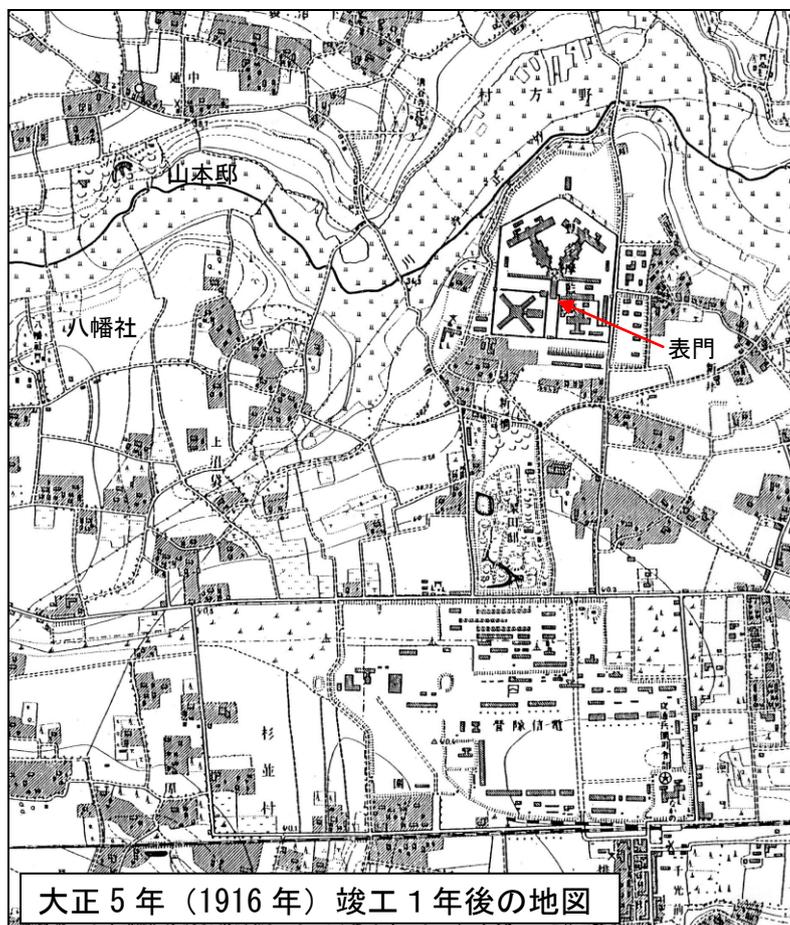
豊多摩監獄

今は平和の森公園となっている豊多摩監獄（旧中野刑務所）は、大和町の東の、妙正寺川沿いにありました。

その刑務所が、市谷から移転してきたのは、明治四十三年（1910年）のことです。四万坪に及ぶ跡地は現在公園の他に法務省矯正研修所東京支所となり、敷地内に当時の監獄の表門が保存されています。



表門 刑務所は取り壊され、門だけ残されています



調べて見るとこの刑務所は、近代日本が世界に対して通用する司法を、形で示す為に建設したという時代背景や、その後の戦争で収容されていた人々の多くが思想犯であった事実など、日本の生々しい歴史を知ることが出来るのです。

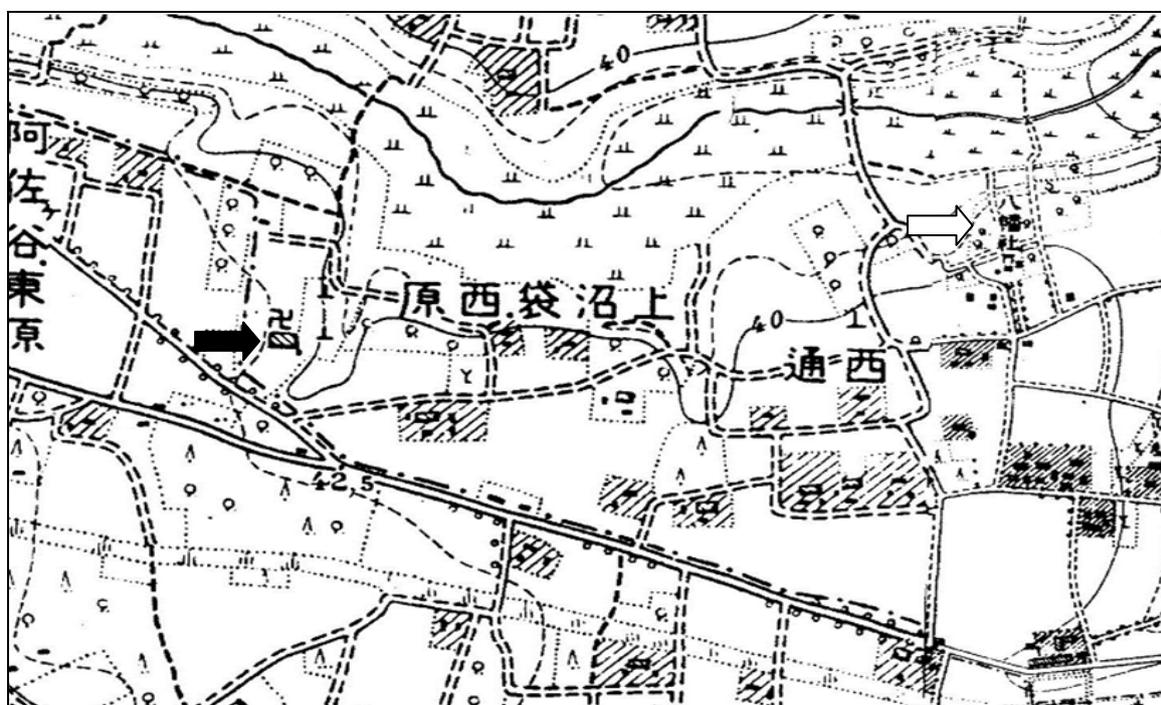
表門が保存されているのは、後藤慶二という日本の未来を嘱望されながら夭逝した建築家の、ただひとつ残された貴重な作品で、建築学会からの強い保存の希望もありました。但し現在、研修所の移転と、その後の小学校の計画が中野区から出されており、新しい形での保存運動が起きています。

蓮華寺

泉光山（蓮華寺）が、武州関口（文京区関口）から寺席移転されたのは、明治44年から大正3年（1911～14年）にかけてのことでした。増山家のみならず、檀家を納得させて墓を移すのにも、やはり時間を要したと思います。

境内の池は、お伊勢の森の泉（現在杉並区立杉森中学校）から引き込まれた灌漑用貯水池で（竜頭の池）と称されていました（415頁）。蓮華寺と言う名前の寺はここだけではありませんがこのお寺の地元の人呼び方は「れんげじ」ではなく「れんげんじ」です。もし「れんげんじ」と呼んでいたら、その人は大和町に昔から住んでいる人に違いありません。蓮華寺は日蓮宗の大寺で、万治元年（1658年）本門寺十四世日優上人によって小石川関口台（文京区）に開基されました。そのいきさつは、四代將軍家綱が出生の時、大変な難産であったのが日優上人の祈願で無事に済み、これを感じた生母お楽の方とその母（泉光院）の寄進により、泉光山蓮華寺が建立されたということです。なお、お楽の方の弟の家系が、増山家です。

現在地の山門に掲げられている「泉光山」の額は江戸時代の儒者・書家「細井広沢」の筆になるもので広く知られています。



明治42年(1909年)上沼袋村の地図  卍印蓮華寺が既に載っている
この地図の5年後の大正3年(1914年)に寺席移転完了  は八幡神社



本堂の脇には「山荘の碑」があります。 (写真下)
 山荘とは切支丹を弾圧した江戸幕府の奉行、井上築後守の別邸で、ここに切支丹を収監しました。このとき獄死した人々の哀話を、間宮士信が撰文して、文化七年(1810年)に碑としました。

泉光山蓮華寺の山門 武州関口(文京区関口)蓮華寺にあった山門で、ここに移築されたものです



満願寺

大和町には、お寺がもう一つ、一丁目にあります。時代は必ずしも一致してはいるわけではありませんが、満願寺浄土真宗大谷派の寺で、大和町に二つしかない寺の一つです。昭和二年(1927年)新潟出身の釈周導氏が開基、現在の住職は二代目です。



我が国の文化史上重要な歴史を物語っているといわれるこの碑は、山荘から関口の蓮華寺へ移され、寺の移転と共に現在地に來ました。

公立学校の誕生(啓明小学校の前身が出来る)

政府は明治五年(1872年)文明開化の象徴的な政策である国民皆学を掲げた学校制度「学制」を公布し、寺子屋教育を廃止して近代教育への道を拓きました。

全国津々浦々に学問を普及させ、どの村にも、どの家にも学校へ行かない人がいない様になると謳いましたが、学校の建設・維持・運営の莫大な費用は村の負担でした。

しかし人々の教育への熱意に支えられ、明治時代の末には全国で、二万七千校も開校していたのです。就学率はほぼ100% (政府発表) に達しました。

政府の当初計画は、五万四千校ですから、半数建設されたわけです。それにしても明治の人達はえらいものです。

明治八年(1875年)中野村で始めに出来たのが「桃園学校」です。周辺二十一村の児童が集まりましたが、始めは宝仙寺の本堂が校舎でした。後の中野区立桃園小学校です。

明治十五年(1882年)桃園学校は分割して一方は「沼畔小学校」になります。明治三十六年(1903年)沼畔小学校は「野方尋常小学校」と改称、二年後「野方尋常高等小学校」となりました。

大正十五年(1926年)野方尋常高等小学校は自身を含めて、三校に分割されます。その二校とは、

東京府豊多摩郡野方第四尋常小「後の上高田小学校」と東京府豊多摩郡野方第五尋常小「後の啓明小学校」です。



東京府豊多摩郡野方第五尋常小学校 (後の啓明小学校)
落成開校記念写真 中央のバルコニー前で大正15年(1926年)

当時の児童数は375名と記録されています



第1回卒業記念写真帖校舎全景 昭和2年（1927年）3月野方第五尋常小学校

女子はお茶の勉強
和室がありました

男子は理科の実験
ダルマストーブの煙突

半数が和服すがたです



市外野方町字上沼袋五一番地



四項 大正時代（明治末から昭和初めまで）

幻の中野飛行場

明治四十二年（1909年）の地図（2124頁）を見ますと、大場通り（早稲田通り）の南側に広い道路のようなものが点線で描かれています。陸軍鉄道第一大隊・電信隊・気球隊などの訓練地で幅三十メートル長さ三キロにわたり、現在の日大二高辺りまでありました。

鉄道大隊が千葉県に移設したのち、陸軍の気球隊・飛行隊本部となりましたが、この軍用道路（鉄道隊演習用地）の道幅を広げ滑走路とし、飛行機の格納庫用地（現在の馬橋公園・馬橋小学校・元電話局）も確保し、飛行場を建設する予定でした。しかし、この計画は立川に広大な飛行場が建設されることとなり幻と終わってしまいました。しばらくは草ぼうぼうの空き地が残っていたそうです。飛行場が実現していたら、大和町辺りもずいぶんと変わっていたことでしょう。

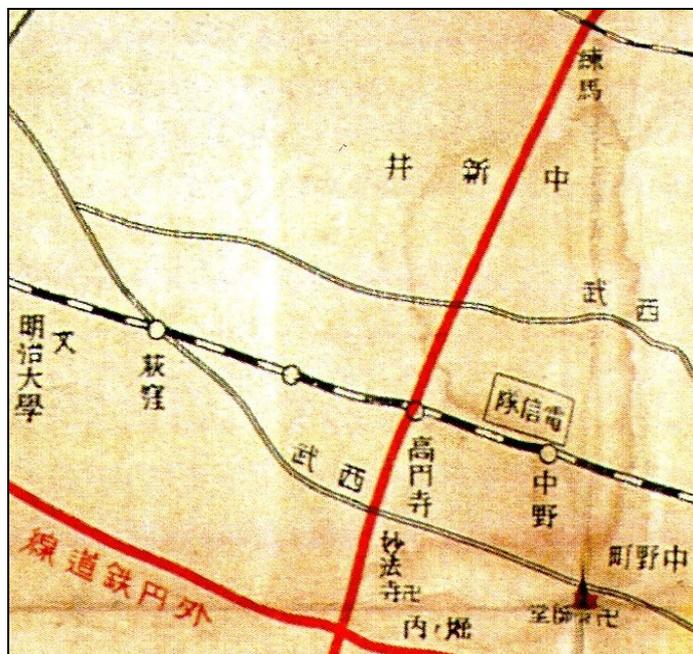
幻の外圓鉄道

今日でも東京環状線の鉄道は、山手線の外側には武蔵野線しかなくやや不便です。

しかし、この頃すでに第二山手線計画があったのです。羽田を起点に大森・洗足・駒沢・高円寺・練馬・上板橋・赤羽・鐘淵から終点洲崎（江東区）と壮大な計画です。高円寺・練

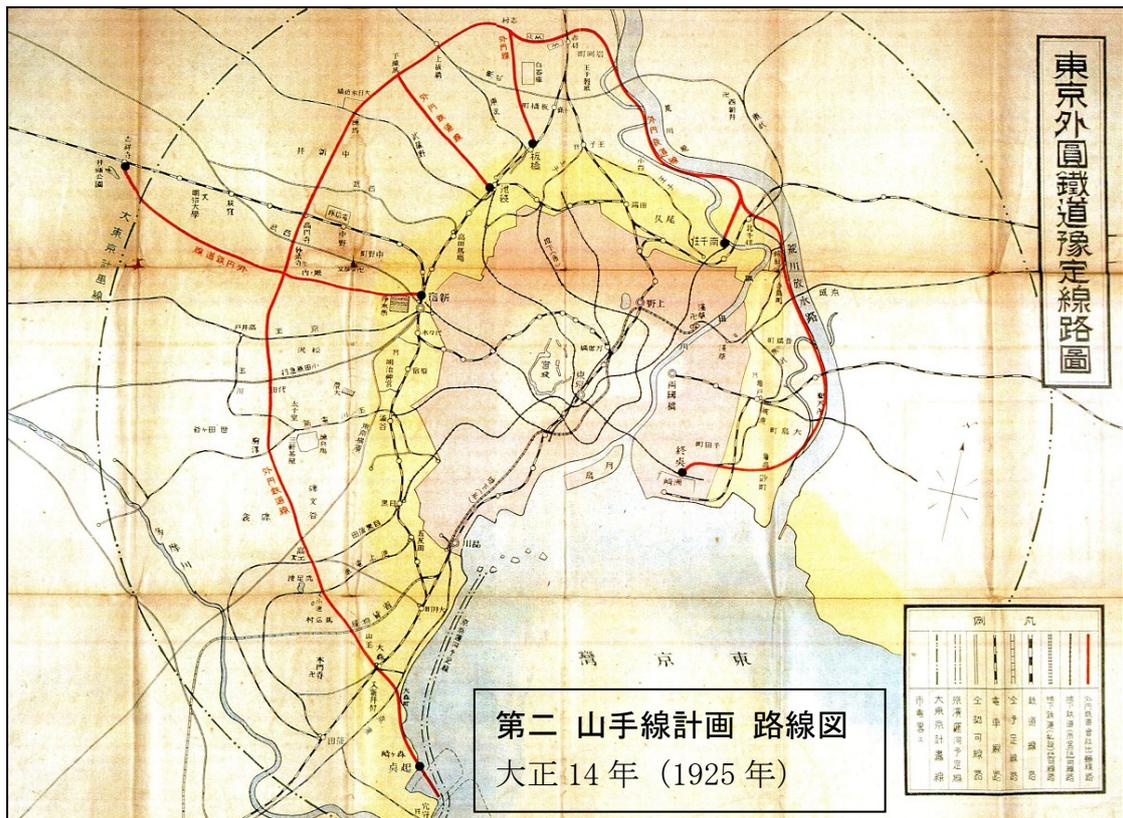
馬間は完全に大和町を縦断しています。これが実現していたら大和町は完全に「副都心」となっていたでしょう。この計画は民間企業「東京山手急行電鉄」が起案したのですが資金難で頓挫、後にこの会社は小田急電鉄に吸収されます。

しかしこの思いは、現在の環状七号線・道路と変身してしまいました。実現しているような気がします。鉄道が出来て「大場」なんて駅があったらなど考えると楽しくなります。



左上の地図の、高円寺/大和町部分拡大図

高円寺から練馬にいたる東京外圓鐵道線の予定路線は、現在の環七通りとほぼ同じでした



豊島懸垂電車 想像？写真
上野動物園モノレールと
昭和初期の妙正寺川

幻の日本初のモノレール計画

飛行場も、第二山手線も実現していたら、大和町はずいぶ違う町に成っていたことでしょう。この頃もう一つ面白い計画がありました。大和町辺りには直接関係はありませんが「日本初のモノレール計画」です。

武蔵野鉄道（現西武鉄道）が豊島園へ客を運ぶため計画したのが（豊島懸垂電車）モノレールです。新宿・柏木・落合（妙正寺川の上を通って）哲学堂・江古田（江古田川沿い療養所の北側）練馬・豊島園の経路です。川の上を通るのが問題となり実現しませんでした。それとも採算が取れないと判断したのでしょうか。

人々の生活

郷土史研究家伊藤順氏が昭和五十二年東京府豊多摩郡野方村「上沼袋の今昔」を編集され、そこに当時の人々の生活や風景が生き生きと表現されています。文明開化の波もまだ押し寄せていない田園風景がありありと浮かんできます。(以下抜粋してその内容を記載します)

「歴史」

我々の祖先がこの地に定住し始めたのは、鎮守の八幡神社と共に古くおそらく九百年を経ていることかと思われれますが、確かな記録にあるものは江戸時代も元禄以降になります。当地には有名な名所旧跡もなく、貴重な記録、伝承等の古文書類も封建時代の圧政下、後難を恐れて消滅させたものも多く、襖の下張りや製茶用培炉に反故として利用され、又火災による焼失も惜しまれます …

大正五年頃の上沼袋の戸数は、農家三十四、非農家十(万屋一、駄菓子屋二、床屋一、髪結い一、桶屋二、植木屋一、刑務所警手一、馬糧屋一)ほどでした。

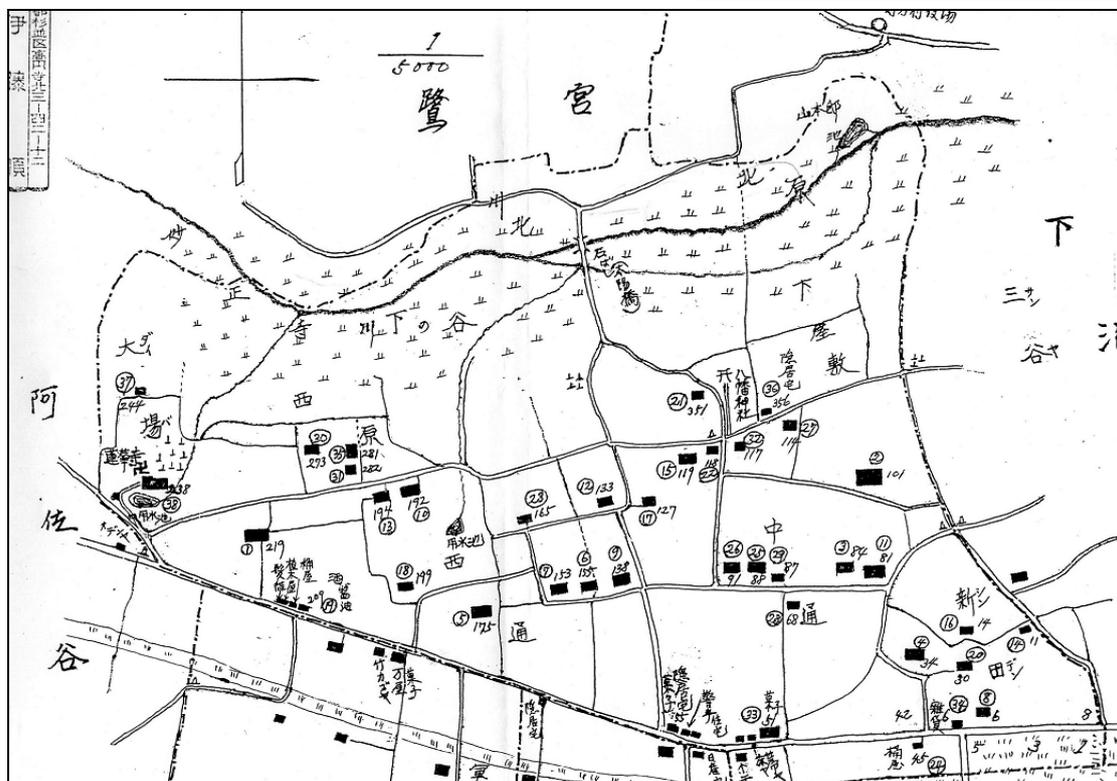
東京府豊多摩郡野方村
上沼袋の今昔
伊藤 順 編集

目次

九 八 七 六 五 四 三 二 一

一 上沼袋の沿革
二 八幡神社
三 蓮華寺
四 山崎のうらり
五 農産物
六 交通文化
七 高田寺
八 新宿物産
九 中野電傳隊
十 習俗
十一 農家の屋敷林
十二 伊藤の歴史
十三 瓜利の歴史
十四 関東大震災の地

34 33 32 29 27 26 24 21 21 19 14 13 10 8 6 5 4 2 1



野方村大字上沼袋の家々 ほとんどが農家 大正5年頃 伊藤順氏作成

「農産物」 産業といえば農業だけです。

穀物類 大方は自家消費で品質もあまり上等とはいえなかった。(台地で農耕用水には不自由な土地で)陸稲、麦、蕎麦、野菜、豆、芋などが中心でしたが、中でも大根とその漬け物が有名でした。

養蚕 当地では明治末まで行われ、石神井、三鷹辺では大正末期までも行われていたようです。

「四季」

春 妙正寺川の水ぬるむ春三月ともなれば、シジミ、タナゴ、鮎、鯰、鰻などとれました。

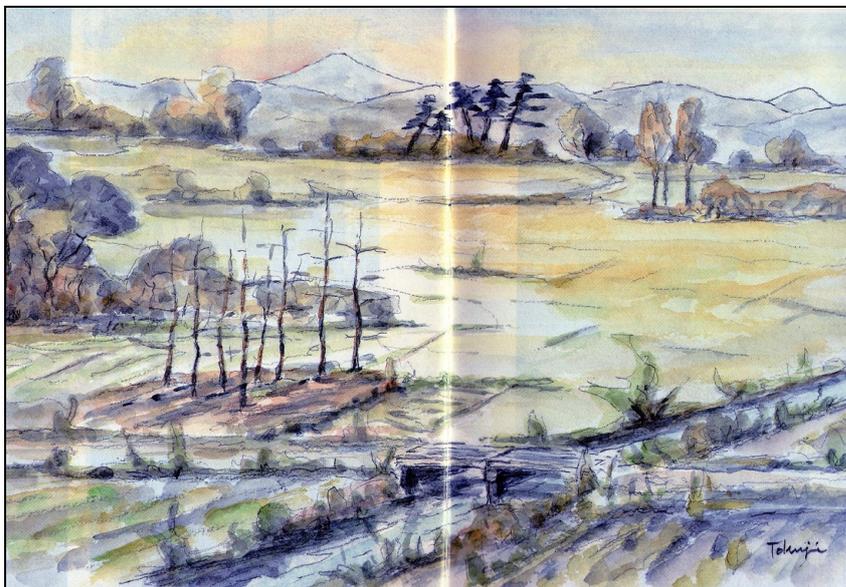
夏 初夏には麦刈り棒打作業、田植え等で多忙でした。お盆休みも忘れられない思い出ですが、この土地では農閑期と称する時期がなく、盆踊りやお囃子は行われず、ただの休暇に過ぎませんでした。

秋 八幡様の祭礼は例年十月十一日で昼は神楽、夜は草芝居が催され、境内の outlet で玩具菓子を買うのが楽しみ

その後祭礼日も一ヶ月繰り上げられました。現在では学校の関係で夏季休暇中に行われております。

冬 北西の季節風が吹く天気の良い日には富士山、秩父連峰が一望に見渡せて :

一月は大根干しや沢庵漬けの作業が忙しかったため新年の行事は月遅れの二月で、これも夏のお盆と同じで、ただの休養の日々でした。



大和町より望む富士山 大正13年頃の記憶

伊藤徳治氏は、青少年育成大和地区委員会の会報の表紙などに当時の大和町風景の絵を数多く残されています

「施設」 (電灯・消防・警察・特定郵便局)

電灯

大正の初期中野駅周辺には電灯がりましたが上沼袋では未だ石油ランプを使っており夜の歩きには提灯が使われていました。

上沼袋に電灯がついたのは大正十年でした。電灯会社が工事を渋り地元でかなりの工事費を負担し穴掘りなどの協力もしたものでした。

消防

上沼袋消防器具(手押し車)置き場

八幡神社の鳥居西側の角地(現地蔵尊東隣)にあつて火の見梯子が松ノ木(現在もある松ノ木)に架けてありました。

警察

明治十四年(1881年)新宿警察署開設

大正十一年(1922年)中野警察署開設

昭和十一年(1936年)野方警察署開設

特定郵便局

大正十三年(1924年)上沼袋郵便局開設

「関東大震災」

大正十二年(1923年)に発生しましたが、大和町は家数も少なく農家の屋敷林、畑なども随所に残っていたので損害軽微、火災もありませんでした。流言飛語に惑わされて不安な数日を過ごしました。やがて多数の被災者が当地にも流入してきまされたので、早稲田通りの酒屋さんの一隅で救援物資の配給を行いました。

品物は米、味噌、漬物、アメリカよりの救援物資の毛布、衣類、その他小麦粉缶詰等で大変喜ばれました。

本橋酒店

△ト(ヤマト)の屋号と、酒樽の並ぶ店構え。大場通り(早稲田通り)に昔からあつて、裏には大王松が見える。

これは明治頃の写真

(3128頁)



「習俗」

東京市の近郊と云う土地柄かあるいは作付け農産物の内容によるのか良く分りませんが、

： 当地では農繁期とか農閑期がなく一年中が忙しく、民謡、盆踊り等は一向に育ちませんでした。：

： 消防活動は各戸を挙げての総動員態勢でしたが村祭り、葬儀等は東西の組合に分れ、富士・大山講なども行っていたので通常は講中が付き合い範囲でした。：

『以上へ上沼袋の今昔』『東京府豊玉郡野方村』から抜粋。一部要約で紹介しましたが、冊子作成当時、昭和五十二年（一九七七年）のことや、江戸明治大正に遡ってのこと柄が「項目」ごとに記載されており大和町の昔を知るには貴重な資料となっております』

「やまと今昔物語」に見る大正時代の和町辺り

「やまと今昔物語」は、中野区大和地域センター（現中野区大和区民活動センター）発行の地域ニュースに、昭和五十七年（一九八二年）から昭和六十四年（一九八九年）にかけて連載された、大和町にまつわる今昔の物語です。

（やまと今昔物語の表紙は、この本の最初の目次の一頁に、掲載されています）

「本」の発行は平成三年（一九九一年）です。

内容は、明治時代後期から大正、昭和時代後期に至る、自然・文化・生活・教育など多岐に亘っていますが、有志の投稿や編集委員の文責などで構成されています。

大正時代の思い出として地元の篤志家・伊藤徳治氏（平成十三年没）が生き生きと表現しています。

（以下、抜粋一部省略、要約意識して内容を記載します）

「川に瀬（かわうそ）がいた」

今では絶滅しかけている瀬をその昔大川（大場川・妙正寺川）で見たような気がする。私が小学校三、四年の頃（大正十三、四年）だと思う。

今の大和小学校の西へ一寸行ったところで、川は大きくカーブしていた。

この記事を書くにあたり、古い人に確かめたところ

「この辺りに瀬（かわうそ）の釜

（古くて底がなく何処かへ通じているような溜まり）があった」と話してくれた。

「タナゴ、ハヤを釣る」

この辺りは子供たちの格好の釣り場であり泳ぎ場であった：
：

岸に腹ばいになり深い川底を見れば、鼻こぶは白く腹は玉虫色のタナゴの親分格が：何とか釣ろうと（以下略）



昭和初期の大場川 妙正寺川の清流（下谷橋附近）

「狐」 矢島銀蔵氏寄稿 啓明小開校五十周年「啓明」より

私が小学校の頃、明治四十年頃は、東京府豊多摩郡野方村大字下沼袋三谷と称した。その頃は農家が十一戸と、秋えと言うおばあさんの家が、三谷稲荷の東隣の藪の中にあつた。（中略）

墓石の下にキツネが穴を掘っていたのを覚えている。

夕方になるとキツネが出てきて農家で放し飼いにしている鶏を捕まえるので、キヤッキヤ声をして、またどこかで鶏を取られたと話になった。夕方近く家の中に追い込んで、小屋に入れる様、心がけたものだ。

「藍」

明治の末期ごろは、畑が六割位、田は妙正寺川の両脇に全地域の五分そこそこであつた様だ。その他は竹藪と、檜と樫の雑木林であつた。

宅地は、大麦の脱穀のため広さが必要だつた。

以前は大部分が藍を耕作したため、その葉を晴天の日を選んで乾かすのに、どうしても日当りの良い広い庭が必要だつた。

藍の栽培は、私の家では明治の終わり頃までであつたが、その後も近所の農家から藍を買い集めて、かなりの利益を得た様だつた。



野方村は中野町より豊かだった？（大正初期）

大正四年（1915年）上沼袋の戸数は四十四（農家三十四、非農家十）であると伊藤順氏は「上沼袋の今昔」で述べていますが、新編武蔵風土記稿の上沼袋村枝郷大場村の項「……地形平衛にして陸田多く水田少なし、民家三十六軒此処に散在せり……」の記事を思い起こすと、



鷺ノ宮駅から南に行き鬱蒼とした屋敷林の中に今も残る江戸時代の茅葺屋根の民家大和町ではないけれど△ト酒店 大場と書かれた徳利がこの家の庭で発掘されました

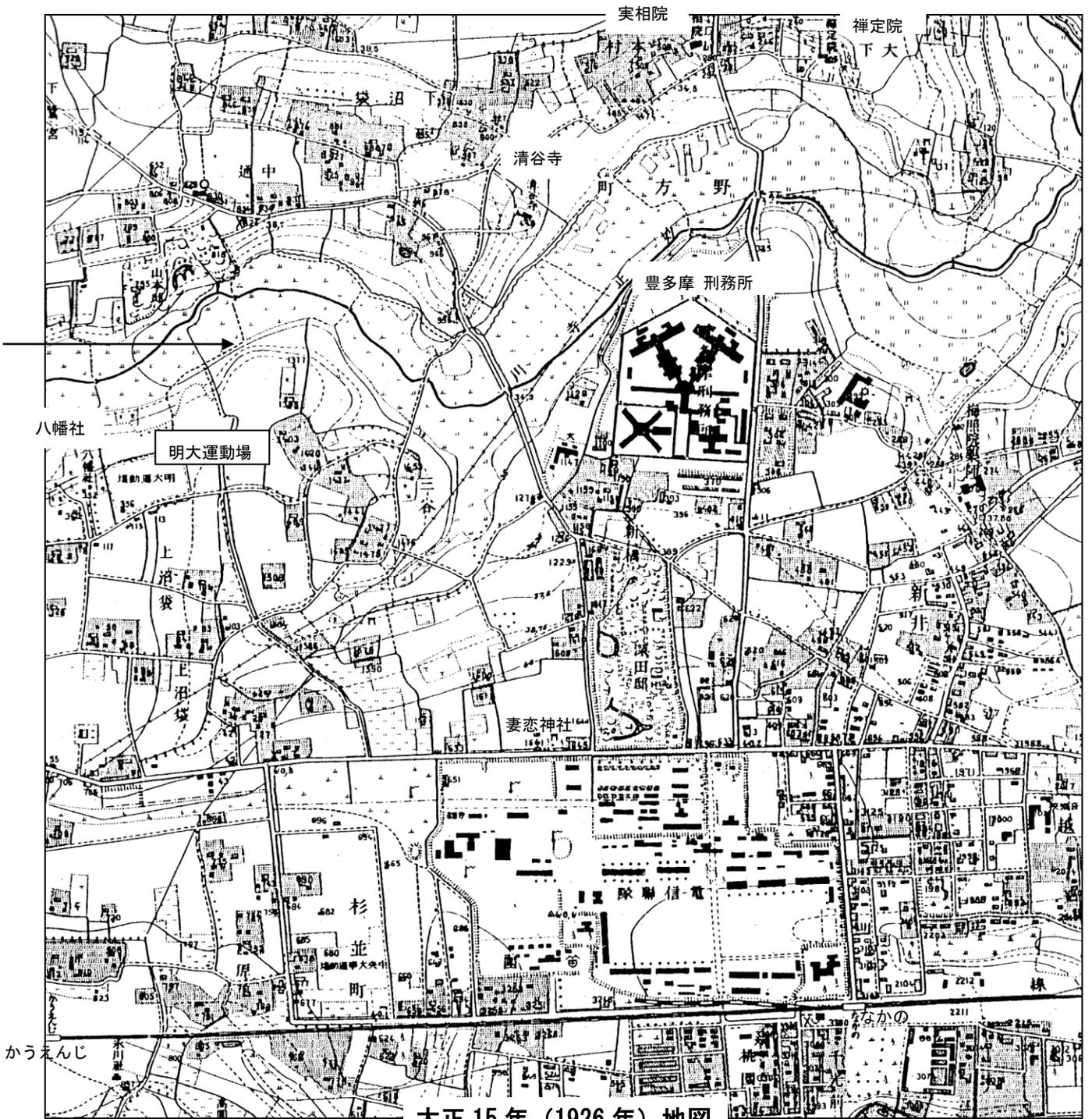
文化年間（1810年頃）より百年あまりの間上沼袋（大和町あたり）の戸数に大きな変化は無かったようです。

同時期、上沼袋を含む八村で構成される野方村の戸数は、七百八十九と中野区史に記載されています。一方中野町は二千六百九十一と多く、村と町の差が圧倒的についています。非農家戸数は、野方村二百二十に対し中野町二千三百でこの数字を見ると発展の度合いの差が良くわかります。（二戸あたり五人〜六人が東京郊外の平均）

推定人口、野方村四千四百人 中野町一万五千人に対し、東多摩郡郡会議員（定員十五名）は、野方中野同数の一名ずつでした。

当時選挙権者は「直接国税三円以上納めるもの」被選挙権者は「五円以上」と決められており、選挙権者（有権者） 中野町三百六十一 野方村三百三 被選挙権者 中野町三百十九 野方村二百四十五と人口の少ない野方村のほうが、高い割合となっています。農業戸数は、野方村四百六十九 中野町三百九十一ですから、農業者の国税納入率は他の職業より高かったと類推されます。

しかしこの人口も、関東大震災の起きた大正十二年（1923年）以降、被災者が続々と郊外へ移転してくるに及んで、激増することになります。



大正 15 年 (1926 年) 地図

新道（大新横丁）の開設

大正十二年九月の関東大震災で被害にあった人々は東京市の中心に住むことをあきらめ、郊外の安全なところへ住もうとしました。

上の二つの地図は大正十五年と昭和四年の大和町東部の地図です。わずか三年の違いの地図を見比べると住宅密集度がまったく違います。

大正十五年には住宅はまばらで、道路は農道だということがわかります。

妙正寺川の北側には野方村役場がありました。上沼袋・下沼袋の南側（早稲田通り沿い）に住む人々は明大運動場の南東側を抜け、中央の農道を通じて野方村役場へ行くような有様でした。この中央の通りを境に西側は大場村、東側は新橋村という村意識が残っていたようです。



昭和4年(1929年)地図

ところが昭和四年の地図で南側の上沼袋・下沼袋にはたくさん住宅ができました。

数年の間に大きく変わりました。人口も増えたので、役場へ向かう人も増えたのです。

明大グラウンドがなくなり、明大グラウンドの近くには野方第五尋常小学校ができました。

大正十五年の地図では途中で切れていた中央の農道が昭和四年には野方村役場に接続されています。この中央の通りを大場村と新橋村の頭文字をとって、「大新通り(大新横丁)」と呼ぶようになりました。

よく見ると、西武鉄道村山線が二年前の昭和二年に複線で開通し、野方駅、鷺ノ宮駅が開業していることがわかります。

なお、その後の大新横丁については、「大和町を分断する環七通り」にまとめています。

(4-4頁)

開設記念碑

この道の建設と妙正寺川に架かる橋の建設に関しては、環七通りの新沼栄橋脇に今も建っている、大きく立派な石造の「沼栄橋、新道開設記念碑」に、大正十四年五月建之の銘と共に、その詳細が記されています。

新道には上沼袋、下沼袋と沼の字がつく二つの村が、共に栄える様にと思いを込めた沼栄橋がかかり、当時の山本邸を通り、野方村役場、野方駅に続きました。

沼の字がいつしか昭の字に変わり沼栄橋と呼ばれ、今も環七通りに架かる橋の名前は新沼栄橋ですが、この記念碑が見守る公園は、沼栄橋公園として整備され、洪水の場合、環七地下貯水槽への取水口の役をして、大和町を守ります。

同じ頃、大和町中央通りの延長もなされているはずなのですが、この様な記念碑はありません。

記念碑にはその開設に尽力された方々の名前が、力強く刻みこまれています。国や都や区が土地を買い取って整備するのではなく、寄付で新道が整備開設されたことがわかります。

沼栄橋新道開設発起人 佐伯辰五郎、矢島祭五郎、伊藤徳蔵

伊藤益五郎(317頁)、矢島太郎吉

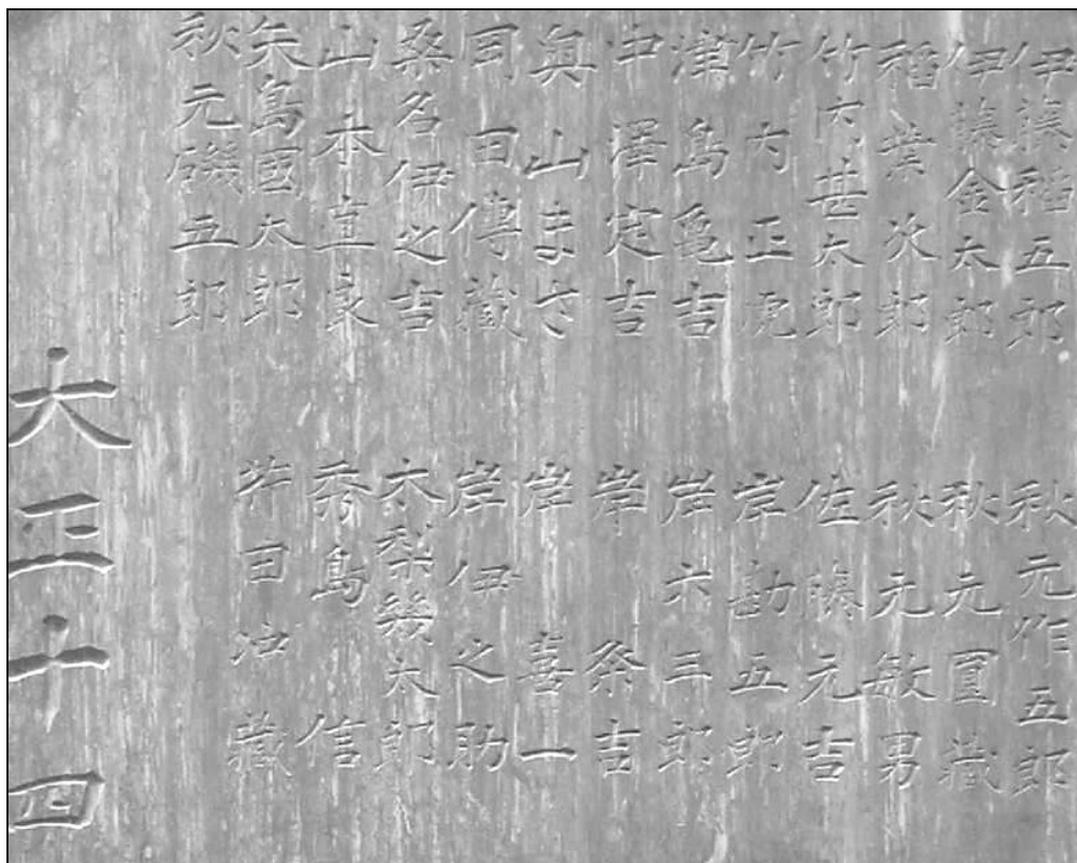
土地寄付者 伊藤稲五郎、伊藤金太郎、山本直良(山本邸当主)、矢島国太郎、秋元作五郎、岸勘五郎(左頁の碑文)

沼栄橋 新道 開設記念碑



環七通りの脇、妙正寺川のほとりに建つ開設記念碑
向う側に沼栄橋公園を望む





大新横丁を走るバス

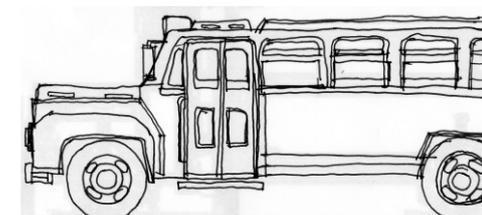
昭和四年（1929年）に野方町役場が開設しました。現在の野方WIZのところ。その二年前に西武鉄道村山線（西武新宿線）が開通、野方駅が開設されましたが、西武線沿線以外の人たちには大変不便なところだったのです。

そのため大新横丁に、バス路線が開通しました。ルートは野方町役場→大新横丁→大場通り（早稻田通り）→中野駅北口です。

中野駅発で、北へ向かうバスは、新井・刑務所経由で療養所へ行くものと、大場通りを経由して石神井へ至る路線があったのですが、大和町を走るものは大新横丁のバスしかなく住民は大変便利な思いをしました。このため大新横丁には立派な商店街も誕生し、多くの人でにぎわったのです。

今残る大新横丁から、往時のことを想像するしかないのですが、あの道を本当にバスが走り、すれ違うことも問題がなかったのかと思えるほどの狭い道です。

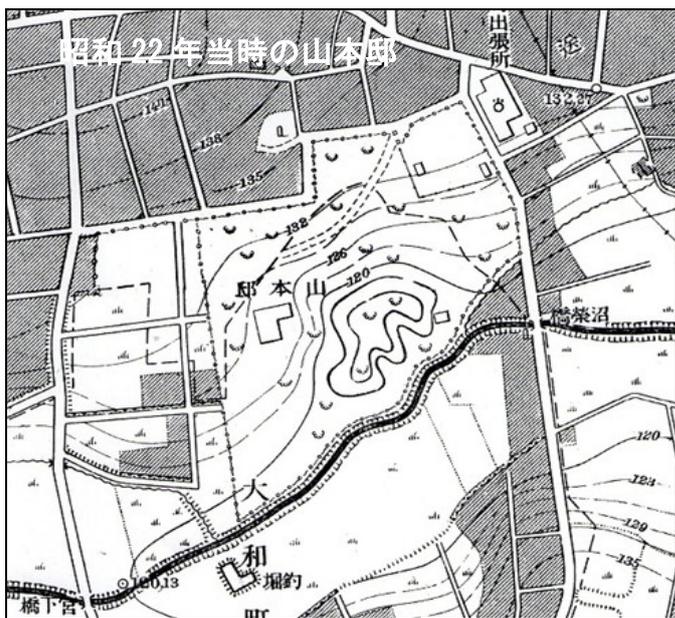
そういえば、今の早稻田通りも中央通りから西も狭い道で、電信柱をこすりながら走っていました。その後のことは四章で説明しますが、環七通りの出現で大新横丁そのものが分断され、バス路線もあの商店街も、当時の面影はありません。



山本邸

碑の建つ妙正寺川の向こう側が、その昔大きなお屋敷の、山本直良氏の邸宅でした。大新横丁の新道の土地寄付者には直良氏の名前も見えますから、そこに続く新しい道の意味もあつたのかもしれない。昔の地図を見ると、山本邸は野方WIZまで続く、広大な御屋敷だつたことがわかります。

当時ここは大和町（野方町字上沼袋）でした。今はURの団地が西側の半分と、東側の御屋敷とに分かれています。



沼袋橋公園から山本邸のあつた東側部分を望む

山本邸の旧地図では、中央が池で建物は西側の高台にありました

山本直良氏は、日本郵船監査、明治製菓役員などの要職を歴任し、軽井沢に三笠ホテルを建設、妻の山本愛は有島武郎の妹という家系です。息子のひとりが指揮者の山本直忠氏で、直忠の長男が作曲家・指揮者の山本直純氏、又もうひとりの息子、山本直正の妻は、与謝野鉄幹と与謝野晶子の二女の、七瀬という家系でした。ですから鉄幹の書簡に、親戚の山本邸で牡丹を見ながら短歌の会の催を開きますとの案内が見え「野方駅から線路の左、二丁の道を行きて右折、山本氏別荘といえはすぐわかります」と書かれています。

建物は大きな洋館だったといいますが、残念ながらその写真は見つけませんでした。但し当時を偲ぶものとして、UR団地の一角に、今でも当時の大きな石灯籠が残されています。



灯籠は、上から宝珠、笠、火袋、中台、竿、基礎と呼ばれます。火袋に彫刻があり割れています。地震の為にようやく中台も上下が逆になっています。

第三章 昭和時代 前半

一項 「大和町」誕生 3・2

立派な道路計画があつた昭和六年
新しい町名「大和町」 棟方志功

二項 変貌する大和町の生活 3・9

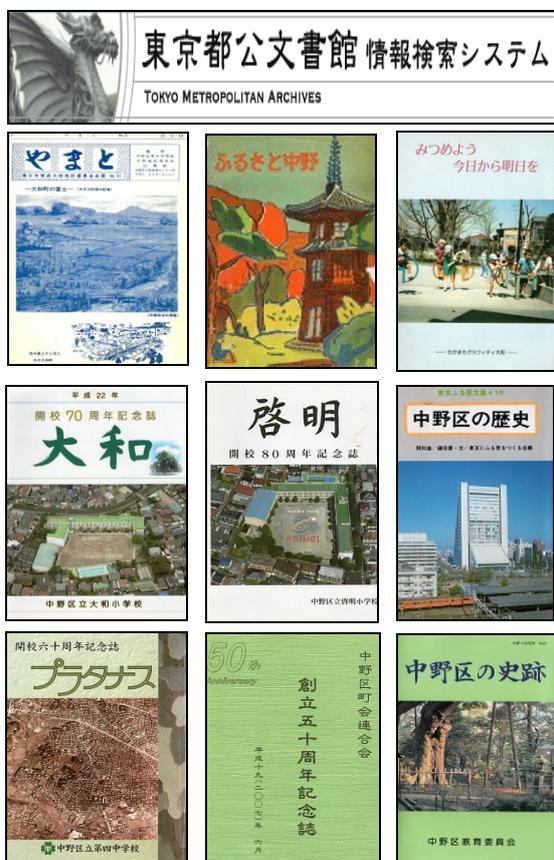
人口増の大和町
人口密度急増の大和町
警察署・消防施設の設定
道路や橋の整備と以前の記録
大和尋常小学校（現大和小学校）開校
尋常小学校が国民学校に

三項 戦禍をくぐつた人々 3・14

学童疎開
東京大空襲
東京府・東京市が東京都に
占領下における諸制度の発布
東京都三十五区が二十三区に
中野区立第四中学校開校
啓明小学校の火事

四項 新しい町づくりを目指して 3・22

古い町会の解散
新しい町会の出発
町会の境界 歴代の会長
大和町の旧番地から見える歴史
写真で見る昭和三十年代の大和町
昭和三十三年の大和町 消防署通り（中央通り）
小説の中の当時の大和町



第三章 昭和時代 前半

一項「大和町」誕生

昭和九年（1934年）「大和町」が誕生しました。東京府東京市中野区大和町です。実は、この「大和町」誕生には



以前の 15 区に中野区を含む 20 区が加わる
昭和 7 年 10 月 1 日

野方町 昭和 7 年東京市中野区へ	
新町名	旧町名
1 新井薬師町	大字新井
2 沼袋北 1 丁目	大字下沼袋
3 沼袋北 2 丁目	大字下沼袋
4 沼袋南 1 丁目	大字上沼袋
5 沼袋南 2 丁目	大字上沼袋
6 沼袋南 3 丁目	大字上沼袋
7 江古田 1 丁目	大字江古田
8 江古田 2 丁目	大字江古田
9 江古田 3 丁目	大字江古田
10 江古田 4 丁目	大字江古田
11 上高田 1 丁目	大字上高田
12 上高田 2 丁目	大字上高田
13 鷺宮 1 丁目	大字下鷺宮
14 鷺宮 2 丁目	大字下鷺宮
15 鷺宮 3 丁目	大字上鷺宮
16 鷺宮 4 丁目	大字上鷺宮
17 鷺宮 5 丁目	大字上鷺宮
18 鷺宮 6 丁目	大字上鷺宮

沼袋南三丁目とある古い表札



ありませんでした)

野方という町名もありませんでした。後に「大和町」となるところは「沼袋南二丁目・三丁目」でスタートしたのです。（野方という町名もありませんでした）

紆余曲折がありました。これに先立つ昭和七年（1932年）東京府は東京市十五区に加え、隣接五郡八十二町村を併合し、東京市三十五区を発足させました。このとき東京府豊多摩郡中野町（現在の早稲田通りの南側）と豊多摩郡野方町（早稲田通りの北側）を合併させた「中野区」が発足したのです（落合町も合併計画に含まれていたのですが、実現せず淀橋区へ編入されます）中野区七十八町が発足しました（旧中野町は六十、旧野方町は十八）しかしその中に「大和町」はありませんでした。後に「大和町」となるところは「沼袋南二丁目・三丁目」でスタートしたのです。（野方という町名もありませんでした）

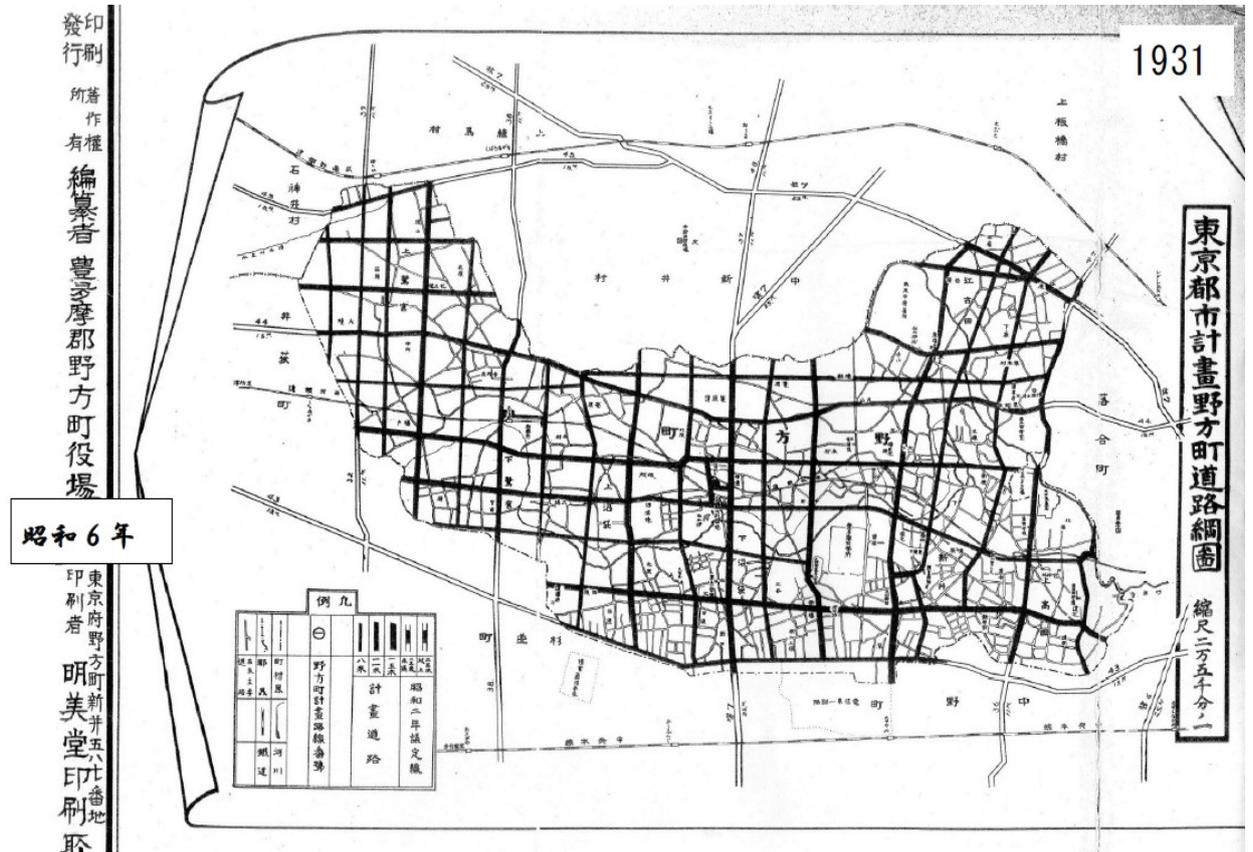
それ以前、大和町が「東京府豊多摩郡野方町大字上沼袋」と称されていた頃の字（あざ）名は、中通・西通・北原・西原・下谷・川北の六ヶ所でしたが、中通・西通が沼袋南二丁目 北原・西原・下谷・川北が沼袋南三丁目と命名されたわけです（その後の請願で大和町となりました）字に分れていても番地は通し番号だったのでわかりません。（3123頁）

鷺宮通り（消防署通り・現在の中央通り）は開通しており、東に野方第五小学校（啓明小学校）が見えます。

その北側に明大運動場の描かれた地図がありますが、この運動場のことを知っている人は今や殆ど居ません（2136頁）

立派な道路計画があった昭和六年

道路計画図（下図）を見ると、旧野方町はとても広がったことがわかり、そこにこれだけ沢山の道路を計画していた事に驚かされます。「環7」という言葉がすでに使用されて、早稲田通りも十五米の計画道路と凡例に表示があり、古くから計画があったことがわかります。計画通りになつていけば、災害危険度上位の町にならなかつたでしょう。しかもこれだけの計画道路が、八十年かかっても環七通り一本しか実現していないことに逆にびっくりです。中央通りの幅は、最近決まりました。（516頁）



新しい町名「大和町」

当初の地名 沼袋南二丁目・三丁目に反対運動が起こりました。この地名は歴史も親しみもないうえ「第一、言いにくくてしょうがない」というのが反対運動の発端でした。

しかし根底にあったのは、沼袋南二丁目、三丁目と二分割されることへの反対です。この頃の解釈では丁目ごと別の町とみなされていたからです、利権も絡んでいたのです。八幡通りをはさんで南北に分割も反対の要因

反対運動の人々は（巴クラブ）という寄席（現在の大和町一―五十五付近）に集まり町民大会を開き氣勢を挙げました。この人達は、改定町名として、古くからある地名の、「大場（ダイバ）」を掲げて立ち上がったのです。

「御願 昭和七年九月三十日」

大場にして欲しいとの正式の御願が、上沼袋村住民千余名の署名を集めて提出されました。何とこの日付は、章の初めに述べた、昭和七年（1932年）東京府が東京市十五区に隣接五郡八十二町村を加えて併合し、東京市三十五区となり、中野区が生まれた十月一日の一日前の日付です。つまり、大字上沼袋が沼袋南と命名される、一日前の日付です。

御願にはチラシも作られました 幻の大場一丁目一番地

東京市中野區大場 丁目 番地

愈々十月一日より大東京市となるに付、當地も明るき氣持のよい改正町名になると楽しんでをりました處が、舊名よりむずかしいやうな「沼袋」とか又は「沼袋南何丁目」とか云ふ町名になりました。故に我々町有志相計り左記の様なる上申書に壹千餘名の調印をなし、九月三拾日付にて東京市長宛提出致しました。

尙此上は我々住民は上司の援助を得、住民全體決意して前記の町名を永久に使用致しませう。

（右町名は表に張出させう）

(4605)

御願

貴職愈々御健昌ノ段國家ノ爲メ奉慶賀候
 陳者貧職永年ノ御苦心ト御英斷ニヨリ大東京市モ本年拾月壹日ヨリ實現スルコト
 ニ相成リ候事ハ我々住民トシテ謹ンデ奉慶謝候
 就テハ當上沼袋町名改正ニ當リ幾ニ提出中答案ハ町理事者及壹貳町會議員ノ獨斷
 專行ニヨルモノニシテ一般住民ノ毛頭開知セザル處ニ御座候爲メニ過般新聞紙上
 ニ改正町名發表以來住民間ニ大紛糾ヲ來シ實ニ困却中ニシテ日夜會合種々協議ノ
 結果大勢ノ歸スル處ハ世界第二ノ大都會ト成ルニ際シ舊上沼袋ナル六ツヶ敷キ甚
 ダ成シ惡敷名稱ヲ廢シ所澤街道ノ一部トシテ遠キ實歷年間ヨリ有名ナル大場通り
 ノ大場ヲ冠シテ東京市中野區大場何丁目何番地ト命名改正願フ事ニ衆議一決致候
 間是非右様御改正御名命方御取斗相成願度願上候
 追テ若シ南一丁目切迫シ事務繁雜ノ爲メ御採用御延期ノ場合ハ當上沼袋住民全體
 結束シテ沼袋トカ又ハ沼袋南何丁目トカノ地名ヲ呼稱使用セザル事トシ數百年
 來因念深キ大場ノ地名使用シ大東京ニ相應キ中野區大場何丁目何番地ト命名シテ
 天下ニ發表致可決心ニ御座候間我々住民ノ確キ決意ノ程御推量願上候 敬具

昭和七年九月三十日
 東京市長 永田 秀次 郎殿
 中野方町上沼袋住民代表

上沼袋住民有志一同

御願

貴職愈々御健昌、既奉慶賀候
 陳者貴職永年、御苦心ト御英断ニ
 ヲリ大東京市ヲ本年十月一日ヨリ實
 現スルニ相成リ候事ハ、我々住民ト
 レテ謹ニテ奉感謝候
 就テハ當上沼袋町名改正ニ當リ曩
 提出中答案ハ町理事者及一二町會
 議員、独断專行ニヨルモノニシテ一般
 住民ノ毛頭聞知セザル處ニ御座候
 為ニ過般新聞紙上ニ改正町名発
 表以來住民間ニ大紛糾ヲ来シ實ニ
 困却中ニシテ日夜會合種々湯議ノ
 結果大勢ノ歸スル所ハ世界第ニ、
 大都會ト成ルニ際シ旧上沼袋ナル大
 ヲテ敷キ甚ク感シ悪敷名稱ヲ廢シ
 所沢街道ノ一部トシテ遠キ空壓正
 年間ヨリ有名ナル大場通リノ大場、
 冠シテ東京市中野區大場何丁目
 何番地ト命名改正願、事ニ象議
 一決致候間是非共右様御改正
 御命名方御取計相成度願上候
 進テ若シカ一昨日切迫シ事務繁雜
 ノ為御採用御延期ノ場合ハ當上
 沼袋住民全体結束シテ「南沼袋」
 カ又ハ沼袋南何丁目トカノ地名ヲ呼
 稱使用セザル事トシ數百年間念
 深キ大場ノ地名ヲ使用シ大東京
 相應キ中野區大場何丁目何番
 地ト命名カシテ天下ニ発表可致決
 心ニ御座候間我々住民ノ確ト決
 意ノ程御推量願上候

昭和七年九月三十日

敬具

(P574)

御願 昭和七年九月三十日 永田秀次郎東京市長宛に、初めに出された御願です
 この文面を前頁のチラシに印刷して各戸に配布し反対を表した 東京公文書館より

上掲の御願の署名筆頭には、本橋虎之助、
 伊藤益五郎、と達筆の力強い署名があります。

野方町長上沼袋五丁目本橋虎之助
 六丁目伊藤益五郎

しかし町名反対運動に異議を唱える人達も出て（地名「大場」に反対か？）大会に殴りこみをかけるなど方々でトラブルが発生したのです。旧住民と新住民の感覚のズレも各所での混乱を助長しました。沼袋南に反対するところ迄は一緒でもどんな町名にするか、わかれたのです。

「請願書 昭和七年十二月二十三日」

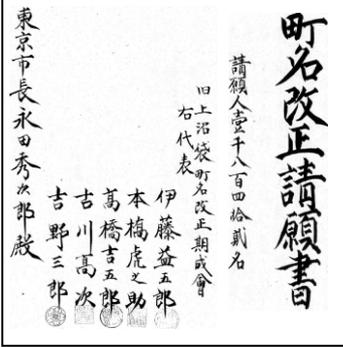
そこでより親しみやすい新しい名前をと、住民たちが協議した結果「大和町（ヤマトチョウ）」が提案され、住民投票が行われました。これには大多数が大和町を支持しました。「大場」にしたかった人達も「大和」と似たような語面から納得したのでしょうか。再度嘆願書が改定町名「大和町」で提出され、最終的に東京市議会もこれを採決しました。
 昭和九年四月二十一日東京市役所から号外が出ました。
 町区域ノ変更及町名ノ変更ヲ為シ昭和九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス 南沼袋一、二丁目一圓、大和町ト改称

請願書

貴官愈々御健昌ノ段邦家ノ為奉慶賀候
 陳者貴官永年ノ御苦心ト御英断ニ依リ大東京ノ實現ト相成候事我々市民トシテ感謝至極ニ奉存候然ルニ當上沼袋ニシテ沼袋南ト御命名御發表相成ルト同時町民多数ニ及對シテ聲高リ如斯キ感シ思キ呼ビ憎キ書キ難キ町名ニ開シテハ絶対ニ改正方御計ト被下様取急ニ十月一日附テ以テ全町民三分一以上ノ調印ニテ請願書提出致置候處爾末日一日ト改名ノ声全町ニ漲リ過般町名改正期成大會ヲ開キ其席上ニ於テ一同少異ヲ捨テ大同ニ就キ一致團結以テ遂名ノ方法ヲ相計リ申候處最モ公平ノ手改トシテ一般投票ニ依リ其結果大和町トシテ得票ノ大多數ヲ得ク大和ト大ニ和合ノ意味ニ有之稱(易)ノ書キ易ノ意義深ク一同大和町ヲ以テ候補名ト決シ直ニ中野區長ニ申候處最良ノ町名ト大ニ賛同有之候
 惟以ニ上沼袋ハ現在貳千貳百餘戸有シ將來五千戸以上ニ發展ノ見込有之候間現在沼袋南一ニ三丁目ヲ一字トシテハ廣範ニ涉リ將來行政上不便歎カラス候尚南一丁目側ニ別名ヲ以テ分置希望ニ付是ヲ切リ離シ上沼袋ニ付ニテ以テ大和町ト改稱シ上當町ノ中央ヲ南北ニ通スル府道ヲ丁目堺トシ一丁目ニ丁目ト分劃御更方御取計ト相成度略図相添ヘ左記壹千八百四拾貳名ノ連署者ヲ以テ及請願候也
 昭和七年十二月二十三日

請願書 昭和七年十二月二十三日

この請願書の代表署名は、1,842名の連名の署名と共に東京公文書館に戦火を潜り抜けて、今も残されています。代表者はやはり同じ本橋虎之助氏、伊藤益五郎氏でした。文面に大和町と投票で名前を決め、現在貳千貳百餘戸が将来五千戸以上に発展する見込み、と記述があります。



「御願、請願書の代表署名の二人」

伊藤益五郎氏



本橋虎之助氏



「大和と言う地名」
 日本全国いたるところに「大和」という地名がありますが、それぞれ同じような事を考えたのでしょうか。しかしこちらの「ヤマト」はあえて町(チヨウ)を付けた所にオラが町の意識がうかがえます。後に町制改定が実施され、多くのところで「町」が取り除かれたとき「大和町」はそのまま残りました。ちなみに中野区で「町」が付いているのは「江原町」「弥生町」を加えた三ヶ所だけです。
 大和の名前は、地域に古くから住んでいる人と新たに住み始めた人が「大きな和」をもって新しい「町」を創ろうとの気持ちから出たといわれています。古くから大和魂、大和撫子、大和朝廷、など耳慣れた言葉なので皆も納得したのでしよう。



わずか2年余だったけれど中野区沼袋南二丁目・三丁目の新町名が赤印刷で追加表示された昭和7年の幻の地図東京都が35区になり、野方町と中野町で新しく中野区が生まれた時、上沼袋（今の大和町の地域）の名前は沼袋南二丁目三丁目とされ、地図も改訂されました

昭和十八年（1943年）東京府・東京市が廃止され東京都になりました。大和町も「東京都中野区大和町」と現在の表示となりました。誕生当時丁目はまだ制定されていません。三十五あった区は、昭和二十二年整理統合され二十三区となり現在に至っています。中野区は存続しました。



棟方志功「大和し美し」

はじまりの柵（頁の事）

昭和十一年（1936年）

佐藤一英の詩を版木にした

大和は国のまほろば

たたなづく青垣

山隠れる大和し美し

倭建命（やまとたける）

世界的有名な板画家となる棟方志功は故郷青森の風土の中で画才を伸ばし「わだばゴッホになる」という想いを胸に大正十三年に上京しました。そして昭和四年から十八年の十四年の間、この町名変更の運動の中、東京市中野区沼袋南現在のの中野区大和町に住んでいました。

棟方志功の「大和し美し」は町名が変更された二年後の昭和十一年（1936年）彼の出世作となった作品です。

「大和は国のまほろば」とは、大和はすぐれた場所、という意味で、それは大和町と考え、町名変更の熱気の中でこの詩を選んだのではないかといわれています。

二項 変貌する大和町の生活

人口増の大和町 人々が都心から移ってきた

長く続いた田園風景も終わりを告げるときが近づいてきました。東京市に集中する人口の分散の為、新たな都市計画が実施され、中野区にも軍事施設・寺院・学校・医療施設・各種試験場などと付随して商店・軽工業・サービス業の人が大勢中野区へ移転してきました。加えて関東大震災大正十二年（1923年）で被災した人々が郊外へと移住したため中野区の人口は約三万人（震災前）から昭和七年（1932年）十万人へと約三倍に膨れ上がっています。大和町は、昭和十年（1935年）国勢調査で一萬二千人（二千六百世帯）昭和十二年調査で一萬五千人と発表されていますが、震災以前の一千人（やまと今昔物語による）から急増しています。

しかし、これら移住者に対する町づくり計画が不十分のまま開発されたため、畑の畦道がそのまま狭い曲がりくねった道路となり、災害対応にやや難のある町の原点がつけられてしまったのです。

人口の増加と共に暫時消えていったのは農地です。元々水田は少なく、野菜類の畑が多かったためか、宅地への変換は



農地の開墾 昭和15年 大和町

容易であった様ですが、野菜類は即日現金になるため、農家は現金収入を失いたくなく、小作人は仕事が失われるので農地が遅くまで残った地区もあります。それは妙正寺川沿いの鷺宮地区、江古田地区、神田川沿いの方南地区です。

農地の減少、非農家の増大の影響は思わぬところにできます。

それは人々の排泄物の処理です。下肥は野菜農家には大切な肥料で、近隣の非農家から購入していたのです。下水道水洗などは勿論ありません、中野区は他区に比べて下水の整備が遅れていたのです。

中野区民生活史の記載に「鷺宮のある農家は遠く本郷（文京区）辺りまで汲み取りに行っていたが、非農家が増えたため近くの上高田・新井薬師付近で済むようになった」とあります。非農家の増大と共に、専門の汲み取り業者が現われ、

多くは所沢・田無などの郊外へと出荷されるようになりました。はじめは汲み取りに來た農家からお金をもらっていたのが、汲み取り業者の頃にはお金を払わないと持つていつてもらえない様になったのです。

昭和二年（1927年）西武鉄道村山線（西武新宿線）が開通し、この近辺では「野方駅」が開設されました。増大した人々の通勤の足として始めから複線でスタートしたのですが、午前中の下りは利用者が少なく、荷物は所沢・田無などの農家へ出荷する下肥が中心でした。このため地元では、黄色と小豆色のツートンカラーのしゃれた電車の色に引っ掛けて黄金電車などと軽口をたたいていたそうです。

人口密度急増の大和町

昭和十二年（1937年）国勢調査によると、中野区の人口密度は一万三千人（一平方キロ当たり）とされていますが、大和町は一万九千人と旧野方町地区の平均一万二千人から突き出しています。旧中野町地区は二万人です。

旧野方地区は中野地区にくらべてずっと遅れて発達したので、大和町はいかに僅かの期間で人口が増えたのかがわかりません。またやってきた人達も、庶民が多く大きな家を持ってなかったのかと思うと親しみがわきます。

警察署・消防施設の設立

大正十二年（1923年）新宿警察署から中野分署が独立したのは、いうまでもなく人口急増の結果です。昭和八年（1933年）に昇格した中野警察署から、野方警察署が分離独立したのは昭和十一年（1936年）です。

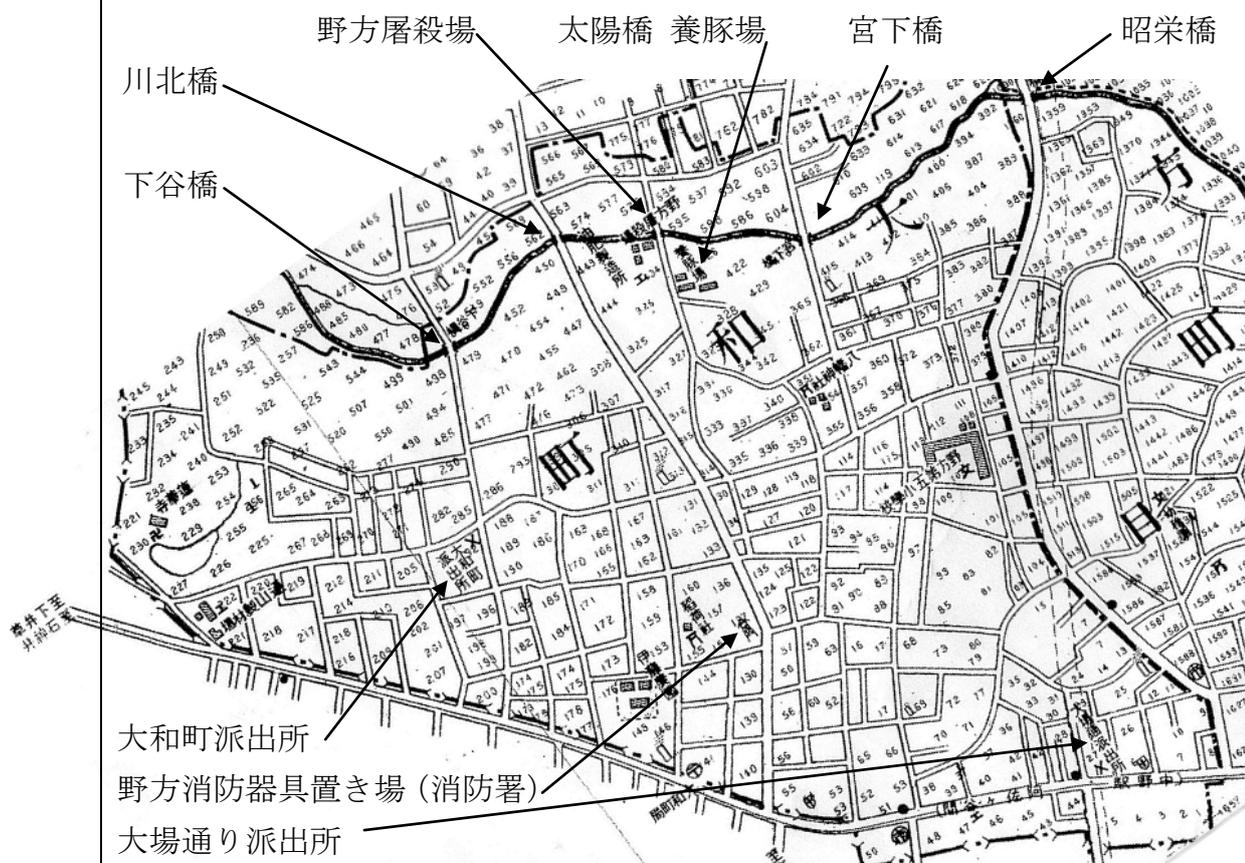
昭和十四年、大和町に派出所が二ヶ所設置されました。大場通り派出所（現在の野方一―四十）と大和町派出所（現在の大和町三―二十五）です。

外勤巡查一人当たり担当は、戸数三百二十五、人口千四百九十五人と記録されていますから結構重労働です。

それらの少し前「説教強盗」という変な事件が大和町（当時は野方町字上沼袋）で何軒も発生しています。お金を盗ったあと・・・戸締りがなくなってない、犬を飼いなさい・・・とか防犯の心得を説教する強盗犯で、当時大きな話題になったといえます。ここに配属された警官には警視庁の面子にかけて、説教強盗逮捕に随分プレッシャーがかかったことと思われ、純然たる農村地帯で消防の必要もなかったこの辺りも、人口増の結果消防組織が結成されることになりました。

昭和五年（1930年）、野方村では上沼袋を含めた七地区に消防組を設立、上沼袋西通に野方消防組第一器具置き場（現在の大和町三丁目九番）を設置しました。このため、

大和町と名前が新しくなった初めての地図 昭和15年（1940年）



鷺宮通りが消防署通り（現在大和町中央通り）と呼ばれるようになったのです。（3129頁）当時の新聞は「東京市が昭和七年（1932年）、新たに生まれた二十の区で消防員を募集したところ千二百人の応募があり、七百名を採用、月給四十五円で新しい官吏を誕生させた」と伝えています。

道路や橋の整備と以前の記録

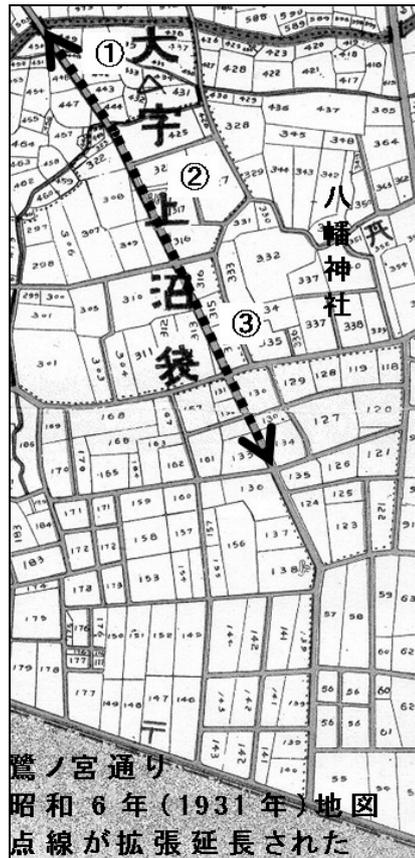
上の大和町の地図を見ると、大和町中央通り・大新横丁・野方第五尋常小学校（啓明小学校）・蓮華寺・八幡神社・警察派出所・消防火の見櫓・野方屠殺場・養豚場・などが良くわかります。川にかかる橋は、川上（左）から下谷橋・川北橋・太陽橋・宮下橋・昭栄橋の五橋ですが、この三年前に木製からコンクリート製に改築されています。

「やまと今昔物語」に、橋がコンクリートになる前十年余り遡った大正末期のことが記載されています。：以下抜粋
 ・町内に一つしかなかった橋は、幅一メートル位の石造りのもので石橋と呼ばれていました。現在の太陽橋です。

：その後昭和二年（1927年）鷺宮通りが拡幅延長して現在の大和町中央通りが開通しました（川北橋はその時できたのでしょうか）自動車も少ない時代に何でこのように広い道路が必要だったのでしょうか。

- ① 公設の屠殺場があり、東京の食肉の1/3を賄っていました
- ② 大和北公園の西側に小さな山があり、頂上にお稲荷さんがありました。消防署通りを作るために山は崩され、お稲荷さんは八幡神社に移りました
- ③ どうだんつつじの垣に囲まれた共同墓地がありました
(今の大和区民活動センターの所)
昭和5年に、清谷寺・禅定院に移葬されました

(やまと今昔物語より抜粋)



(やまと今昔物語)：大新横丁もその頃できました(旧村名の大場村と新橋村の頭文字を採って命名)大場川(妙正寺川)の橋は上沼袋・下沼袋が栄えるように「沼栄橋」と名づけられ、昭和に入り「新沼栄橋」になりました。

この昭和二年(1927年)に「鷺盛橋」が設置されています。妙正寺川の名前も井草川・千川上水分流(千川上水)・神田上水助水妙正寺流(役所の記録正式名称、誰も知らず)・大場川と変遷しています。早稲田通りも井草道・所沢道・大場通り・昭和通り(短期間)・再び大場通りなど変遷しています。その中でも「大場」の名前が一番親しまれていました。

大和尋常小学校(現大和小学校) 開校

大和町の急激な人口増は、教室不足を招き野方第五尋常小学校(現啓明小学校)では三十七クラス中十二クラスが二部授業を余儀なくされました。一クラス約六十名ですから過密ぶりは想像に絶します(仲町小学校では八十一名のクラスあり)この様な状況に対し父兄も黙ってはいなく、昭和十三年五月児童保護者大会が開かれ、二部授業の廃止と大和町西部に学校を新設することを中野区会議長に申請しています。申請書の中に、二部授業は「児童教育界の恥辱」とまでいっています。

これによって昭和十五年(1940年)十一月「大和尋常小学校」が設立されました。野方第五尋常小学校から六百五名、野方西尋常小学校(現鷺宮小学校)から七十八名の計六百八十三名が移りました。

尋常小学校が国民学校に

東京市三十五区が制定され中野区が発足した昭和七年（1932年）当時の首相が暗殺されるいわゆる五・一五事件が、昭和十一年には大蔵大臣や前首相が暗殺されるといふ二・二六事件が、共に陸軍将校によって引き起こされ、国は軍国主義への道を歩み始めていました。

小学教育も、国家主義「皇国の道に則て初等普通教育を実施し・・・国民学校令第一条」に基づいて、昭和十六年（1941年）尋常小学校は「国民学校」となりました。

野方第五尋常小学校は「東京市啓明国民学校」

大和尋常小学校は「東京市大和国民学校」

これは今まで地方自治体である中野区が管理していた小学校を東京市の管理に移す事を意味し、国家における教育管理の推進を意味するものである、と云ってよいでしょう。

相前後して、野方第五尋常小学校（啓明小学校）にプールが後援会の寄付で完成しております。しかしこれは戦争の進展に備えた防火用の貯水槽兼用で、建設は東京市の強い指導の下に行われた。と中野区民生活史に記載されています。



昭和15年創立時の
大和尋常小学校

黒板に大東亜共同建設

当初の校歌「紀元は二千六百年 栄えある年に中野なる

妙正寺川のみんなみ(南)に我が学舎は建ちにけり」

昭和十八年（1943年）東京府と東京市を廃止し、東京都となりました。

それぞれの小学校は、東京都啓明国民学校、東京都大和国民学校と改称されます。

三項 戦禍をくぐった人々

昭和十六年十二月（1941年）アメリカを中心とする連合国を相手に始めた戦争は日本各地を焦土と化しました。東京大空襲や、広島・長崎の被爆など幾多の犠牲者を出して、昭和二十年八月（1945年）無条件降伏という形でやっと終結しました。

東京大空襲で中野区は新井が大被害を受けました。この記録は中野区史など幾多の出版物で見ることが出来ます。しかし、大和町でも多くの人々が災いに立ち向かっていたのです。

学童疎開

昭和十九年七月（1944年）マリアナ沖海戦での日本海軍の惨敗は、太平洋における制空権の喪失を意味し、東京を始めたとする大都市は米軍爆撃機による無差別爆撃にさらされる様になりました。

それ以前から戦局の悪化による空襲を予測していた政府は、大都市に残った学童に対して集団疎開を強行することにしたのです。

中野区では区内南部の国民学校児童は長野県へ、区内北部

の国民学校児童は福島県へと疎開しました。
（はじめは三年生以上）

啓明国民学校児童四百五十名は、

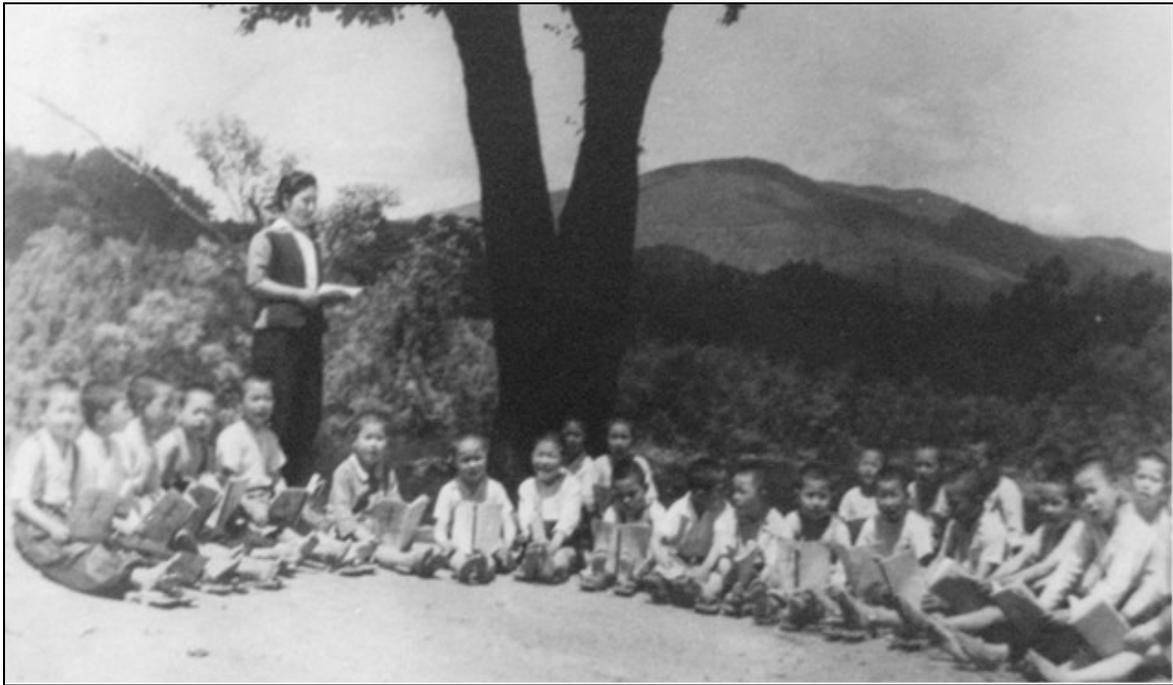
昭和十九年八月福島県湯本へ出発しました。翌年五月空襲の激化に伴い一、二年生も疎開を開始しました。六年生は卒業のため一時帰校しましたが再疎開、全校生が湯本から大沼郡・高田・本郷・尾岐・新鶴などへ分散移動しました。

大和国民学校児童三百四十八名は、

昭和十九年四月福島県 小浜・水保・由井・桂沢・保原へ三年生以上が学年毎に分かれて疎開しました。小浜寮（六年生と三年生が疎開）が火事で全焼して由井へ移動するという事件もありました。

全学年疎開となり新一年生も疎開先で入学式を行いました。事情があり疎開しなかった生徒五十三名には蓮華寺で寺子屋式授業が行われたそうです。

疎開解除となり帰宅できたのは、終戦から二ヶ月後の昭和二十年十月でした。〈中野区民生活史（二）等の記録による〉疎開から帰るにも、大和町には食べ物が無い状態だったという事です。



長谷川先生が集団疎開の啓明国民学校の男子たちと一緒に写っている唯一の写真
子ども達に先生は、お母さんのにおいがした。若い女の先生ということで、
先生にとっても疎開の引率には、いろいろな反対があったようです

やまと今昔物語には、当時の出来事として啓明国民学校
「長谷川弘代先生」の寄稿文が「学童集団疎開を引率して」
と題して掲載されています。

(以下 抜粋・一部省略、文中の数字はそのまま記載)

終戦一年前の八月二十八日、啓明小学校児童五百七十三名、
教師十一名、寮母十五名は福島県石城郡湯本町に第一次の出
発をした。

子ども達は遠足気分であったが、見送る母親たちの、我が
子を手放す苦衷は計り知れなかった。湯本では幼い子がよく
来たもんだと、同情の涙で迎えてくれた。

小学校低学年といえども(戦争に耐え抜く場であり厳しい
日程にも)健気であった。挫けそうな者への友情ぶりは、案
じているであろう親御さんにも見せたかった。

しかし消灯ともなると啜り泣きが始まる。多くは私の子守
歌で泣き寝入りだが：

ある日発熱者を抱いて寝たのがきつかけとなり、以来、全
員を順番に抱き寝する習慣となった。寝顔はどの子も可愛く
哀れでならなかった。

最も深刻な問題は食糧不足に飢え痩せ細ったことである。
魚の頭や尻尾、お皿の汁気、ご飯に混ざった糲の中味も足し
にして食べた：

再疎開地の会津で過ごした敗戦前後の食事は、僅かな大豆や塩味のコーリヤンのすいとんと漬物などに低下、髪は薄く、視力も下がる栄養失調者が続出した。

終戦記念日が近づく度に、疎開児と過ごしたあの悲惨な日々の印象が襲うように甦ってくる。(完)

「受け入れ側も精一杯の努力を」

中野区民生活史に

「戦局の悪化に伴い食糧事情も悪くなると教師たちは、その調達のために村を飛び回り、また地元の人たちもまず学童に先に回してくれるところが多かった」

「旅館が学寮に当てられた場合（啓明小学校もこれに当てはまる）その旅館は営業を中止し旅館の家族は二部屋だけで生活し他はすべて疎開児童が使うことになった」との記載があります。

東京都より賃料が出ていたとはいえ、受け入れ側も精一杯の努力をしてくれたのです。

記録によると、校長をはじめとする先生方も疎開先を何度も訪問し、受け入れ側との懇談会や協議会を開催しています。疎開引き上げに際して児童達の送別会や学芸会が方々で開

かれた事は、苦労を共有した証（あかし）でしょう。

子ども達は、疎開生活のさまざまな苦労を、独特の若いエネルギーで消化したのでしようが、成長期に受けた苦しみはとても大きかったものと思われま

す。戦後、集団疎開の経験を経た人々は、一つの世代を作り出すこととなっていったのです。

啓明国民学校

疎開先は福島県湯本



大和国民学校

疎開先は福島県油井

男子と女子は、それぞれ分かれていた



昭和20年 米軍による航空写真



右下（1丁目）白っぽく家並みがなくなっているのは焼夷弾で焼け野原になった跡
昭和20年4月13、14日と5月25、26日に、爆撃を受けた詳細の記録が残っています

東京大空襲

昭和十九年（1944年）太平洋に於ける制空権を握ったアメリカは、同年十一月の空襲を皮切りに、翌昭和二十年三月、四月、五月と東京大空襲を繰り返し何十万人もの死者負傷者を出しました。

中野区の場合も、この五月の空襲で死者四百人被災者七万人と言う被害を受けています。（死者数は確認されている公式記録であり、実際は数千人であると推測されています）

「やまと今昔物語」には当時の状況が思い出として記載されています。・・・ 抜粋 ……

昭和二十年五月二十五日夜半から翌未明にかけての空襲では、高円寺の丸高十銭ストア（前不二家、現在セブンイレブン）に落下した焼夷弾が折からの西南の強風にあおられ、現在の城南信用金庫辺りまで延焼し、これが大和町一丁目六十五番辺りに延焼。一丁目三十六番あたりで急に風が西北に変わり東南に延焼し現在の環七通りあたりで鎮火したという大災害となったのです。

また、これとは別に現在三丁目十番飯島雑貨店（現在天平食堂）他一軒に焼夷弾が落下したが幸いに消し止める事が出来ました。



疎開する大和国民学校の子供達
(上野駅で)



子ども達も皆防空頭巾



昭和十六年 中町会隣組消火部

火災の黒雲が横に長い筒状を呈し、その中を走る紅蓮の焰が突き刺さった感じでした。
初期消火が出来ず大火流となってしまう場合は、最早一般都民の手にはおえないと思われれます。これに引きかえ大和町の一軒焼けは普段の訓練の成果であると感心させられます
……
(大和町三丁目 田中 四郎)



残された女性達も竹やりの訓練 八幡神社の前に整列して写真を撮った

東京府・東京市が東京都に

昭和十八年（1943年）政府は、東京府（東京市及び府下三郡）東京市（三十五区）の行政区分を一本化し、東京都とします。戦争真つ只中のこの時期に何故と思うような変革ですが、戦争中であればこそその措置であったようです。

わが国最大の都市である東京の、府知事・市長の二重管理の非効率を解消する為といえば聞こえが良いのですが、軍事行政が最重要の時、国策を迅速に推し進める為であると考えれば、成程と思います。以降区民・郡民すべて東京都民となります。

占領下における諸制度の発布

昭和二十年（1945年）無条件降伏をした我が国を占領したアメリカ政府は「降伏後における、米国の初期の対日方針」の線に添って種々の政策を強力に実施しました。

これは、公職追放・弾圧諸法廃止・婦人参政権・財閥解体・農地解放・労働改革・教育改正・地方自治など多岐に亘っていましたが、基本的には日本の非軍事化・民主化がその中心であり、占領当局の指示を受けた政府の立案で次々と立法化されました。これらを集大成したものが、昭和二十一年公布、

二十二年五月三日施行の「日本国憲法」です。

この中で、戦後国民の意識を大きく変えた事は、家督権と長子の単独相続権を廃止した民法改正でしょう。又この事が、大家族制の崩壊と核家族の蔓延を生み出してしまった一因であるともいえるのです。

東京都三十五区が二十三区に

昭和二十二年三月 地方自治法制定により、行政権が集中していた東京都から区に権限を委譲する地方制度改革が実施される事になりました。その前に各区の人口格差が目立ち区の再編成する必要が出てきました。

当初案二十二区（中野は継続）次いで十二区（中野は杉並と合併）四十五区（継続）十一区（中野は新宿と池袋に分割）と諸案が出て紛糾しましたが原案の二十二区で決着します。同年八月練馬区が板橋区から分離され二十三区となりました。区長は都知事の任命（それ以前は市長の任命）から、昭和二十二年と二十六年には選挙で選出となり、昭和二十七年からは地方自治法改正で、区議会で選出し都知事の同意による選任制度になりました。

しかし自治権拡充運動の結果昭和五十年四月に再び区長は、自治法改正で区民の選挙で選ばれるようになりました。

中野区立第四中学校開校

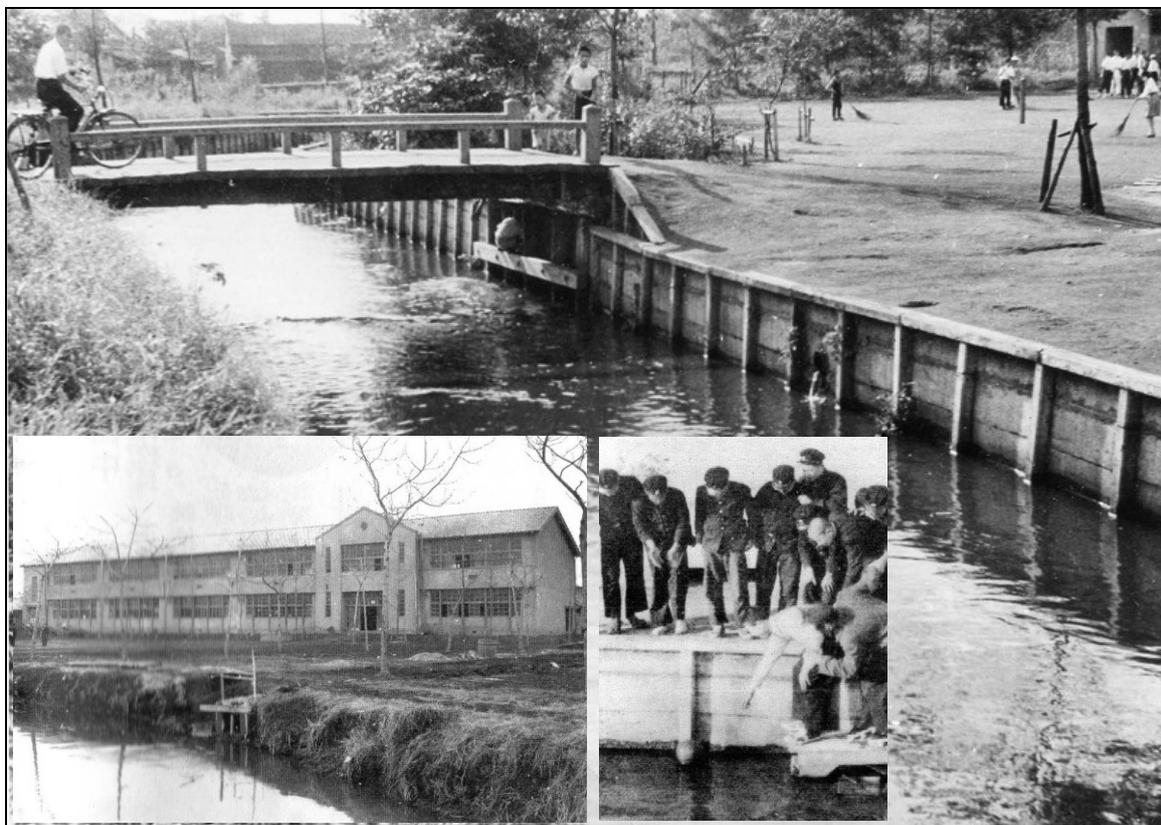
昭和二十二年四月の「学校教育法」改正は、複雑な初等学校制度を整理し、新制中学校（三年）を発足させ、小学校六年と中学校三年の九年間の義務教育制度を確立するためでした。

国民学校の名称はなくなり、啓明国民学校は東京都「中野区立啓明小学校」・大和国民学校は東京都「中野区立大和小学校」に変更しています。

新制中学校には旧制中学校生、青年学校普通科生、高等女学校生、実業学校生などがそれぞれの学年に横滑りしました。同時に高等学校も新制として発足させ、旧制中学の四年・五年生が新制高等学校一・二年となっています（新制高校三年は旧大学予科一年生）。

それに伴い同年五月中野区立第四中学校が開校します。はじめは自前の校舎を持たず啓明小学校の一部を間借りして立ち上がりました。

当時の新制中学校はどこも同じように教室・教材・教員までも不足した状態で発足したのです。中野四中が自前の校舎を持つのは昭和二十四年五月のことです。



校舎完成昭和 24 年 ボールは川によく落ちる 妙正寺川は流れが意外に早かった

「四葉のクローバー」

中野四中の校章は「四葉のクローバー」です。開校した年の七月制定、当時一年生の作品です。御本人は平成十九年（2007年）中野四中の六十周年祝賀会に招待され、当時の思い出を「四中だより」に寄稿されています。以下抜粋 ……

慌ただしい開校時からしばらく経って中野四中の図案を考えるようにとの宿題が出されたので

す ……「四」と言う数字から四葉のクローバーにしようかと決めて何度か書き直して提出しました ……

審査の結果それが選ばれたとお聞き

た時の嬉しさは、今でも忘れられません。

とうの昔に忘れられているものとはばかり考えていて

（記念行事で）紹介されるとは夢にも思っていないです

た ……あの四つ葉のクローバーが今も変わらずに中野四中の象徴で有り続けていることを知った喜びで胸がいっぱいになりました …… 略

六十周年記念行事に於いて、発足時の出来事を紹介できるという事は、古い記録をきちんと整理・管理している証であり、中野四中の素晴らしい力です。



啓明小学校の火事

「火事と言えば、あの啓明の焼けたことが、すぐうかんて来る …… 夏休みも終わってまもない頃だった …… もえてたおれる柱の音がそばにいるようによく聞こえた …… 翌朝学校へ行って見ると校舎は、わずか一部分を残しただけで、あとは教室も机も椅子も、そして私達が夏休み中に勉強したもので、みんな焼けて灰になってしまった …… 」
当時五年生だった生徒の卒業文集より（抜粋）

昭和二十三年九月三日 啓明小学校の火災は、午後二時四十五分に発生二十三教室、小室六、便所二を焼失しました。中野四中が間借りしていた教室は焼け残ったのですが、ここは小学生一・二・三年生が使用する事となり、中野四中一年生は野方小学校へ、二年生は中野第五中と第六中へ分散して授業を受ける事になりました。

啓明小学校五年生は大和小学校、六年生は野方小学校を間借りして二部授業で乗り切りました。

野方小学校は啓明小学校の六年生と中野四中の一年生を受け入れ大変であったことでしょう。

焼失部分は翌年建て直されました。同時期に中野四中も新校舎が完成して両校とも新しい学校生活が始まったのです。

四項 新しい町づくりを目指して

古い町会の解散

町会の起源は、江戸時代の五人組や名主・年寄り制度にさかのぼります。

明治時代に入ると「民間の伝承的任意制度」となり、字を単位とした地域の伝統的生活を運営する組織となります。それが町村行政の下部組織としての役割をも果たすようになっていきました。

大正時代から昭和時代になると、郊外であるこの辺りに多くの人が移住して来ました。旧来の地縁血縁によった住民のつながりは薄れ、急激な都市化に対応できない行政の貧困もあり、住民の親睦、共同福利などを掲げた新しい住民組織としての町会が発足したのです。

しかし町会は、行政の補助機関として利用されるだけでなく、住民を思想的に組織、訓練する場となり、政府は戦時体制をより一層強めるため町会の役割を高めたのです。

その頂点が昭和十八年（1943年）の地方制度の改革です。町内会は法律の認める組織となり、生活物資の配給、強制貯金、金属提出、労務供出など強権発動の実行機関となっていました。

あわせて、世帯数の管理、転出入証明、居住証明、配給、行政通知の伝達回覧、税金納入告知書配布・徴収、大掃除などの査察、各種調査報告、消毒剤の散布などの業務も行っていきました。

昭和十八年（1943年）の大和町五つの町会

（ ）内は、昭和二十一年世帯数及び当時の町会長住所

東町会 559世帯（251世帯）

（大和町八番地） 野方一丁目

南町会 982世帯（1299世帯）

（百四十九番地） 大和町三丁目

西町会 545世帯（699世帯）

（二百八十六番地） 大和町四丁目

中町会 801世帯（626世帯）

（八十八番地） 大和町一丁目

北町会 581世帯（743世帯）

（三百三十八番地） 大和町二丁目

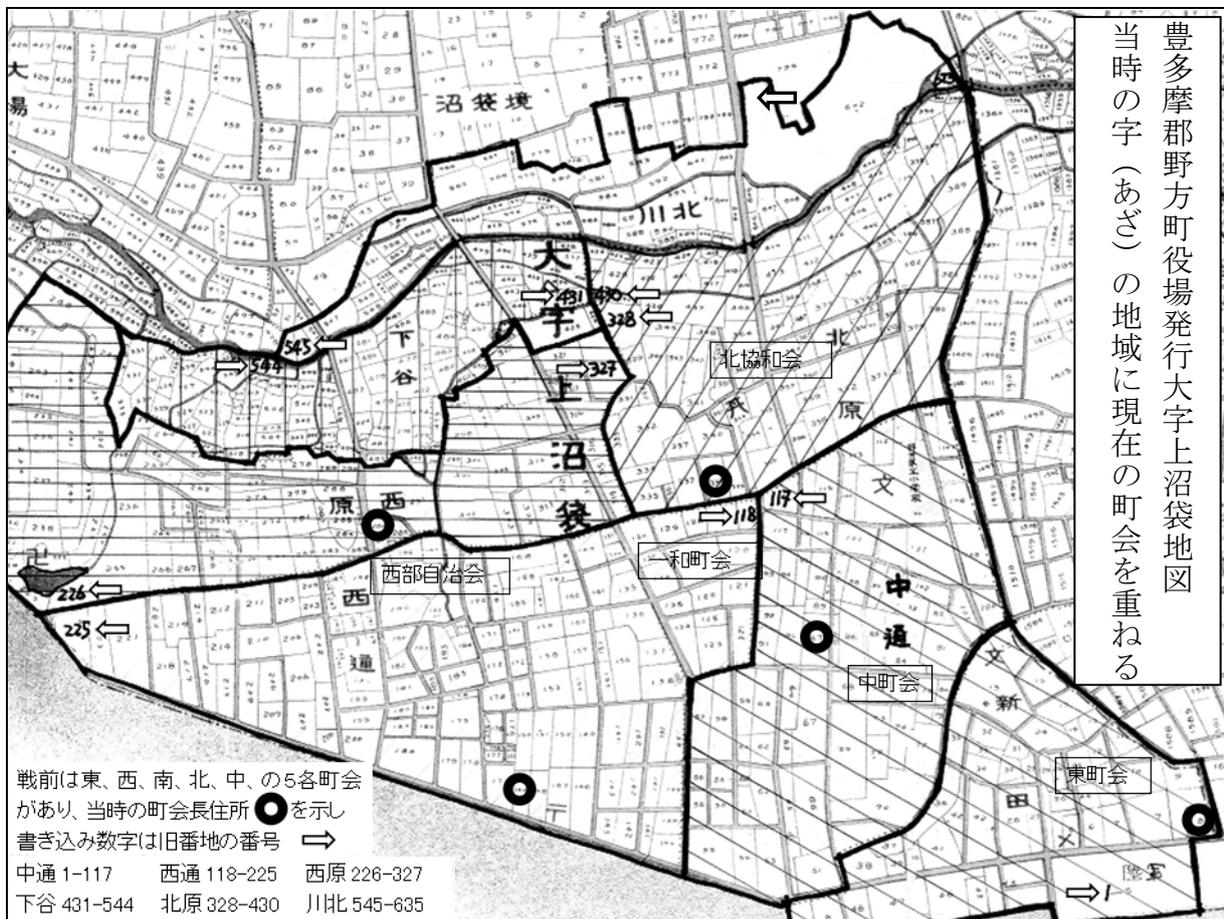


初期の大和町出張所 120番地、現在の3丁目

当時の住所は、中通、西通、西原、北原、下谷、川北と別れ、野方町大字上沼袋字中通と呼びました。○印は右頁の町会長宅で、東、中、北の町会は現在も残り、その他の町会は独立または統合となりました。一和町会は字西通にあつて鷺ノ宮通り（現中央通り）は出来て新しく、区域の境界とはなっていない。川北はかなり広く、今も橋にその名が残っており、東町会の一帯は陸軍用地でした。

昭和二十二年（1947年）占領軍司令部は日本中の町会をすべて解散させる方針をとり、内務省に解散の通達を出させました。中に旧町会長は四年間その地区での会長を勤めてはいけない等の条文がある厳しいものでした（政令十五号）大和町の五町会が行っていた業務は、区が行う事となり大和町百二十番地に出張所が出来ました。

大和町の当時の五つの町会のエリアが、どの様になっていたのかの資料はありません。下図は、豊多摩郡野方町役場の昭和六年（1931年）発行地図で、大新横丁や鷺ノ宮通り延長の数年後の地図です。



新しい町会の出発

解散させられた各町会は、防犯会 街灯会 衛生会 文化会などの名称の元に地域団体として住民福祉のため活動を継続していました。そのため各地域ばらばらで組織化もままならなかったのです。

(町会のそれぞれの境界が決められた当時は、まだ何丁目という町制がない時代でした。ですから昔の番地で見れば、その区域分けがどの様に決まったのかが良くわかります)

「大和町北協和会」

そのような中、大和町三百〜四百番地(現在大和町二丁目全域)および大和町五百〜六百番地(現在若宮一丁目と野方五丁目の一部)を包括した「大和町北協和会」が昭和二十三年(1948年)に発足しました。防犯防災が中心の安全に暮らせる町造りが活動の中心でした。

「大和町一和町会」

翌年の昭和二十四年(1949年)大和町百二十〜百三十番地(現在大和町一丁目四十五〜五十五番)のこじんまりした地区が「大和町一和町会」として発足しました。活力ある町、自立して成長する町を目指す活動が中心だったようです。

「大和町中町会」

昭和二十六年(1951年)「大和町中町会」が再結成されました。この町会の歴史は古く昭和二年(1927年)に結成されていたのです。解散させられていた時期は「大和町中部文化協議会」の名称で活動を継続していましたが、政令十五号の廃止の時期に合わせて町会として再発足しました。大和町五十〜百十番地(現在大和町一丁目八〜六十五番、このうち一丁目四十五〜五十五番は一和町会)が範囲です。住民参加の文化事業が活動の中心です。

「大和町東町会」

大和町一〜五十番地を範囲とした「大和町東町会」が発足したのは昭和二十八年(1953年)で、会員相互の親睦と福祉が活動の中心でした。(大和町一〜二十七番地は現在野方一丁目、大和町二十八〜五十番地は現在大和町二丁目)

「西部自治会」

鷺宮通り(消防署通り・大和町中央通り)より西側の大きな地域(現在大和町三丁目、四丁目、若宮二丁目二十番)は町会を名乗らず「西部自治会」として発足しました。犯罪の無い安心して暮らしていける町造りが活動の中心として発足しました。

町会の境界 歴代の会長

発足時の町会はすべて大和町の範囲の中を分割した五町会だったので。しかし昭和三十九年（1964年）の環七通りの開通や、昭和四十年の町制改正（大和町が一〇四丁目に分割、環七通りの東側の大和町は野方、妙正寺川の北側の大和町は若宮、川の南側の若宮は大和町へ）等で、今までなかった一〇四丁目が決められて、番地の境界線も大きく変化しました。

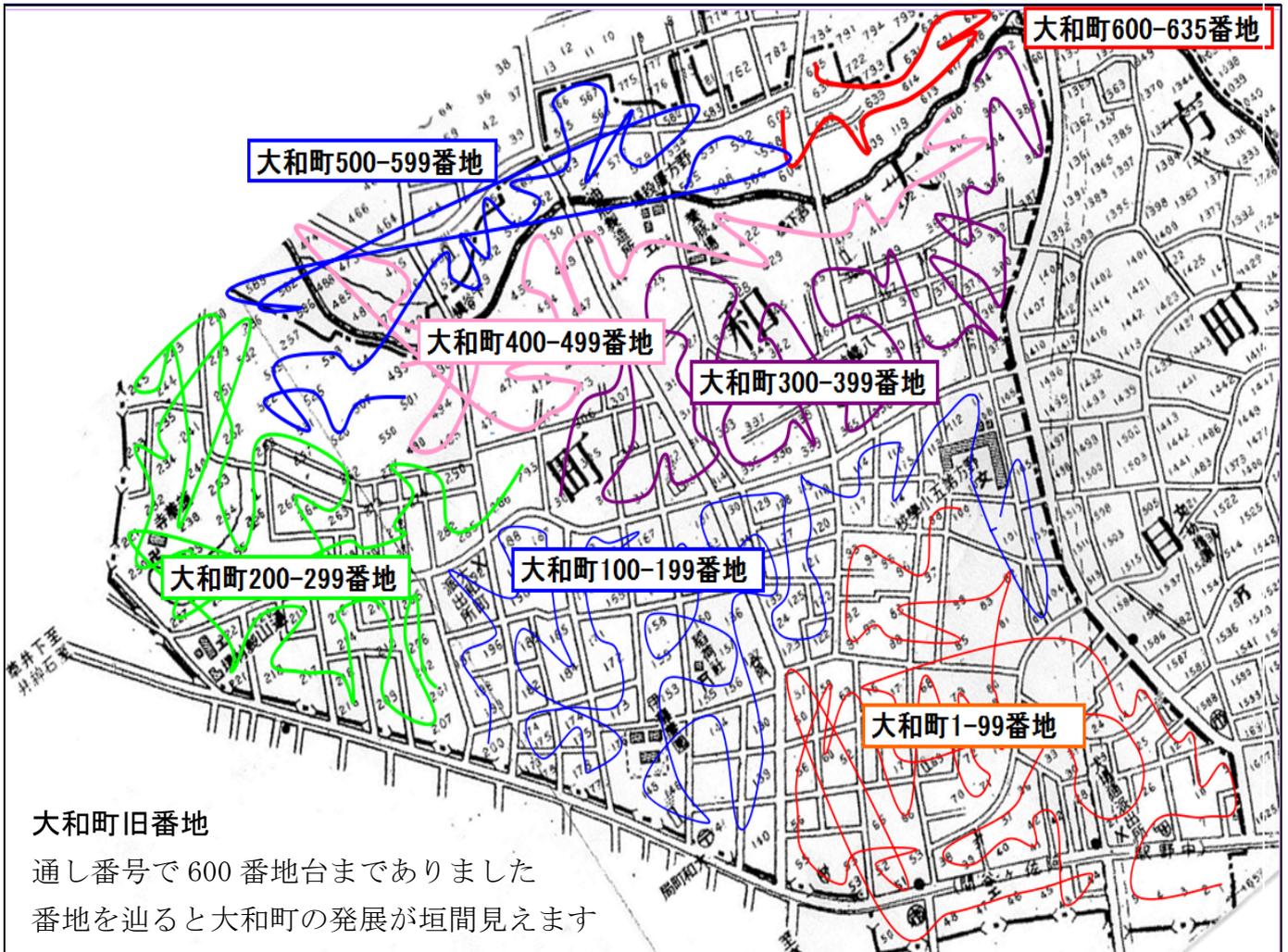
しかし番地の境界は変化しても、町会の境界線は張りまはったく変わらせずに昔のとおりで残り、現在もかなり入り組んだものとなっています。

町会より選ばれる民生委員の受け持つ範囲は、今もこの町会の境界に従って決められています。妙正寺川の北側を担当する一方で環七通り西側の大和町の一部を野方に受け持つてもらっている事などは、この町会の歴史を知って初めて理解できるのです。なお、町会に尽力されてこられたそれぞれの町会の歴代会長は下記のとおりです。

中町会の初代会長は本橋虎之助氏昭和二年〜四年五代目が伊藤益五郎氏です。（37頁）

大和町各町会の歴代会長及び任期（敬称略）

東町会	中町会	一和町会	北協和会	西部自治会
初代 伊藤喜市 昭和28年〜41年	初代 本橋虎之助 〜9代略	初代 鈴木左近 昭和24年〜47年	初代 戸村幸平 昭和23年〜24年	初代 田中四郎 昭和30年〜61年
2代 伊藤岩男 昭和42年〜平成17年	10代 市川義明 昭和22年〜42年	2代 落合金太郎 昭和47年〜56年	2代 鈴木大三郎 昭和24年〜36年	2代 伊藤徳治 昭和61年〜平成7年
3代 山下 茂 平成18年〜23年	11代 松田秀司 昭和43年〜49年	3代 伊藤益行 昭和57年〜平成元年	3代 山本不二雄 昭和36年〜40年	3代 松本貞夫 平成7年〜9年
4代 小澤秀行 平成24年	12代 荏原松三 昭和50年〜54年	4代 竹内由人 平成2年〜3年	4代 尾崎貞蔵 昭和40年〜平成4年	4代 金子忠男 平成9年〜19年
5代 大西 治 平成25年〜	13代 市川忠成 昭和54年〜59年	5代 米岡嘉男 平成4年〜5年	5代 和田勇吉 平成4年〜25年	5代 矢崎文彦 平成19年〜25年
	14代 佐藤政一 昭和60年〜平成10年	6代 杉本平市 平成6年〜7年	6代 木村勝昭 平成25年〜	6代 伊藤英男 平成25年〜
	15代 合田 宏 平成10年〜12年	7代 葦澤濱子 平成8年〜15年		
	16代 吉光寺久孝 平成12年〜15年	8代 青木 仁 平成16年〜19年		
	17代 伊藤栄資 平成15年〜	9代 吉田國臣 平成20年〜		



大和町の旧番地から見える歴史

まだ大和町が何丁目何番地という表示でなかった時代の、昭和十五年（1940年）に新しい名前で大和町と載った地図です。大和町が丁目で分かれる以前、一番地から通して付けれられ一番地は囲町でした（2114頁）上沼袋、沼袋南、大和町と町名が変わっても、この番地だけは同じでした。

番地を百番ごとに線で辿り色付けして見ると、その番地を付けた順番がわかります。つまりこの数字の様に大和町は発展してきました。特に大和町四百番台から六百番台の地域は、昔は田圃だった所で、そこに人々が移り住み番地が増えていったことがわかります。但しこの番地の飛び方では、慣れない郵便屋さんでは、配達は無理だったと思われる。

勿論このことが、昭和四十年（1965年）の町制改正の新住居表示が行われる一番の理由ですが、大和町の各町会の区域は、もともとはこの番地の順番に従って分かれていたと思われる（3123頁）。本来区域を分ける基準となるはずの妙正寺川も、西側では川を渡って番地が続いており、川筋でさえよく変わったのでしょう。護岸工事が終わり、環七通りが開通し、住居表示も確定して、一丁目から四丁目と分かれ、今の大和町になりました。但しこの昔の番地は、今も土地の登記簿には、はっきりと残っているのです。（418頁）



昭和32年9月の八幡神社のお祭り 大場通り(早稲田通り)の郵便局前
掛け声が聞こえ、大神輿はボンネットバスを止める

写真で見る昭和三十年代の大和町
大和町の祭りにはぎやかで、神輿は担ぎ手が大勢います

写真で見る昭和三十年代の大和町



八幡神社の大神輿 消防署通り(大和町中央通り)に繰り出す(小杉無線前)昭和40年代



昭和 29 年大場通り(早稲田通り)の本橋酒店 (2-32 頁) 道路掃除 道路未舗装



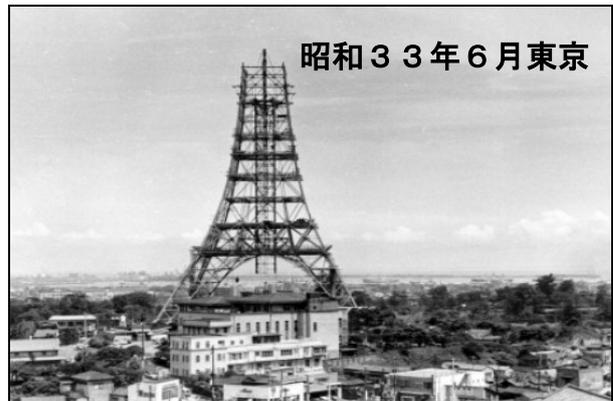
昭和 32 年ラジオ体操 八幡神社



大和町付近の建売住宅



四中運動会

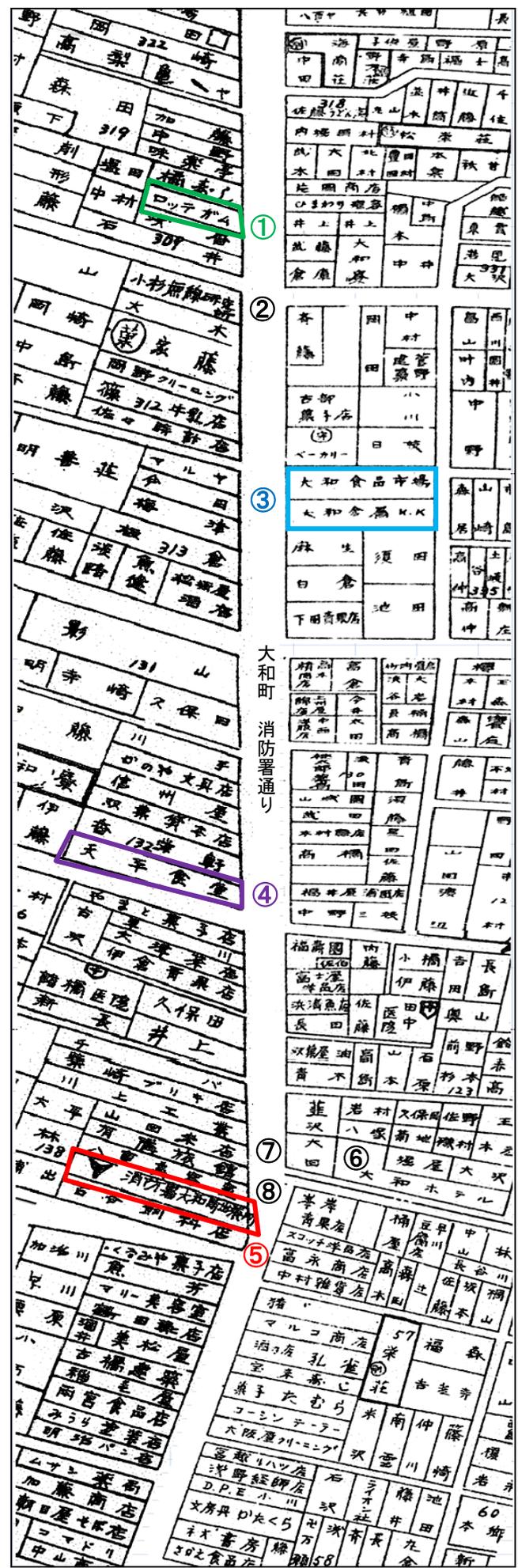


昭和 33 年 6 月 東京

昭和三十三年の大和町 消防署通り（大和町中央通り）

現在は中央通りと呼ばれる町の中央を南北に貫くこの通りは、以前は鷺宮へと続く鷺宮通りと呼ばれていました。現在防災も考え、道路の拡幅が計画されています（5-8頁）

大和食品市場、大和金属③は、現在大和区民活動センターになっています。南に行くと消防署大和町出張所⑤、消防署通りの名前の由来です。その十字路東側には、大和ホテル⑥があり、その東側にも商店が続いていました。現在の大和花公園⑦の南には、市場の様な峰岸青果店⑧がありました。



大和町 消防署通り

「消防署通りを見ていきましよう」

小さなロッテガムの工場①（紙包み作業場）があり、近所のおばさん達が働いていたのです。その南に、八幡神社の大神輿が繰り出した小杉無線②があります。（3-27頁）

民生食堂と今も看板のかかる天正食堂④が見え、今残っているのはここだけです。消防署にかかっています。消防署には火の見櫓もあって大和町を守り、消防署通りと呼ばれて親しまれ、商店街が大場通り（早稲田通り）まで続きました。

小説の中の当時の大和町

野方 (瀬戸内寂聴／著 小説場所より部分を抜粋)

あの頃、新宿から出ている西武線の野方の駅もこじんまりして電車から降りると、ほっと心が緩む様な駅であった。

そこから南に延びた一本路があつて、少し歩くと小さな川にさしかかる。橋とも気付かず、つい、通り過ぎてしまふようなささやかな橋がかかつていた。

そう言えば、川沿いに少し歩いた所に、広大な地域を占めた大正製菓の社長の豪邸があつた。

居心地の良かった西荻からなぜ引越したのか、どうしても思い出せない。

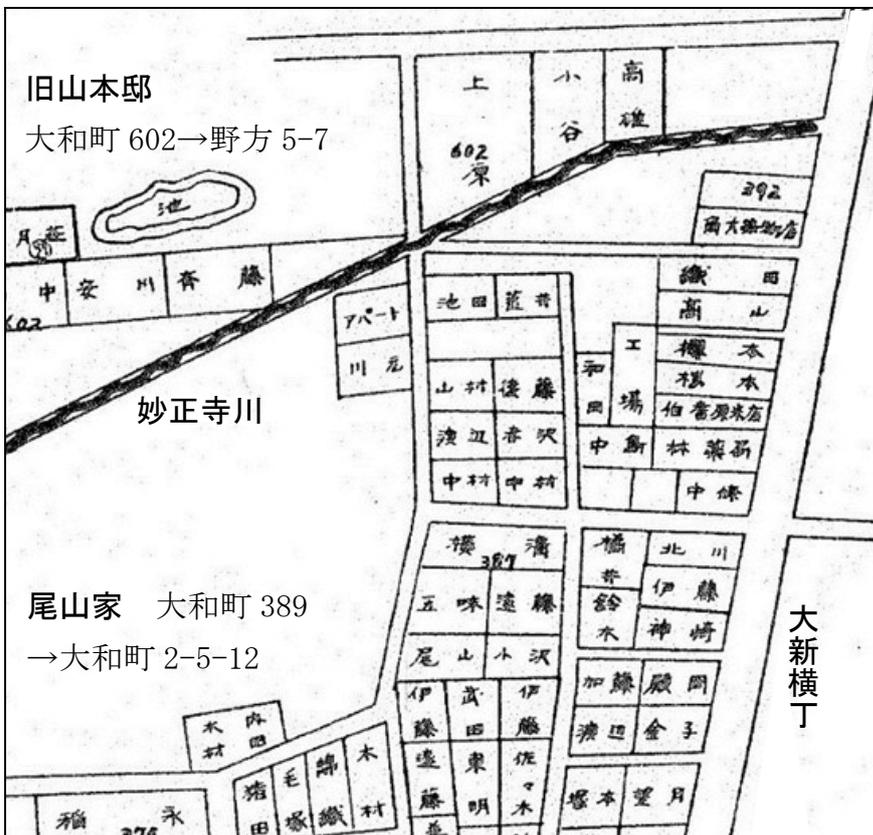
引越しは昭和三十二年春の事で、新住所は中野区大和町三百八十九番地であつた。

野方と呼ばれているのは、野方駅の北から東の一带をさし、駅の南側は広い地域が大和町の地名になつていた。それでも、当時は大和町界隈も野方と称していた。

(中略) 三十五歳の春から、三十九歳の十二月まで、私はこの野方の大和町に住んでいたのだった。

瀬戸内寂聴 大正十一年(1922年)徳島生れ。

東京女子大学卒。昭和三十年代前半の大和町の素描です。



左は昭和三十三年の地図です。まだ環七通りは無く、妙正寺川も改修前です。大新横丁沿いには染物屋があり、旧山本邸には池が見え、渡ったささやかな橋とはでんでん橋の事でしょうか。現在そのあたりは、沼袋橋公園となっています。

第四章 昭和後半から平成

一 項 東京オリンピック開催 4・2

突貫工事の環状七号線
大和町を分断する環七通り
公害のもとになった環七通り
騒音に悩まされた沿道

二 項 住居表示（変更）実施 4・7

住居表示の思い出

三 項 より良い町を目指して 4・9

住民の財産・公園の設立
公園の第一号

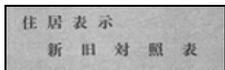
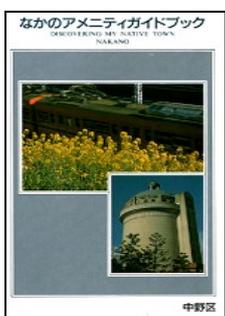
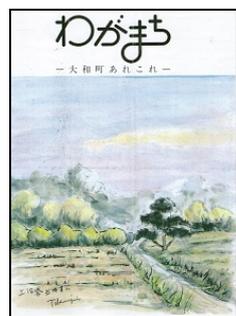
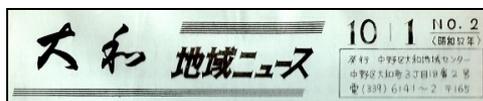
- ① 西大和児童公園
- ② みはと公園
- ③ 啓明公園
- ④ 西大和公園
- ⑤ 大和公園
- ⑥ 大和北公園
- ⑦ 大和花公園
- ⑧ 大和鹿鳴公園
- ⑨ みすみ公園

四 項 水害の無い安全な町作りへ 4・16

妙正寺川の治水・護岸工事
遊水地（地下調節池）の建設

五 項 平成の街並み 今と昔 4・18

昭和三十年代の早稲田通り
現在の早稲田通り
田中風呂店 妙正寺川の今と昔



第四章 昭和後半から平成

一項 東京オリンピック開催

第十八回東京オリンピックの開会式
国立競技場を主催国として行進する日本選手団
昭和三十九年（1964年）十月十日 晴天



昭和三十九年（1964年）東京でオリンピックが開催され、この時は国中が異様な興奮に包まれました。

何故なら、昭和十五年（1940年）のオリンピックは、東京で開催すると決まっていたのですが、日本は中国と戦争（昭和十二年・支那事変）をはじめてしまったため、欧米諸国より非難をあげ、開催を返上しなければならなかった、悔しい思い出があるからなのです。その後アメリカとも戦端を開き悲惨な結果を招いた事は周知のとおりです。

オリンピックの開会式の十月十日は、体育の日の制定のきつかけになりました。

平成三十二年（2020年）には、東京で再びオリンピックが開催されることがきまり、前回のオリンピックを知らない世代も多く、このオリンピックへの期待が高まっています。



東京オリンピックを、当時チーフカメラマンとして取材・撮影する小川信一さん。大和町二丁目在住市川崑監督の記録映画、マラソンのアベベ選手の撮影も小川さんでした。その後ベトナム戦争での決死のニュースの画像は、栄えある「ブルーリボン賞」に輝いています



突貫工事の環状七号線

オリンピックを行うためには、競技場と選手村をつなぐ道路や、観客を運ぶ交通網の建設整備が必要です。

東京の道路交通は、都心から放射状に延びており外周を巡る交通は不足していました。大正時代の大環状鉄道計画（東京外円鉄道）は立ち消え、昭和初期に出来ていた環七道路計画は遅々として進まず、外周交通の達成は半ば諦めていたところオリンピックが決まったわけです。

羽田空港から駒沢競技場（サッカー バレー ホッケー）戸田漕艇場（ボート）そして朝霞米軍基地（射撃場および選手村予定、選手村は代々木で決着）を繋ぐ環七通りの完成は絶対のものとなったのです。

オリンピックという錦の御旗の下、かなり強引に立ち退きをせまり工事を進行了ました。それでも中央線の立体交差に時間がかかり、道路が開通したのはオリンピック開始の三週間前という際どいものだったのです。

ちなみに、国立競技場と駒沢競技場との連絡のため青山通りを二倍に拡幅したのも、東海道新幹線が開通したのもこの年です。

あの時の国立競技場と、新幹線は、今どうなっているのでしょうか

新幹線の初代0系は全て廃車になり、走ってはいませんし、国立競技場も2020年オリンピックに向けて取り壊しが始まっています



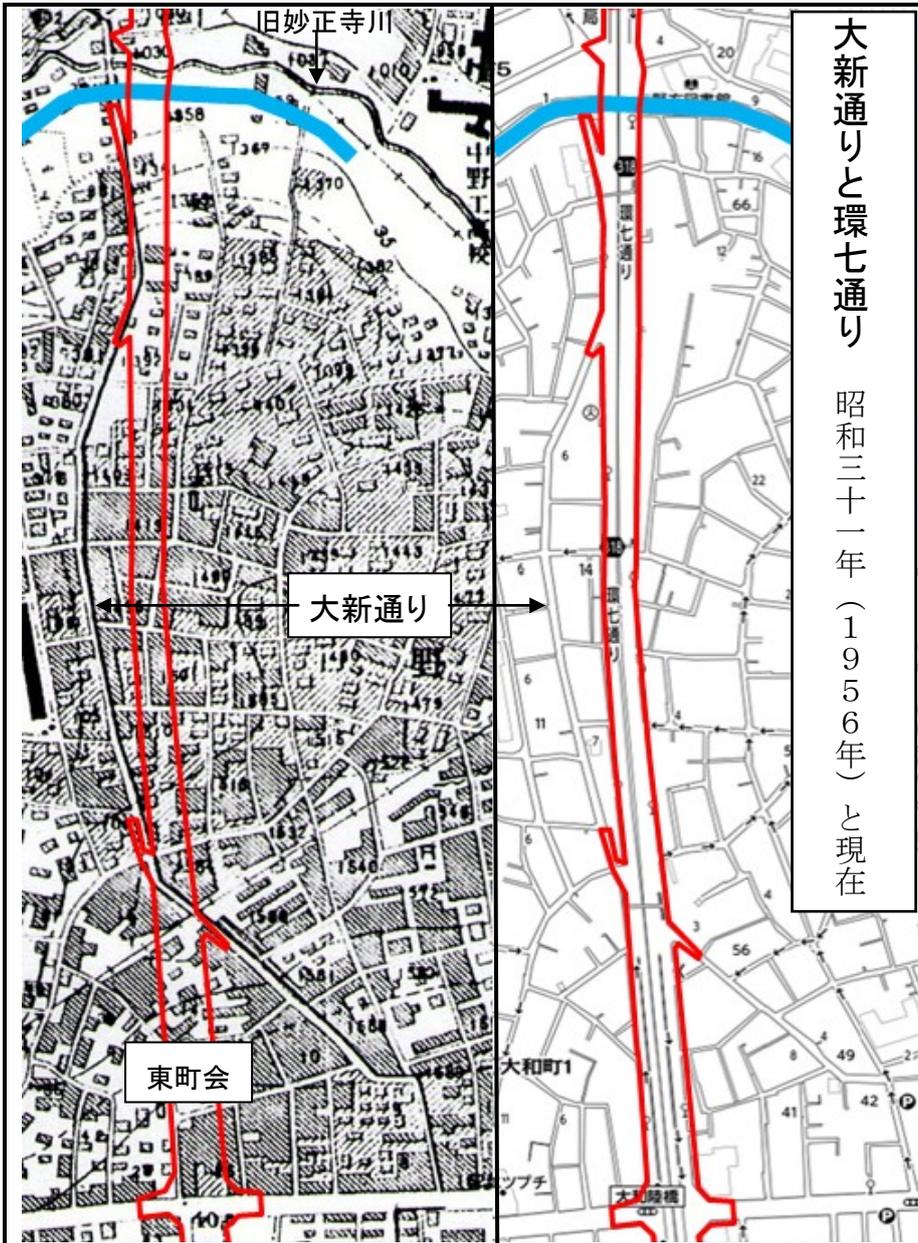
大和町を分断する環七通り

大和町と野方の境目は、大新通り（大新横丁）でした。この道の南を斜めに貫き、東町会を分ける形で環七通りが出来たのです。多くの人達が立ち退き、今環七通りの歩道に立つと、歩道橋の先に大新通りが続いている事がわかります。

公害のもとになった環七通り

確かに環七通りを車で飛ばす人達に、この広い道路はたいそう気分が良かったでしょう。しかし無理をして作った道路は、付近の人々の暮らしを変え町の性格までガラリと変えてしまったのです。大和町東側の、大和町と野方を分ける境となっていた大新通り（大新横丁）は、環七通りが新しい境界になり、バス路線も移され、商店街の当時の面影は既に取りません。（2139頁）

大新通りと環七通り 昭和三十一年（1956年）と現在



でもここは、住所が野方になった今も大和町の東町会です。また、早稲田通りの南側も、その昔「御囲」があった時代から中野区の大和町一番地で、東町会です。ですから他の町会とちがって、町内を一周するのに六つも信号を渡らなければならぬ、と東町会の人はいいます。環七通りの開通は、自分の住所が隣町になり、通学区分が分断されて親しい友達と通う学校が別れてしまうことなどが生じ、その結果父母が教育委員会に陳情して「学校の選択は父母に任せる」など学区の線引きを緩やかにする副産物も生まれました。



環七通りの立体交差点 工事中の写真
(わがまちグラフィティより)

昭和 21 年戦後復興院告示第 3 号により計画され
オリンピックに合わせ昭和 39 年 9 月に工事完成
中野区内 1910m の、そのほとんどが野方地域を
通っています

しかしこの道路は、開通当初こそスムーズに走れたものの、
すぐ交通渋滞の名所となってしまう。そして最大のツケ
が現れたのは開通して数年経った頃です。

昭和四十五年（1970年）五月十八日 妙法寺に程近い
立正高校で、体育の授業中多数の女子生徒が目痛みや頭痛
を訴え、四十数名が病院へ運ばれるという騒ぎが起きました。
原因は光化学スモッグでした。



環七通りが完成して、同時に中央線も高架線になりました
すぐ西側が高円寺駅です
夜の環七通りの八幡通りあたりは車のライトが途切れません



慢性渋滞の自動車排出ガスが紫外線によって、有毒物質ダ
イオキシソンとなり光化学スモッグを発生させたのです。
それ以降、光化学スモッグ警報が出されるようになり警報
が出ると沿道の学校は大急ぎで校庭の児童生徒を教室に呼
び戻すなどじつに笑えない出来事が日常的に起きたのです。

騒音に悩まされた沿道

排出ガスの被害にも増して沿道の人々を悩ましたのは、騒音です。渋滞時のエンジン音、道路が比較的空いている夜中の突っ走る車・トラックの轟音と地響き、一日中休まる暇もありません。

昭和四十九年（1974年）十二月五日に行われた調査によると、大和町二丁目で、朝八十ホン日中七十六ホン、夜中でさえも七十四ホン、最大時九十ホンと記録されています。九十ホンが続くと難聴になるといわれています。安眠可能とされているのは四十ホンですから、いかに異常かと言えます。当然社会問題となりました。道路に面している建物には、二重窓が付けられる事となりました。裏庭がすっかり道路となってしまう大新横丁沿いのお店の御主人は「東京都の費用で、裏側の窓はサッシの二重窓にしてもらった」と証言しています。

しかし騒音・振動による不眠症や排出有毒ガスなどによって体調を崩し、引越しを余儀なくされた人もかなりいました。なまじ道路にからなかった為立ち退き補償ももらえず、その苦衷は想像に余りあります。

その人達にとり、環七通りとは一体何だったのでしょうか。現在は、ガソリンの無鉛化やジーゼルガス規制など排出ガスによる公害問題はずいぶん減少し、加えてエンジンの改良で

騒音も激減しています。これらの技術革新には、環七通り沿い住民の犠牲が大きく貢献しているのです。



環七通りの上空に現れる「環七雲」

環七通りを走る車の排気ガスが舞い上り、その浮遊粒子状物質が雲の発生を助長し、道路に沿って積乱雲の発生が今も見られます

二項 住居表示（変更）実施

環七通りも開通し、東京オリンピックも終了した昭和三十九年（1964年）十二月、大和町一番地から二十六番地は、野方一丁目へと変更されました。三十年間もなれ親しんでいた町の名前が、いきなり野方という隣町の名前になってしまったわけです。

この地域は大新横丁の西側、大和町の東のはずれですが、環七通りによって引き裂かれました。大和町から見て環七通りの向こう側になったところですよ。（414頁）

翌年の昭和四十年七月、今度は野方二丁目の住民が「あなたの住む町は今日から大和町となりました」と言われる事になりました。環七通りによって引き裂かれて大和町側になってしまった大新横丁と環七通りの間の細長いところですよ。

昭和四十年（1965年）の住居表示変更はそれだけでは済みませんでした。妙正寺川の北側、大和町五百四十六番地から六百一番地は若宮一、二丁目に、大和町六百一番地から六百二十三番地は野方五丁目に組み込まれてしまったのです。随分と町の面積が減ったものです。

その代わりという訳ではないでしょうが、鷺宮一丁目の南端、妙正寺川の南側（大和町側）まで張り出していた鷺宮が大和町となりました。

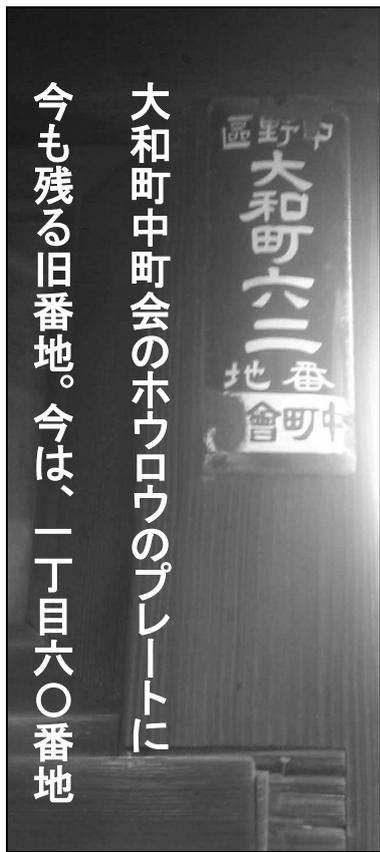
境界線の変更と並行して、大和町の南北を走る大和町中央通り（消防署通り）と東西に走る八幡通りを境にして、一丁目と四丁目に分割されました。

今まで通し番号であった大和町の番地は、○丁目×番（地は付かない）△号とまったく新しい表示へと変更されたのです。これらの改定は、昭和三十七年（1962年）五月施行された、住居表示法「法119号」によるものですが、政府はそれに先立つ昭和三十五年、町名整理に関する世論調査を実施しております（人口二十万以上の市民三千世帯）

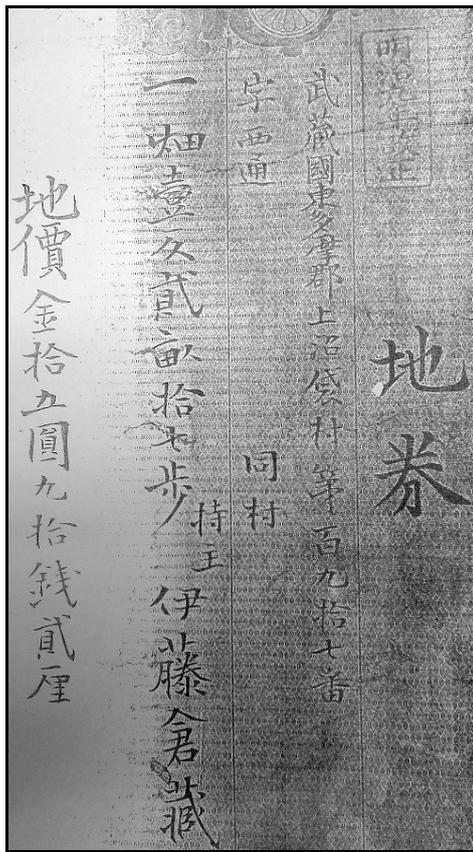
それによりますと「現在の番地は一般にわかりにくい、道路・河川を境界にしたほうが良い、が過半数を占めた」とあります。大和町の変更はまさにこれが当てはまっています。しかし昭和四十年の住居表示実施に関しては、全国各地で猛烈な反対運動が起きています。特に東京が激しく、それは古い由緒ある地名が消える事への反発でした（例えば目白が東池袋へ編入）

反対運動が実ったところもありますが大概の住居表示は実施されました。

しかし以前からある地番（多くは旧番地）は、土地の所有権（地券）を表す貴重な記号ですから、政府もこれには手をつけられず、土地台帳で新しい丁目を頭に付ける事で止めています。これ以降日本の所番地は、地番と住居表示という、二重構造となっています。（112頁）



大和町中町会のホウロウのプレートに
今も残る旧番地。今は、一丁目六〇番地



地券 明治九年改正武蔵国東多磨郡上沼袋村第百九拾七番
字西通 畑壹反貳畝拾七步 地価金拾五円九拾銭貳厘

明治の地券（土地所有権現在も登記はこの番地の番号）

「やまと今昔物語」には、この時の思い出として田中四郎氏（故人・初代西部自治会長）の一文が載せられております。

住居表示の思い出 抜粹（表記は原文どおり）

… 住居表示制度が中野区で審議された際、私も当地域を代表して参加しましたが、改正についての方針としては、なるべく町は付けない・丁目の番号及び戸番号のつけ方は皇居を中心として右回り・時計回りにつける、という事でしたが、大和町となったのは大和（ヤマト）という音が国名や歴史上の地名と同一で間違いやすい上に、語呂の点からも大和町（チヨウ）と続けたほうがいいやすぐわかりやすいという当方の主張が入られた結果であります。

なお、丁目の番号も早稲田通りに沿ってつけければ東西に一丁目二丁目と並ぶわけですが、旧消防署通り（二二七号道路）が都市計画道路に指定されているので、将来のことを考え、現状に決めました。

ちなみに、杉並側の馬橋の地名がこの改正で高円寺と改称されたので、早速各筋にお願いし、バス停の呼称を馬橋四丁目から大和町三丁目に変更してもらいました。

第三項 より良い町を目指して

住民の財産・公園の設立

我が国に公園というものが出来たのは明治四年（1871年）で上野公園が第一号といわれています。

オランダ人軍医ボードワン博士の提案でしたが、西洋の文化を取り入れることに熱心だった明治政府はすぐ採用し、これによって上野公園が生まれました。

翌々明治六年一月 政府は各府県に対し「古来から名所旧跡と言われる所は公園として申し出よ」と通達を出しました。これが「太政官布達第十六号」というものです。

明治三十五年（1902年）には市区改正事業によって、最初の近代的な公園日比谷公園が造られています。これで公園のイメージが出来上がったのではないのでしょうか。

昭和三十一年（1956年）に都市公園法が制定されるまで、後にも先にも公園に関する法律的效果を持つものは、太政官布達だけだったのです。それまで人々は公園の定義もよくわからなかったのです。

この為か、庶民にとって正規の公園とはとても大きなもので、地元の公園とはせいぜい子ども達の遊ぶ空き地くらいの

感覚であったのです。それでも昭和二十年代後半までは、空き地もあちこちにありました。

しかし、その空き地を探すのが難しくなった昭和三十年代、空き地が殆ど無くなってしまった昭和四十年代、子ども達の遊ぶ所は大人が確保しなければならなくなっていたのです。

しかし学童疎開で飢餓を経験した父親たちは、企業戦士として高度成長経済まっしぐら、地元をふり返る余裕はありません。この子ども達の空間の必要性を感じ取り実行に移したのは、日常子供と接している母親たちでした。

大和町の公園開設にも、お母さんパワーがひしひしと伝わってきます。

公園の第一号

大和町に出来た公園の第一号は西大和児童公園です。

「やまと今昔物語」にこの頃の思い出が記載されています。

（要約） 地主さんや近隣の皆さんのご協力で、幼い子ども達の憩いの場となったのは昭和二十六年（1951年）三月の事でした。三年ほどしてから毎週一回、幼稚園や保育園へ行ってない三歳以上の子ども達を対象に、専門の保育さんによる巡回保育が行われる様になりました。この青空保育園は大にぎわいでした。面積二百九十㎡という狭い公園ですが、



見事な花壇のある、西大和児童公園



大きな鳩のオブジェのある、みはと公園



見事な花壇が作られ、手入れが行き届いていて、通りがかりの人の心がなごむ大和町の住民にとって誇ってよい公園の一つだと思います。(左の写真)

① 西大和児童公園 (大和町三・四十二)
大和町の公園の第一号

② みはと公園 (大和町四・五十一)
鳩の公園 昭和四十年(1965年)完成です。
公園としてはとても古く、面積も千二十m²と立派なもので欄干に鳩が飾ってある美鳩橋(妙正寺川)のそばにあります。公園にも大きな鳩があり背中に乗ることができます。周辺は鷺宮白鷺など鷺のところなのに、ここは鳩の公園です。

③ 啓明公園（大和町一―二十二）

お母さんパワーが実って設立

昭和四十年頃、啓明小学校の少し南側に千二百四十㎡もの大きな空き地がありました。平和生命が建て直しのため取り壊した寮の跡地です。子ども達の格好の遊び場でした。（会社の好意で町会が貸してもらっていたのです）

啓明小学校PTAのお母さん達はここを公園用地として買い上げて欲しいという陳情を区長に行うと同時に、会社の社長に手紙を出したり、本社の総務部へ交渉に行ったり、区議会へ提出する陳情書に四千名以上の署名を集めたりと大奮闘をして、見事公園の設立にこぎつけたのです。昭和四十九年のことです。交渉には数年かかりました。（会社は、別のところへ寮を建てました）



④ 西大和公園（大和町四―五十）

啓明公園開設と同じ日、昭和四十九年八月二十日の開設です。広さも千㎡と、堂々たるものです。



⑤ 大和公園（大和町二一八）

キャッチボールのできる公園

「みんなここに公園ができてうれしいでしょう」「ちっともうれしくない」「えー！どうして」「だってボールが投げられなくなつたもん」これはかつて啓明公園ができた時、NHKテレビでの会話です・・・（やまと今昔物語より）

お母さんパワーで実現した公園としてマスコミにとり上げられたわけですが、これには大人たちがびっくり、そういえば空き地のころはボール投げや三角ベースの、し放題だったからです。正規の公園となると、ブランコ・滑り台・砂場の三種の神器が必須設備で、キャッチボールは禁止になってしまうのです。

お母さん達は「安心してキャッチボールができる広場」を合い言葉に地域の空き地を探しました。運よく土地を提供してくださる方がみつかりました。しかも、昭和四十二年に開設の大和児童館が併設されている「大和公園」の隣接地です。公園設計の説明会には、区の計画に対抗して、お母さん達も設計図を用意して逆提案しました。これには区側もびっくりしたそうです。拡張されたのは昭和五十四年です。

大和公園は
三千二百十²mと
大和町の公園として
は最大の面積を
誇っています。
奥に見えるのが、
大和児童館で、南側
にじゃぶじゃぶ池
（子供用のプール）
もあります



児童館の西側には、安心してキャッチボールができる様に、フェンスで囲われた広場が設けられています

⑥ 大和北公園（大和町二・四十五）

いちようの木が生みの親

地主と住民の間で十年間も揉めている土地がありました。大きく立派な銀杏の木があるところでした。地主さんは、区の施設になるなら売っても良いといいました。昭和五十六年（1981年）のことです。

区は、地域センター（現区民活動センター）を造りたかったのですが、銀杏の木が邪魔になります。木を伐採する事には皆ためらいがありました。そんな折消防署通り（大和町中央通り）沿いの鉄工所跡地も買えることがわかり、センターはそちら（現在地）となりました。

大きな銀杏の木があるところは、昭和五十八年公園となりました。大和北公園です。銀杏の木は「百年いちよう」と名づけられ、大和町の名所の一つとなっています。（5-14頁）大和町がわかる、最も古い江戸の地図を見ると、鳥居が描かれているのがちようどのあたりです（2-13頁）

「北公園の西側に小さな山があり、頂上にお稲荷さんがありました。消防署通りを作る為に山は崩され、お稲荷さんは八幡様に移しました」との記録もあります。（3-12頁）そして今、大和町中央通りと名前が変わったこの道の拡張計画と、まちづくりが始まっています。（5-6頁）



大和北公園と書かれたプレート奥に、百年いちようの大きな幹が見えます。いちようは昔、雄雌の2本があったといえます。左の写真は中央通りから見た北公園への入り口で小さな広場になっています（3-12頁）



⑦ 大和花公園（大和町一―五十四）

大きな八重桜



消防署通りの名前の由来となった、消防署跡の向かい側に見事な八重桜のあるお屋敷がありました。ここも区の尽力で

昭和六十二年公園に生まれ変わりました。四百㎡ほどの小さなものが、春には八重桜を見に近隣の人たちがやって来ます。

⑧ 大和鹿鳴公園（大和町三―二十七）

鹿鳴館の礎石



自宅に大きな庭石を配置しているお屋敷がありました。その石は鹿鳴館の礎石だったので。明治政府の迎賓館だった鹿鳴館は明治時代後半華族会館となり、昭和十五年（1940年）に取り壊され、最終的に何と私たちの町と同じ名前の大和生命保険会社になったのでした。（帝国ホテルの隣）「やまと今昔物語」に、皇居竹橋改修で余ったお堀の石垣を、「大和町三丁目の鍋田さんが入手されました」とあります。大和小学校の開校二十五周年記念の「大和の碑」の裏面に、鹿鳴館の礎石の一部で、大和生命保険会社より寄贈された



石には刻印が

二十五個の安山岩とあるので、残りが庭石になったのかも知れません。平成四年（1992年）公園となり、造成にはその石を使いました。大名の刻印がある石もあり由緒のある公園で広さ四百四十㎡です。大和の碑（5―1頁）

⑨ みすみ公園（大和町三二二十五）

大和町最後の公園

この辺りには、僅かの湧き水と雨水が集まって出来た「三角池（さんかくいけ）」といわれる水溜りがあつて、あふれた水が小さな流れをつくり大場川（妙正寺川）に注いでいました。いつしか流れも池も消えてなくなりましたが、三角池の記憶は受け継がれていました。

そのすぐそばの土地を区が買い入れ平成五年（1993年）公園としました。三角池にちなんで「みすみ公園」と名づけています。二百㎡と大和町の公園では最小の面積ですがこれ以降大和町には公園が生まれていません。公園になるような纏まった土地は、マンション等になってしまふのでしょうか。でもやっと最近になって、番地としては大和町ではありませんが、白鷺団地の妙正寺川護岸工事と調節池の建設に伴って、その上部に一番新しい、白鷺せせらぎ公園の造成の工事が始まっています。（4-17頁）



蓮華寺（大和町四一三十七一十五）

公園ではありませんが、こんなに緑に囲まれた泉があり、季節が来れば鴨も訪れ、境内の桜も見事です。（2-24頁）

四項 水害の無い安全な町作りへ

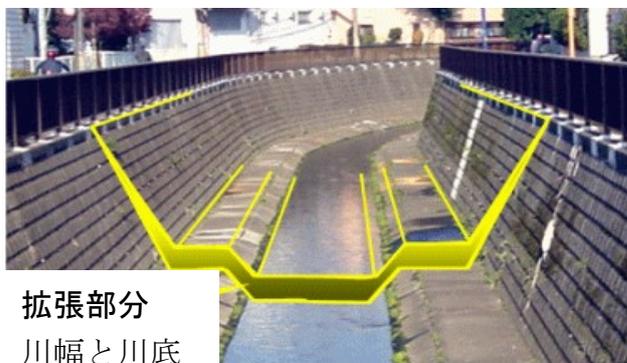
妙正寺川の治水・護岸工事

昭和三十年代になると、妙正寺川流域の田畑がつぶされ集合住宅が立つようになると川原は狭まり、保水性が無くなり多少の雨でも川は溢れ、川沿いの人達は大変な目に遭うようになりました。

「やまと今昔物語」には、昭和三十三年（1958年）昭和三十八年と再度にわたる大洪水の事が記載されています。汲み取り式のトイレが溢れた模様や、一度ぬれた畳は乾しても腐ってしまうなど、被災された方々の苦勞と恐ろしさが伝わってきます。

二度目の水害のあと住民たちが「妙正寺川対策懇談会」を結成、運動の結果水路を拡張、川底を深く、岸はコンクリートで囲う工事が暫時推進され、昭和四十年代の後半には、ほぼ現在の形になっていったのです。

川岸に、葦の原や畑があった牧歌的な風景は失われ、都会の波が一気に押し寄せたという事が、目に見える形で実感させられたのです。



拡張部分
川幅と川底



環7通り新昭栄橋横の妙正寺川取水口
この地上部には、沼の字となった沼栄橋公園

総延長、約三十kmにわたる環七地下河川計画の一部です。千億円余をかけて、環七通り地下調節池（貯水槽）が建設され、全長四・五kmの巨大なトンネルで最大五十四万 m^3 の貯水量です。

遊水地（地下調節池）の建設

これほどの工事をしたにも拘わらず、平成十七年（2005年）九月妙正寺川は溢れかえります。大和町の川に面しているところは殆ど被害にありました。中野杉並で三千戸以上の被害が出ました。

都は、河川激甚災害特別緊急事業を、この年の十一月国交省に提出し採決されています。その内容とは、妙正寺川の河川整備・護岸整備・河床掘削・橋梁架け替えに加えて、環七地下調節池（貯水槽）とその取水施設（野方五丁目）の建設です、平成二十一年に完成しました。

同時に、この取水施設の上に七百七十mもある公園が出来ました「沼栄橋公園」です。住所は野方五丁目ですが、もとは大和町六百番地です。大和町の公園に加えたところです。というのも、沼袋という地名には、洪水の調整池という意味があり、この地域の昔の地名である、上沼袋と下沼袋村が共に栄える願いが込められた名前の公園だからなのです。

平成二十二年大和町より上流の妙正寺川の調節池建設にも着手しています。白鷺一丁目の都営鷺宮アパートの建て替えを機に、調節池本体と隣接する護岸工事も行い、平成二十五年から、取水が可能となりました。

工事中の白鷺一丁目
都営鷺宮アパート北側は
妙正寺川の護岸工事と調節池
の建設中で、その上部に
白鷺せせらぎ公園が出来る



平成17年9月4日の妙正寺川
下井草観測所で、112 mm/時間の
降水量の記録がありました

五項 平成の街並み 今と昔

昭和三十年代の早稲田通り 大場通りと呼ばれていて、
大和町中央通りから西側の先は、関東バスが電信柱を

擦って通る、狭い道でした。
山口質店の看板や、ダイハツミゼット（小型三輪車）後ろに
トヨタのクラウンがつづいています。ボンネットバス、買い
物かごと自転車、現在のみずほ銀行前、大場通りの風景です。





現在の早稲田通り

写真1



写真2



写真3

早稲田通りから中央通りの南側に入る所には、一階が歯医者さんの大きなベージュ色のビルが建っています。(写真3) 道路側の壁が四十五度になっているのは、そこに広い道路が予定されているからです。手前の鎧戸窓の空色の荒牧医院は

その奥に母屋のある歴史的な建物ですが、道路の拡張で一部を削られる恐れがあります。写真3で、黄色のタクシー前の大和町郵便局や薬局、角の眼医者さんの建物は、いずれ中央通りの道路拡張で取り壊される予定です。(5-4頁)



田中風呂店

当時大場通りと消防署通りの角、今は早稲田通りと中央通りの角のビルとなっている所に、風呂店がありました。

当時の風呂は大きな木製の風呂桶で煙突が付いて、上の写真にその風呂桶が見えます。道路拡張後の場所を正確にいうなら、その店は、早稲田通りの中にあつたということになります。



妙正寺川の今と昔

教会の前を流れる妙正寺川もずいぶん変わりました。建物も変わりました。

番地ではここは、既に大和町ではなくなりましたが、川北橋のすぐ横に、昔と同じ様に今も十字架が見えます。

日本基督教団更生教会の今昔です。



第五章 大和町の今と未来

一項 大和町の今 写真素描1〜4 5・2

二項 大和町の明日 5・6

大和町まちづくりの会発足
町の課題とまちづくりのルール
大和町中央通り拡幅

三項 小学校・中学校の整理統合 5・10

四項 町のたからもの 5・12

大和町の春
大和町の夏
大和町の秋と冬

大和町の花壇
大和町の子ども達
未来の住人

五項 町会活動の現状とこれから 5・16



日本をになえたくましく 世界をつなげまろやかに大和！（大和の碑の前で4-14頁）



四中作品展



啓明小 皆でジャンプ



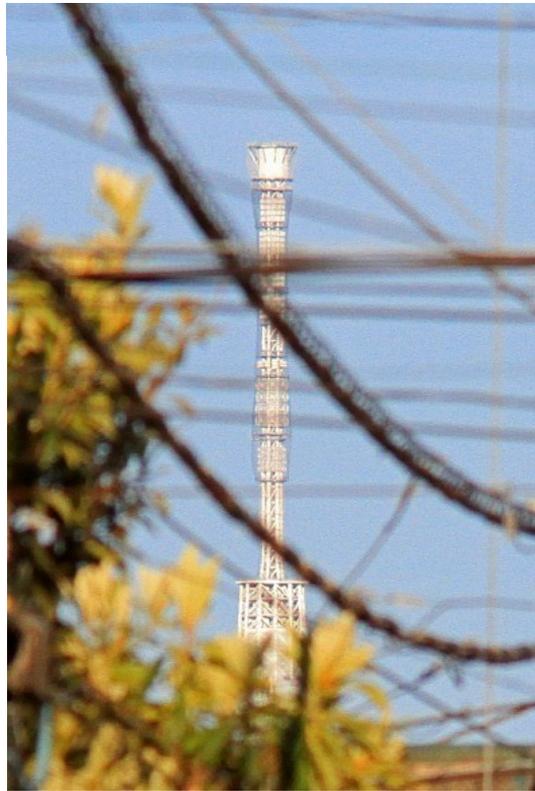
啓明小の1年生と2年生 未来へ

啓明小学校 大和小学校 区立四中 のホームページより



1項 大和町の今

写真素描 1





写真素描 2

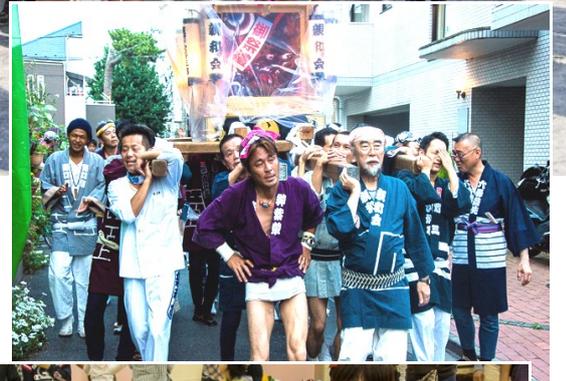
平成 27 年 (2015 年) 3 月 5 日の大和町 撮影平田敏昭氏 写真素描 1, 2



撮影 石川久氏 平田敏昭氏 写真素描 3, 4



写真素描 3





写真素描 4



二項 大和町の明日

大和町まちづくりの会発足

平成二十五年（2013年）八月、より良いまちづくりを目指して、「大和町まちづくりの会」が発足しました。

実は、まちづくりの会の活動は今回初めてではなく、平成となる以前から、まちづくりニュースや生活地図などを作成して取り組んできました。

木造の建物を多く抱え、震災が起きた場合の倒壊や延焼の危険性、消防車の進入や避難経路の問題など、防災上の向上は、大和町にとって長年の課題でした。

今回の契機となったのは、東京都が実施する大和町中央通りの拡張事業で、中野区としても大和町地域全体の防災まちづくりとして、具体的に取り組むことになったのです。

区には大和町まちづくり担当という専門部署が新設され、今回「大和町まちづくりの会」は住民の代表として、対応してゆくことになりました。中央通りの拡張だけでも沿道の商店街や関係する人々にとって生活に関わる大きな課題です。まちづくりにしても、東西の避難路の確保、学校の統廃合による跡地との総合的なランドデザインが必要で、中央通り拡張後の高円寺や鷲宮への道路延長、など全体の工程表の確認も必要なのですが、まだ発表できる段階ではありません。

みんなの大和ニュース 平成26年7月15日号

大和町まちの点検マップ

中野区が事務局となって決めた、「大和町まちづくりの会」の範囲です。

素案の基本方針のポイントは、次の4つです。

- ① まちづくりのルールの導入とまちの魅力の向上
- ② 建物の不燃化の促進と共同化の誘導
- ③ 災害時の避難経路の整備など
- ④ 大和町中央通り沿道のまちづくり

「大和町まちづくり方針素案」がまとまりました！

災害に強いまちを強めます。目指します。

大和町地域は老朽化した木造住宅が多く、都内でも火災危険度が高い地域とされています。平成25年8月に発足した「大和町まちづくりの会」は、今年4月までの計6回、勉強会やまち歩きなどを行い、災害に強く、安心・安全なまちづくりを目指して、話し合いを重ねてきました。その意見・提案などの取りまとめを受けて、中野区は「大和町まちづくり方針素案」を作成しました。素案のポイントは左の別紙で紹介しています。

「大和町まちづくりの会」では、今回の方針素案をもとに、災害に強く魅力あるまちづくりを推進しようとする「まちづくりのルール」など具体化に向けた話し合いを始めています。「大和町まちづくり方針素案」は6月中旬に大和町全域全戸に配布されています。



大型消防車では細い道が入れないので、その先は消防士が駆けつける

町の課題とまちづくりのルール

- * 地域内の七割以上が防火造り・木造であり、老朽家屋が密集している所は、災害時の延焼が懸念される
- * 狭い道路が多く緊急車両の進入が困難、建物倒壊が想定される災害時の住民避難経路が確保されていない
- * 大和町中央通りの拡幅事業にあわせた適切な土地利用の誘導と町並み整備、避難道路としての安全性の確保が必要である

要約すると「災害に強く安全なまち」「誰もが安心して住み続けられるまち」の実現を目指す、ということになります。その第一が、まちづくりのルールの導入です。

まちづくりのルールとは、みなさんが守り、実行できるものでなければなりません、と区の説明文にあります。どんなルールが出来るのか、これが大和町の明日を決めるのかと思うと、とても楽しみです。

しかし現在のまちづくりの地図の区域の線を見ると、昔から大和町で今も大和町なのに、気になる所があります。早稲田通りの南側と環七通りの西側の東町会や、妙正寺川の北の西部自治会、北協和会の部分です。（1112頁）

大和町中央通り拡幅

東京都は平成二十四年（2012年）「木密地域不燃化10年プロジェクト」を打ち出し、木造住宅密集地域で延焼を防ぐ効果の高い都市計画道路を「特定整備路線」として整備拡幅することになりました。

これには、以前よりあった都市計画道路予定線で、住民の反対などで頓挫している所が多く含まれています。今回の措置は災害対策が主点で、環状七号線沿い、環状六号線（山手通り）沿い、台東区の環状五号線（明治通り）沿いの二十八ヶ所にわたっています。すべての完成は平成三十二年（2020年）です。

中野区は一ヶ所ですが、大和町中央通りが候補区間となり、大和町中央通りは「都市計画道路補助第227号線」の一部分です。「第227号線」は杉並区高円寺南二丁目（青梅街道）から練馬区中村北一丁目（目白通り）までの四・五kmを指します。

今回の工事は、そのうち早稲田通りから妙正寺川までの、七百十mが該当しています。幅六mから十六mへと広げ、道路から左右それぞれ三十mの住宅は、不燃化・耐震化の促進誘導をはかるとあります。

この道路は、約四十年も前から、拡幅計画がありました。「まちづくりは地域住民がやるから行政主導の道路拡幅は反対」という、区会議員までを巻き込んだ大反対運動が起きて計画は頓挫しています。高円寺駅より南の青梅街道までと、新青梅街道より北（南蔵院前の道）目白通り迄は、拡幅が成功し広い真っ直ぐの道になっています。

高円寺駅北口から新青梅街道までの約二・五kmは、狭い上に曲がっている昔の道そのままです。これらのこともあって大和町が災害危険地域とみなされているのです。

このたびの「大和町まちづくりの会」の基本方針の中に「大和町中央通り沿道のまちづくり」があります。

通りが拡幅されるということは、沿道の家は立ち退くか、敷地が削られ狭くなるかということ、商売や生活も根底から覆されます。幅十六mの広い道路は、あの環七通りの様に、将来町を二分してしまう可能性さえあるのです。そうだけでなく、この町作りに対してみんなが勝手なことを言ったら大和町はバラバラになってしまいます。

広がった沿道を広い公園のようにしようとか、楽しいお店をもっと呼び、車道はなるべく車が増えないようにしようとか、実は将来の町の夢をみんなが描いています。

それらの夢に向かって「大和町まちづくりの会」は、大和町の未来を決めてゆく大切な使命を持っているのです。

大和町のまちづくりの将来像は、災害に強く安全な、安心して住み続けられるまち、を目指しています。

老朽化した建物を建て替え不燃化することや、耐震の建物に変え、震災時の避難や緊急車両の為に、道路の整備や沿道の建物の耐火、不燃化を行う方針です。建替えが困難な住宅に関しては、住宅などを共同化する事に対する、中野区の支援も用意されています。

① 今回の大和町中央通りの整備にあわせ、大和町が全体としてより良い町となるように、前述のまちづくりのルールを考えています。地区計画や土地利用計画はより具体的に、広場や公園なども災害時にはそれが役立ち、平常時には憩いの場所となるように、そのルールの中で考えてゆきます。

② 大和町中央通りは今回の東京都補助227号線整備計画による整備を南北の中心軸とし、それを補完する東西の避難経路として、八幡通りも将来的に整備する方針です。

③ 検討するルールとしては、建物高さ、用途地域、壁面制限、敷地の最低限度、等になりますが、さまざまな世代が暮らせる町を考えて、単身者アパートだけではなく、ファミリー世帯向け住宅の誘致など、大和町が良質で魅力のある、安心して暮らせる町になることを目指す、としています。

③避難経路の整備

- ・消防車の進入や安全避難ができるように6mの道路を壁面後退で確保
- ・東西南北の避難路、無電柱化
- ・骨格と、補助となる避難経路（下図）
- ・中央通り自体を公園、避難場所に（最新の情報は区のHPをご覧ください）



①不燃化促進事業

- ・中央通り沿道 30mの区域に補助
- ・老朽建物建て替えや除去の補助
- ・共同化による中層の建築

②地域の中心核作り

- ・公開空地やポケットパーク
- ・歩いて楽しめる回遊道路、公園
- ・賑わいのある大和町に

三項 小学校・中学校の整理統合

中野区教育委員会は、平成二十五年（2013年）三月に通学区域の見直しを含んだ「中野区立小中学校再編計画（第二次）」を策定しました。第一次の再編計画は平成十七年（2005年）十月に策定しています。

このとき、野方小学校を含む三校、および桃が丘小学校を含む三校と、中野昭和小・東中野小が統合され（八校の小学校が三校に）、第六中学校と第十一中の統合をはじめとする六校の中学校が三校に統合されています。六中の生徒のうち四中へ通うこととなった者も多く出ました。

この第一次再編計画は、数年かけて実施されましたがその間も少子化の進行は止まらず、ついに第二次計画の策定がやむなくされたのです。

中野区の資料によると、区立小学校の児童数は昭和三十三年（1958年）3万3024人が、平成二十四年度（2012年）は8,547人と約四分の一に減少しています。中学校生徒数は、ピークの昭和三十七年度（1962年）1万6039人から平成二十四年度は3197人と約五分の一となっています。

ちなみに昭和三十三年（1958年）啓明小学校は1,642人大和小学校825人でしたが平成二十四年度（2012年）はそれぞれ295人と258人になっています。

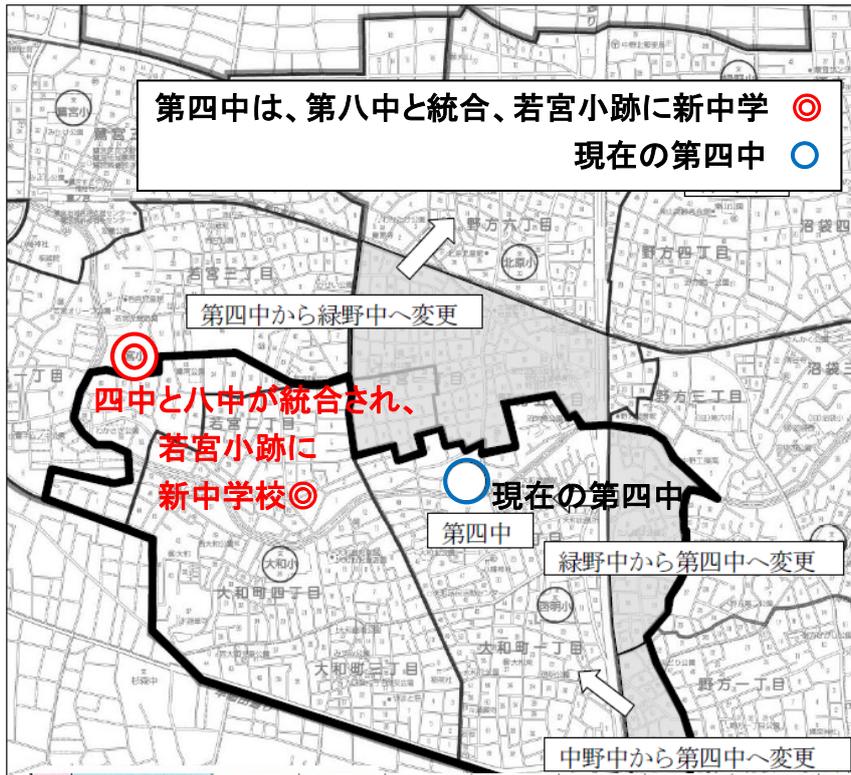
【図13】大和小、若宮小周辺の通学区域



通学区域変更は、大和小学校と若宮小学校の統合にあわせて行います。

四中は、昭和三十三年頃には約1250人以上いましたが、平成二十四年度は202人と六分の一になっています。これらの現状から、今回の再編計画も大掛かりなものです。大和町関連では大和小学校と若宮小学校が平成二十九年度（2017年）に統合されます。当初は若宮小学校の校舎でスタートし、平成三十一年度（2019年）までに大和小校を建て替えそこへ移転します。ここが統合された新しい学校の、正式な校舎となります。

【図10】第四中周辺の通学区域



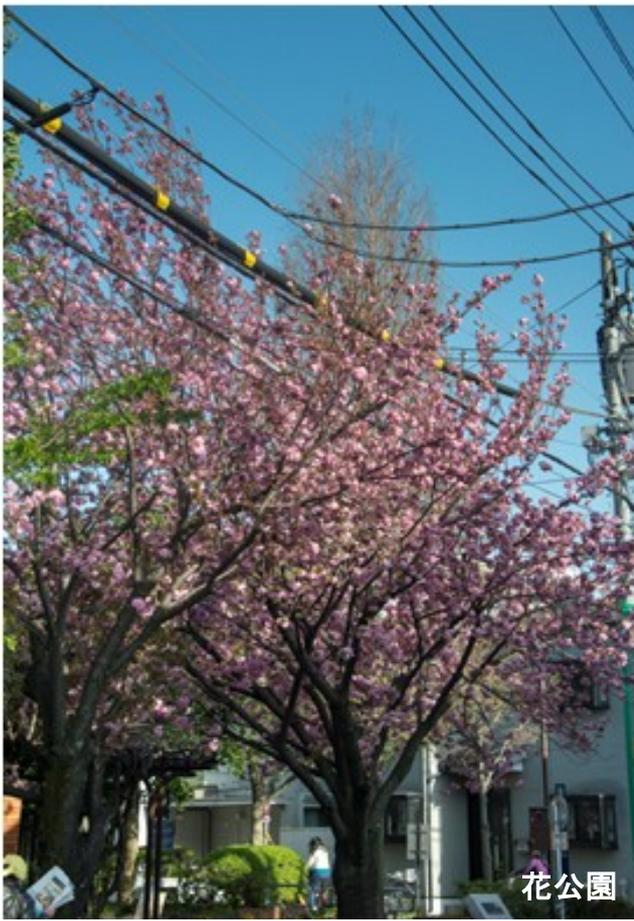
第四中学校は、第八中学校と統合されますが、空き家となつた若宮小学校を建て直し新中学校の校舎とする計画で、平成三十三年度の統合実施となっております。この他、鷺宮小と西中野小、上高田小と新井小など十校の小学校が五校に、中学校は、四中のほかに第三中と第十中が統合、四校の中学校が二校にと減少します。



この結果、第一次第二次の再編計画を通算すると、二十九校あった小学校は十九校に、十四校あった中学校が九校へと大幅に減少します。

しかし国立人口問題研究所の発表した資料によると、中野区が小中学校第一次再編計画を実施した、平成十七年の年少人口2万5863人が平成三十二年第二次計画実施頃には2万1547人、平成四十七年には1万6010人と四割近くも減少すると予測されています。ただし国レベルでは人口減でも、首都圏の人口は減らないという予測もあります。

先程のまちづくりと学校の整理統合の関係は、今はまだ見えませんが、四中の跡地も気になります。大和町のまちづくりが成功して、若い人達も増え、中央通りと四中の跡地が素敵なスペースになっていきますように、願っています。



花公園



蓮華寺

四項 町のたからもの

私たちが生まれるずっと前の時代から、この町の歴史を見つめ、これからも見守ってくださるさまざまな樹がこの町には数多くあります。枯れたり切ったりしたらもう生えてはこない大切な町の宝といっても良いでしょう。私たちはこの宝を、どの位大切にしてきたのでしょうか。
(5・5頁)

季節を巡りながら、大和町の自然を、訪れてみましょう。

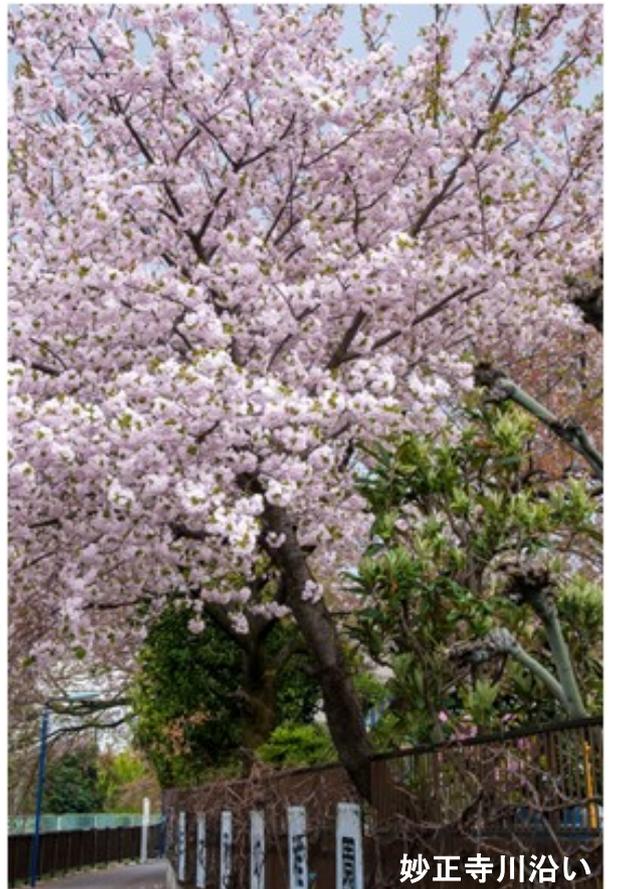
大和町の春

蓮華寺には鴨の夫婦が今年もやってきました。

花公園には八重桜
妙正寺川沿いに桜が咲き
四丁目の畑では花大根が
大きな樹を見上げています。



四丁目の畑



妙正寺川沿い



三丁目の築地塀



三丁目の大樹

大和町の三丁目には
土塀（築地塀）が
今もまだ残っています。
建物と、庭の木と
小路の築地塀が調和して
お洒落です。
塀には、つたが絡まり、
路を歩く人達がほっとする
小路です。
ずっと残してゆきたい
大和町の自慢の一つです。

大和町の夏

三丁目のお屋敷の大きな樹は、
木陰を作ります。

環七通りにも、大きな樹があります。
野方駅のすぐ手前、大新横丁が
環七通りにつながる道路沿いです。

鴨達は妙正寺川が大好きなようで
水もきれいになり水草も生えました。



妙正寺川



環七通り



季節によって装いを変える
百年いちじょうです



大和町の秋と冬

北公園の百年いちじょう

大和町の花壇

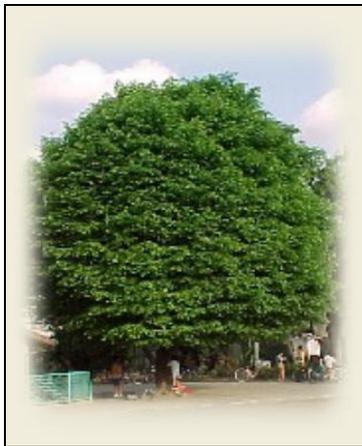
住民の皆さんの努力で守られているきれいな花壇も地域の大切な宝物です。
宝物を残せるような町、大切にしようとする人達がいる町、そんな町を目指すところが「まちづくり」の基本です。
その時大和町はきっと素敵な花の街になっているでしょう。



大和町の子も達 未来の住人

未来の大和町の住人は子ども達です。本当の町の宝物かもしれませぬ。啓明小学校 大和小学校 第四中学校のホームページなどから掲載させて頂きました。(5-1頁より続く)

大和小のぼだいじゅと啓明小の芝生



四中卒業生



啓明小ピラミッド



伊藤栄資 中町会 会長

伊藤英男 西部自治会 会長

大西 治 東町会 会長

吉田國臣 一和町会 会長

木村勝昭 北協和会 会長

五項 町会活動の現状とこれから(町会の概要1・12頁)

日時 平成二十七年一月十六日活動センター二階 洋室

「大和町の各町会長の皆さんの座談会」

出席者 東町会 会長 大西 治

西部自治会 会長 伊藤英男

中町会 会長 伊藤栄資

一和町会 会長 吉田國臣

北協和会 会長 木村勝昭 (司会兼務)

司会

本日はお忙しい所、ご出席ありがとうございます。
今日は、大和町の各町会の現状とこれからというこ
とで座談会をおこないますので、よろしくお願
い
た
し
ま
す。

まず各町会の現況からお話しいただけますか。

「各町会の現況と世帯数など」

大西

東町会の地域の世帯数は1673世帯ですが、会員世帯数は1181世帯になっております。基本姿勢として一年間の活動計画を役員はじめ町会の皆さんに周知することをこの間心がけてきました。

伊藤(英)

西部自治会は地域の世帯数は4030世帯となっております。会員世帯数は1538世帯です。会員比率は40%というところででしょうか。活動は防犯カメラの配置を重点的に行っており現在までに11台設置しています。

伊藤(栄)

中町会は地域の世帯数は約1800所帯です。そのうち1200所帯が単身所帯です。共同住宅が増加していくのは避けられないと思います。会員世帯数は1550所帯、これは共同住宅の方にも会員になってもらっている方が多くおりますので。

吉田

一和町会は地域が狭く役員を探すにも苦勞をしておりますが、毎月の定例会を大切にして運営をしております。地域の世帯数は343世帯、会員世帯は208世帯です。最近では男性の会員が動いてくれる

ようになり、よい傾向だと思っています。

木村

北協和会は地域の世帯数は2270世帯で会員世帯数は1053世帯です。これからの町会活動を担う中堅・若い世代とのつながりをどのようにつけるか今後の課題として活動を進めるように心がけています。

「それぞれの町会費」

大西

東町会是一般世帯が月二百円と単身世帯が百円ですが、現在月額二百円を百五十円にすることで検討しています。

伊藤(英)

西部自治会は月百円、年間千二百円です。集合・共同住宅の場合は協力金という名称で一口とか二口とかで頂いています。歳末助け合い募金以外の募金はこの会計から出しています。

伊藤(栄)

中町会是一般会員は月百二十円、共同住宅会員はその半額の六十五円を入居戸数に応じて頂いています。うちは集合・共同住宅が結構多いですから、その収入も結構多いです。各種募金については別途そのつど集金しております。

吉田

一和町会は月百円、年間千二百円です。アパートはその半分、一部屋六百円としています。各種募金は一般会計からだしています。

木村

北協和会は月百円、年間千二百円です。アパート・共同住宅の会費の徴収アップをはかることが大きな課題になっています。各種募金ですが、赤い羽根以外、大口はそのつど取り組んでいます。

司会

共同住宅管理会社は大和町あちこちでアパート管理をしていることもあります。町会費徴収について、町会ごとのアンバランスのようなものを気づいているようなことはないでしょうか。

伊藤(栄)

それはないと思います。ともかくアパートが多くあり彼らもそこまで考えることはないと思います。町会は管理会社に町会費を請求をしていますよね。管理会社は支払った後、大家さんに請求していると思いますよ。

伊藤(英)

管理会社に町会費を請求すると、アパートに住んでいる人に直接請求して欲しい、という管理会社も何軒かありますね。また新しい集合住宅を建設中の

会社から電話があり、町会費は幾らなのかと尋ねてくる会社もあります。

大西

ハウスメーカーの事務処理でそのような体制ができているのだと思いますよ。東町会では三十三社に請求書をだしています。

伊藤(英)

アパート会費はたとえ半額でも数が多いので大きな財源です。この傾向はさらに強まると思います。

「年間の行事の取り組み」

伊藤(栄)

一年の行事のながれやかたちが制約されますよね。四月が新年度じゃないですか。会費請求徴収があり、新役員さんの選任などがあり、だいたい五月に総会をやるじゃないですか。じつさい活動ができるのは六月からですね。

六月は今まではよく防災訓練などあり、七月は神社の祭礼があり八月にはスイカ割などやって九月はまた去年は総合防災訓練があり、また日赤のバス旅行またそれぞれの町会さんの日帰りバス旅行があったりして、十月は地区まつりがあるんですよ。それに役員さんはかわりますよね。

一月は新年会があるでしょう。年のうち半分くらいは会の運営のほうに時間をとられてしまうかもしれません。

そういうなかで六・七・八月、十一月・十二月あたりで何をやるかを皆さん工夫されているのではないのでしょうか。

「町会それぞれの催しや活動」

司会

こちらでまとめた資料を参考に五町会の行事について申し上げてみます。

東町会・中町会・一和町会合同で夏にスイカ割大会を開催しています。合同防災訓練もこの三町会でおこなっていますね。啓明小校庭を会場に夏休みのラジオ体操は東と中と一和と北の四町会と野方の町会で取り組んでおります。

西部自治会は一月にお正月遊び・餅つき大会を行っています。北協和会は二月に赤飯を炊いてパック詰をして高齢者と子どもに配り、トン汁も振舞う赤飯大会を開催しています。七月には子ども縁日を開催しています。

東町会はトン汁または芋煮会、中町会は芋煮会を

開催しています。かわったところでは中町会では町会というか子供会でクリスマス会やスケート教室を開いていますね。

その他各町会は伊藤栄資さんがおっしゃっていた敬老事業、春・秋の交通安全運動、日帰りバス旅行、防犯パトロールや年末の夜警、日赤大和町分団諸活動への協力活動などでしょうか。

伊藤(英)

西部自治会の場合は八月の大和小おやじの会の大和小校庭での一泊キャンプの支援をおこなっています。また一月の餅つき大会の主催は西部自治会であと大和小PTAとおやじの会が一緒に取り組んでいます。

町会役員の高齢化もありPTAやおやじの会は大きな力ですが、合同の取組は実行に至るまでに調整等いろいろな課題も生じている面もあります。夏休みのラジオ体操は開催しておりません。

伊藤(栄)

中町会、東町会、一和町会の合同防災訓練は三町会とも避難場所が啓明小ということから昔から取り組んできた経過があるようです。

私が町会長になった時はすでに一緒にやっておりました。

木村

北協和会では赤飯大会という行事をおこなっていますが、赤飯蒸し器で赤飯をつくりパック詰めします。また大きなズンドウ鍋でトン汁をつくります。二月に開催ですがお米は六十〜七十キロをつかいます。いつも四百名以上の参加者でにぎわいます。

「運営上の問題や新たな課題」

司会

多岐にわたるこれらの活動を進めるうえでの運営上の問題や新たな課題の取組についてはいかがでしょうか。

大西

東町会では年間の活動計画が年度当初でみえるようなかたち、文書化につとめています。また気が付いたところがあればご指摘くださいと皆さんに申し上げております。そして提案をいただいたことは出来るだけ具体化の方向で検討し、会計については会員の皆さんに可視化する努力をしています。

また予算に占める外部団体への会費、分担金などが大きな比重を占めています。こちら側できちんと検討したうえで分担金、加盟費等の金額を相手側とも協議の上減額するという作業も進めています。

伊藤(栄)

スタンドパイプを合計三台買いました。一台は防災倉庫に二台は民間のお宅にお願いしています。昨年六月に訓練をしましたが、六十名位の会員が参加しました。消防署の方もきて操作の仕方や放水訓練をおこないました。どうしても道の狭い場所がちこち多いので消火能力の程度を高めることが普段から必要です。年に一台づつ位は数を増やしていきたいと考えています。

伊藤(英)

西部自治会は現在一台です。消防署の協力を得て一月の餅つき大会の時に大和小の校庭でスタンドパイプの操作・放水訓練をおこないました。PTA、保護者に実際に操作してもらいました。実際に操作することで関心は高まったですね。今後このような取り組みを町で行う場合は、警察や水道局等の許可、届け出が必要ですので手間がかかりますね。狭い地域、道路なので、放水の場所も問題です。

伊藤(栄)

中町会では啓明小学校で操作・訓練をおこないましたが、警察から道路通行止め許可をもらっておこないましたね。以前に大和小の裏側で川から直接水を採り放水訓練をおこなったこともありました。

伊藤(英) 西部自治会は七地区ありますので今後各地区にスタンドパイプを配置したいと考えています。



「地域の課題とその取り組み」

司会 新たな地域の課題や問題も生じていると思いますが、今後どのように活動に取組んでいかれますか。

大西 役員会の提案を出来るだけ生かす方向での運営に心がけています。財政・会計面でも収入・支出を円グラフなどに図視化して配布しています。そうするとまた会員さんからご意見をいただきますので、さらに改善をしていくという方向で進めています。そのような流れの中で外郭団体の会費もつめるようにしてきています。

伊藤(英) 東町会さんのように円グラフ、棒グラフまでにはしておりませんが、全体を見渡して無駄と思われるものは私が会長になってから減額等をしてきてい

ます。また決算書等をアパートの管理会社にも配るようにしました。

新しく管理会社に請求する時にも町会費がどのように使われているのかを彼らにも理解してもらうためです。これは新しく始めたことです。

今後の課題としては家族世帯会員を増やしたいと思いますが、そのためには家族が安心して過ごせるまちづくりが必要ですので、それを目標にしていきたいです。具体的にどうこうするまでは出てきていませんが、ともかくそれを目標にやっていきたいと思えます。そのようななかで一番問題になっていることは、ゴミ問題、回収場所の設置と周辺の環境をいかにスムーズにできるかな…、ということがあります。

伊藤(栄) 大和町の将来を考え、どのように変わっていくかということを考えて時に、いま防災避難道路整備が大きな課題になってきましたね。それはそれで中央通りの拡幅問題とか大和町全体のまちづくりの取組があります。

それは必要なことだと思っていますが、住んでいる人間が相当かわってくるような気がします。相続税など税制が厳しくなってきましたと、ますま

す賃貸住宅が増えていく、そうすると単身者がさらに増えていきます。それは良くても悪くても受け入れざるを得ないわけです。

それになおかつ、住んでいる方々が高齢化してきている。そしていまの高齢の方はまだいいのですが、この後のこれから高齢になる方は厳しい老後をむかえる方が増えてきている。

なぜかという年金の受給開始が遅くなるとか、蓄えというものが今の高齢の方より少ないです。今後はそのような地域、社会環境のなかで町会の活動が位置付けられてきます。町会活動のなかで活動をになう中堅の人がいません、大きな課題です。

吉田

役員の仕事になるべく負担をかけないような配慮をしています。役割を分担、行事の担当者を決めていますが、どうしてもやってくれというだけでは続きません。つぶれてしまいます。

そのようにしないためになるべく皆で協力してやろうよ、ということを強調しています。区行政・警察・消防からも以前、昔からのお願い事項が次々ときまますが昔どおりやっていければよいということではなくなってきましたよね。

木村

北協和会では十二月に大和北公園の清掃・美化活動しました。当初公園清掃は役所の仕事ではないか、という意見もありましたが、町会地域内にある公園なので私たちも汗を流しましょうと了解をいただき取組んだものです。

北公園は大和町内でも大きな公園で、周縁が花壇づくりになってますが、実際は荒れ放題になっていましたので、大変なゴミの量でした。参加者も取り組んでよかったとの感想でした。

また昨年七月の子ども縁日の時には子ども連れのお父さんお母さんにアンケートをとりました。ほとんどの方が住所も記入してくれております。また若い皆さん方が思い思いの記述を書き込んでくれました。その中身は大和町のまちづくりの課題や町会が取り組むべき内容でもありました。今後若い世代を町会活動に取り込む手掛かりにしたいと思っています。

司会

各町会とも抱える課題や問題は共通のもの、またそれぞれで解決すべきものなど、いろいろ浮き彫りになりまだまだ話は尽きませんが、本日はこのあたりで終わりにしたいと思います。

どうもありがとうございました。

第六章

付録	付録
2	1
年代西暦変換表	中野区大和町周辺 略年表
6 ・ 6	6 ・ 2

中野区大和町周辺略年表 1 (縄文～江戸)

西暦 時代/年間	内容	備考
縄文時代	縄文土器石器 古墳時代土師器出土 八幡神社、大和小学校の西側付近	2-2頁
奈良時代	旧武蔵国分寺創建 750～760年代 鎌倉末期の合戦で焼失	国分寺市
平安時代 794-1185 1050頃 永承年間 1056 天喜4年	郡郷制度確立地名は海田郷 八幡神社 源義家遥拝所を作る 永承年間(1046～1052年)と伝えられている 八幡神社造営	2-4頁
室町時代1336-1573 1352 正平7年 1346-70 正平年間 1362 貞治元年 1400 応永年間 1477 文明9年 1501-20 文亀/永正 1558 永禄	地名は沼袋 元弘2年1332年新田義貞八幡神社に祈願し府中国分寺に向かう 実相院建立(矢島寺) 矢島氏 沼袋に定着 (寺伝による) 氷川神社創建(1477年江古田原・沼袋の戦で太田道灌陣営) 禅定院 開創(伊藤寺) 地名は多西郡 江古田原・沼袋の戦い(豊島氏、太田道灌) 石神井城落城 鷲大明神創建 八幡神社 大場の地名あり (これより50年早い可能性あり)	沼袋4-1-1 沼袋1-31-4 沼袋2-28-2
江戸時代1603-1868 江戸期 1645 正保2年 1658 万治元年 1685 貞享2年 1687 貞享4年 1693 元禄6年 1695 元禄8年 1696 元禄9年 1697 元禄10年 1707 宝永4年 1709 宝永6年 1758 宝暦8年 1761 宝暦11年 1764 宝暦14年 1775 安政4年 1783-86 天明3-6年 1806 文化3年 1815 文化12年 1825 文政8年 1830 文政13年 1836～ 1837 天保8年 1838 天保9年 1856 安政3年 1863 文久3年	地名は野方郷豊島郡又は武蔵国 多摩郡 武州多摩郡 等 村名 上沼袋村になる 以前は沼袋村 鷲大明神八幡神社に改称 蓮華寺関口村(文京区関口2丁目)に創建 (明治41年～大正3年大和町に移転 関連のものそれぞれに年表に記載) 育英地藏建立(育英地藏堂は昭和28年1953年完成) 八幡神社供養碑建立 第5代将軍徳川綱吉、殺生を禁止する法令を制定 庚甲塔建立(現在は厄除不動堂内) 中野に犬屋敷と番屋 伊藤家お困い建造 禅定院にお困い関連施設 千川上水完成 犬屋敷拡大281,486坪 千川上水流域村の嘆願で灌漑分水利用許可 綱吉亡くなり犬屋敷閉鎖 禅定院焼失 八幡神社石造り手水鉢建造(現在は稲荷前) 太陽橋設置 禅定院山門完成 天明元年1781年 禅定院本堂完成 大雨、冷害の飢饉 上、下沼袋村古地図(堀江家文書絵図)作られる 山荘の碑建立(最終的に大正3年、大和町蓮華寺に移転) 新編武蔵野風土記稿に上沼袋枝郷大場村の記載 当時の畑作36軒 八幡神社神殿大修理 狛犬一対建立、区内最古 大太鼓1831天保2年 天保7年1836年、弘化2年1845年、嘉永5年1852年 干ばつ凶作の記録 上沼袋村村境の古地図(堀江家文書絵図)作られる 天保国絵図の武蔵国の全体図作られる 天保郷帳に枝郷大場村の記載(2-17頁) 武蔵国全図(高円寺村と上沼袋村に挟まれた大芳村とあるが大場村の筈) 八幡神社石灯籠建造	2-24頁 2-6頁 2-14頁 別冊地図 2-6頁 別冊地図 2-25頁 別冊地図 別冊地図 別冊地図

中野区大和町周辺略年表 2 (明治・大正)

西暦	時代/年間	内容	備考
1868	明治元年	江戸時代の中野村 本郷村 本郷新田村 雑色 上沼袋 下沼袋 新井村・上高田村 上鷺宮 下鷺宮 江古田 片山村の12ヶ村 武蔵知県事に属す 明治元年(1868年)江戸が東京と改められこの地域は武蔵県となる 品川県→東京府→神奈川県→東京府とその管轄はめまぐるしく変わる	2-18頁
1871	明治4年	廃藩置県東京府になる。大小区制度8区になる	
1872	明治5年	・武州多摩郡村村管轄替羸絵図 神奈川県東多摩郡第8区になる 新橋横浜鉄道	・別冊地図
1873	明治6年	東京府第8大区6小区 上高田 新井 上下沼袋 7小区 江古田 片山 上下鷺宮	
1876	明治9年	明治の地券	4-8頁
1878	明治11年	東京府に15区と6郡がおかれ東多摩郡に戻り同年豊玉郡になる 翌年野方村誕生	
1884	明治17年	大正天皇の貞明皇后、東京府東多摩郡高円寺村大河原家に里子・測量地図1881年	・別冊地図
1889	明治22年	市制町村制で東京府第8大区6小区7小区合併 野方村大字上沼袋字大場となる 町村制が施行 中野 本郷 本郷新田 雑色の4か村が中野村に、 江古田 片山 上高田 新井 上沼袋 下沼袋 上鷺宮 下鷺宮が野方村になり、以前の村名は大字 甲武八王子線開通 中野駅設置 明治27-28年日清戦争	
1895	明治28年	甲武線立川新宿間が飯田町延伸 飯田町中野御茶ノ水電車運転明治37年1904年	
1896	明治29年	東多摩郡南豊島郡の合併で豊多摩郡。豊多摩郡に所属する	
1897	明治30年	中野に鉄道隊設置1907年に移動 中野村が中野町になる	2-15頁
1898	明治31年	東京府15区を東京市(中野、野方村は東京府豊玉郡) 1902年明治35年鉄道大隊	
1904	明治37年	明治37-38年日露戦争 八幡神社に戦没記念碑建立 通信隊に気球班を設置	
1906	明治39年	甲武鉄道国有化 中野新宿間複線化 柏木停車場(現東中野)開設	
1907	明治40年	鉄道大隊千葉に移動(早稲田通り南に平行の日大二高までの演習地が残る)	
1909	明治42年	測量地図1909年	別冊地図
1910	明治43年	野方町に市ヶ谷監獄が移転 豊多摩監獄開設	2-23頁
1913	大正2年	陸軍電信隊、気球隊、通信部が置かれる 大正3年東京駅創建 ~7年第1次大戦	
1914	大正3年	蓮華寺文京区関口台町より移転完了 鎖国時代殉教者遊女朝霞の山荘の碑 山門も同時に移転 キリタン墨染めの桜、境内に湧き水の心字池	2-24頁
1915	大正4年	豊玉監獄、後の中野刑務所、落成	2-23頁
1916	大正5年	東京府豊多摩郡誌郡役場発行 ・伊藤順氏作成地図	・別冊地図
1920	大正9年	野方村に東京市結核診療所、後の国立療養所中野病院 開設	
1921	大正10年	上沼袋全域に電灯普及 青梅街道に西武軌道荻窪線後の都電杉並線開通	
1922	大正11年	大正10年高円寺駅開設 大正11年豊多摩監獄、豊多摩刑務所に改名	
1923	大正12年	関東大震災 八幡神社社務所関東大震災で損傷	
1924	大正13年	野方村が野方町になる 上沼袋郵便局開設	
1925	大正14年	八幡神社社務所完成 ・東京外円鉄道予定線路図(2-28頁)	・別冊地図
1926	大正15年	・大和町東部地図 大新横丁(新道)沼榮橋の開設(2-36~39頁) 東京府豊多摩郡野方第五尋常小学校(啓明小)開校(2-26頁)	・別冊地図 2-26頁
1927	昭和2年	・大東京市地図 東京瓦斯都下供給拡大33万件→昭和4年60万件中野区は昭和3年中町会設立(昭和24年再開 3-25頁) 野方町誌刊行 満願寺開基(2-25頁) 西武鉄道村山線(新宿線)高田馬場(仮)駅-東村山駅間(23.7km)開業(複線)野方駅、鷺ノ宮駅開業 野方屠殺場 昭和2~15年(1927~40年)	・別冊地図

中野区大和町周辺略年表 3 (昭和-1)

西暦	時代/年間	内容	備考
1928	昭和3年	大和町郵便局開局 中央通り延伸、稲荷は八幡神社に、墓は禅定院へ移す	3-12頁
1929	昭和4年	中野駅現在地に移転 野方町地図 野方配水塔竣工し荒玉水道中野に配水	
1930	昭和5年	鷺盛橋設置 (この年東京市で夏季オリンピック開催が予定されていた)	4丁目52
1932	昭和7年	昭和7年10月1日に東京市15区に隣接82町村合併20区増設し35区となる 中野・野方両町が合併し中野区として発足し、同市に編入される 区名は中野町が中野駅を中心に発展しており、中野区の名前に落ち着く 現大和町は中野区沼袋南とされその一日前に大場としたい旨の御願を提出 10月1日に野方町大字上沼袋が中野区沼袋南2~3丁目になる ・沼袋南表示地図 12月23日に町名を「大和町」としたい旨の請願書が再度出される 同時に建議が出される。沼袋南1丁目は除かれ、丁目の分け方が議論される	・別冊地図
1934	昭和9年	5月1日正式に沼袋南1丁目を野方町2丁目、沼袋南2丁目と3丁目を分けず 大和町として改称 八幡神社狛犬一對 浄土真宗満願寺1丁目に開山 八幡神社 村社に昇格	3-6頁
1935	昭和10年	陸軍中野学校が置かれる	
1936	昭和11年	棟方志功「大和し美し」を昭和11年に発表 佐藤一英の詩から制作決意 棟方志功は昭和初期から18年まで大和町に居住 1975年 昭和50年72歳で没 八幡神社 神輿三基 引き太鼓三台奉納 神輿庫新築 区役所宝仙寺より移転	3-8頁
1937	昭和12年	昭栄橋 宮下橋 太陽橋 川北橋 鷺盛橋 コンクリート橋に改築 ・地図1937年 府立家政、後の都立家政駅開設 日中戦争勃発	・別冊地図
1938	昭和13年	電信隊の跡に憲兵学校(後の陸軍中野学校)が置かれる	
1939	昭和14年	野方消防署大和機関員出張所。22年に出張所となる	3丁目9
1940	昭和15年	大和尋常小学校(大和小)開校(3-13頁) この年は紀元二千六百年	4丁目26
1941	昭和16年	電信隊相模原へ移動 憲兵隊等変遷 妙正寺川洪水 太平洋戦争開戦12月	
1943	昭和18年	東京府・東京市を一本化し、東京都となる	1-19頁
1944	昭和19年	東京空襲始まる 集団疎開(福島):啓明小学校573名 大和小学校348名	
1945	昭和20年	空襲区内5割焼失21,000戸全焼 人口激減、8月15日太平洋戦争終戦 中野学校に米軍MP本部設置 ・地図/米軍航空写真1945年	3-19頁 ・別冊地図
1946	昭和21年	戦後復興環状7号線(計画は以前から)豊多摩刑務所米軍拘禁所スクार्टドに接收	
1947	昭和22年	5月3日新憲法公布 東京都35区が22区に8月に板橋が分離、23区となる 中野区第4中学校開校(グラントは大和町2丁目27番) 中野区大和出張所設置	3-19頁 若宮1丁目1
1948	昭和23年	八幡幼稚園開設(八幡神社内) 北協和会設立2丁目と若宮の一部(3-25頁) 中野区大和出張所移転	
1949	昭和24年	警察予備隊置かれる 一和町会設立(3-25頁) 中野区第4中学校校舎落成(3-20頁) 校内に、東、中、西、3橋完成	2丁目27
1951	昭和26年	西大和児童公園開園(4-9頁)	3丁目42
1953	昭和28年	警察大学校舎完成 東町会設立(3-25頁)	
1955	昭和30年	西部自治会設立(一和町会設立と同時期の筈ですが資料無し(3-25頁))	
1957	昭和32年	米軍の接收解除に伴い、中野刑務所復活 瀬戸内晴美(寂聴)大和町2丁目に転居(小説名、場所)	3-30頁
1958	昭和33年	住宅地図/全体地図 1958年	別冊地図

中野区大和町周辺略年表 4 (昭和-平成)

西暦	時代/年間	内容	備考
1958	昭和33年	大和町出張所新築移転(現第三杉の子作業所) 妙正寺川洪水 大和小学校特殊学級開設 東京ター完成 当時の消防署通り(3-29頁)	3丁目18
1961	昭和36年	若宮保育園開設、大和保育園開設(昭和47年移設)	
1963	昭和38年	妙正寺川洪水 高円寺阿波踊りと改称 新昭栄橋完成 ・航空写真1963年 落合下水処理場完成による下水網	2丁目7 別冊地図
1964	昭和39年	中央線中野三鷹間高架化工事完成 環状7号線完成 東町会を分断 東京オリンピック	4-2頁
1965	昭和40年	大和保育園を若宮保育園、鷺宮保育園を大和保育園 新住居表示法、野方2丁目・鷺宮1丁目の一部をあわせ現行の大和町とした	
1966	昭和41年	みはと公園開園 ブロードウェイセンター完成 宮下橋改築	
1967	昭和42年	川北橋 昭栄橋 太陽橋改築 大和児童館開設 啓明学童クラブ併設大和公園開園 住居表示実施大和町1~4丁目に変更、町内会の範囲と町名のずれ固定化	
1968	昭和43年	中野区役所新庁舎落成 美鳩橋、下谷橋、設置、鷺盛橋改築(昭和44年)	
1970	昭和45年	野方消防署大和出張所、2丁目2番に移転	
1973	昭和48年	大和西児童館開設(大和学童クラブ併設) 中野サブプラザ開館	
1977	昭和52年	大和地域センターへ改称(旧大和出張所) 大和地域ニュース創刊号発刊(4-1頁)	
1983	昭和67年	東京ディスプレイニラント開園 ファミコン発売 PC98ノートパソコン ファックス普及	
1986	昭和61年	・大和地域センター落成 12月頃からバブル景気始まり1997~98年バブル崩壊	・2丁目44
1987	昭和62年	大和町中央通りに改称(旧消防署通り) この頃からコンビニが増え始める	
1989	平成元年	消費税平成元年3%、9年5%、26年8% 振り込め詐欺の統計平成16年開始)	
1991	平成3年	やまと今昔物語発刊(1頁) 平成4年ことぶき大和会発足 7年阪神大震災発生	
1999	平成11年	中野区都市計画マスタープラン(大和地域まちづくり方針)策定 ウィンドウズ95.98.XP	
2005	平成17年	妙正寺川大洪水 ・環七地下調節池工事平成17~21年(2009年)完成	・4-16頁
2008	平成20年	人口1億2809万人ピークにその後減少(高齢化率 平成17年20% 25年25%)	
2011	平成23年	平成22年2010年沼栄橋公園開園 3.11東日本大震災 中野区支えあい条例 区民活動センター条例 大和区民活動センター発足(区内15か所)	
2012	平成24年	地域センターは「区民活動センター」と「地域事務所」に再編 住民基本台帳カードで住民票写し印鑑登録証明書のコンビニ交付サービス開始 東京都木密地域不燃化10年プロジェクト発足 区民活動センターに大和ギャラリー、カフェテリア ・スイツリ竣工し花公園東側道路より見える 大正3年1914創建の東京駅復元竣工 みんなの大和ニュース創刊 中野駅前再開発(キリン本社他、3大学、四季の森公園)	・表紙/1-7頁
2013	平成25年	中央通り特定整備路線補助227号線に指定 大和町まちづくりの会発足(5-6頁) 公衆浴場大和湯1軒に 通学区域見直小中学校再編計画第二次策定(5-10頁)	
2014	平成26年	鷺宮アパート跡地を活用貯水量3.5万m ³ の調節池、地上に白鷺せせらぎ公園 LED街灯、防犯カメラ第1号西部自治会、アパート建売建設ラッシュ、大和町80周年式典 ペットと散歩(犬10年で3割増加) 2014年度大和町振り込め詐欺被害7件1,816万円	
2015	平成27年	大和町うるわし(東京都中野区大和町の歴史)発刊 大和小若宮小 平成29年度統合 四中八中 平成33年度統合	予定
2020	平成32年	2020東京オリンピック	予定
2021	平成33年	中央通り拡張完了	予定

年代 西曆 變換 表		正保 3	1646	元祿14	1701	宝曆 7	1757	文化12	1815	明治 1	1868	昭和 1	1926	平成 1	1989
		正保 4	1647	元祿15	1702	宝曆 8	1758	文化13	1816	明治 2	1869	昭和 2	1927	平成 2	1990
		正保 5	1648	元祿16	1703	宝曆 9	1759	文化14	1817	明治 3	1870	昭和 3	1928	平成 3	1991
		慶安 1		元祿17	1704	宝曆10	1760	文化15	1818	明治 4	1871	昭和 4	1929	平成 4	1992
		慶安 2	1649	宝永 1		宝曆11	1761	文政 1		明治 5	1872	昭和 5	1930	平成 5	1993
		慶安 3	1650	宝永 2	1705	宝曆12	1762	文政 2	1819	明治 6	1873	昭和 6	1931	平成 6	1994
		慶安 4	1651	宝永 3	1706	宝曆13	1763	文政 3	1820	明治 7	1874	昭和 7	1932	平成 7	1995
慶安 5	1652	宝永 4	1707	宝曆14	1764	文政 4	1821	明治 8	1875	昭和 8	1933	平成 8	1996		
文祿 5	1596	承応 1		宝永 5	1708	明和 1		文政 5	1822	明治 9	1876	昭和 9	1934	平成 9	1997
慶長 1		承応 2	1653	宝永 6	1709	明和 2	1765	文政 6	1823	明治 10	1877	昭和 10	1935	平成 10	1998
慶長 2	1597	承応 3	1654	宝永 7	1710	明和 3	1766	文政 7	1824	明治 11	1878	昭和 11	1936	平成 11	1999
慶長 3	1598	承応 4	1655	宝永 8	1711	明和 4	1767	文政 8	1825	明治 12	1879	昭和 12	1937	平成 12	2000
慶長 4	1599	明曆 1		正徳 1		明和 5	1768	文政 9	1826	明治 13	1880	昭和 13	1938	平成 13	2001
慶長 5	1600	明曆 2	1656	正徳 2	1712	明和 6	1769	文政10	1827	明治 14	1881	昭和 14	1939	平成 14	2002
慶長 6	1601	明曆 3	1657	正徳 3	1713	明和 7	1770	文政11	1828	明治 15	1882	昭和 15	1940	平成 15	2003
慶長 7	1602	明曆 4	1658	正徳 4	1714	明和 8	1771	文政12	1829	明治 16	1883	昭和 16	1941	平成 16	2004
江戸		万治 1		正徳 5	1715	明和 9	1772	文政13	1830	明治 17	1884	昭和 17	1942	平成 17	2005
庚申		万治 2	1659	正徳 6	1716	安永 1		天保 1		明治 18	1885	昭和 18	1943	平成 18	2006
慶長 8	1603	万治 3	1660	享保 1		安永 2	1773	天保 2	1831	明治 19	1886	昭和 19	1944	平成 19	2007
慶長 9	1604	万治 4	1661	享保 2	1717	安永 3	1774	天保 3	1832	明治 20	1887	昭和 20	1945	平成 20	2008
慶長10	1605	寛文 1		享保 3	1718	安永 4	1775	天保 4	1833	明治 21	1888	昭和 21	1946	平成 21	2009
慶長11	1606	寛文 2	1662	享保 4	1719	安永 5	1776	天保 5	1834	明治 22	1889	昭和 22	1947	平成 22	2010
慶長12	1607	寛文 3	1663	享保 5	1720	安永 6	1777	天保 6	1835	明治 23	1890	昭和 23	1948	平成 23	2011
慶長13	1608	寛文 4	1664	享保 6	1721	安永 7	1778	天保 7	1836	明治 24	1891	昭和 24	1949	平成 24	2012
慶長14	1609	寛文 5	1665	享保 7	1722	安永 8	1779	天保 8	1837	明治 25	1892	昭和 25	1950	平成 25	2013
慶長15	1610	寛文 6	1666	享保 8	1723	安永 9	1780	天保 9	1838	明治 26	1893	昭和 26	1951	平成 26	2014
慶長16	1611	寛文 7	1667	享保 9	1724	安永10	1781	天保10	1839	明治 27	1894	昭和 27	1952	平成 27	2015
慶長17	1612	寛文 8	1668	享保10	1725	天明 1		天保11	1840	明治 28	1895	昭和 28	1953	平成 28	2016
慶長18	1613	寛文 9	1669	享保11	1726	天明 2	1782	天保12	1841	明治 29	1896	昭和 29	1954	平成 29	2017
慶長19	1614	寛文10	1670	享保12	1727	天明 3	1783	天保13	1842	明治 30	1897	昭和 30	1955	平成 30	2018
慶長20	1615	寛文11	1671	享保13	1728	天明 4	1784	天保14	1843	明治 31	1898	昭和 31	1956	平成 31	2019
元和 1		寛文12	1672	享保14	1729	天明 5	1785	天保15	1844	明治 32	1899	昭和 32	1957	平成 32	2020
元和 2	1616	寛文13	1673	享保15	1730	天明 6	1786	弘化 1		明治 33	1900	昭和 33	1958	平成 33	2021
元和 3	1617	延宝 1		享保16	1731	天明 7	1787	弘化 2	1845	明治 34	1901	昭和 34	1959	平成 34	2022
元和 4	1618	延宝 2	1674	享保17	1732	天明 8	1788	弘化 3	1846	明治 35	1902	昭和 35	1960	平成 35	2023
元和 5	1619	延宝 3	1675	享保18	1733	天明 9	1789	弘化 4	1847	明治 36	1903	昭和 36	1961	平成 36	2024
元和 6	1620	延宝 4	1676	享保19	1734	寛政 1		弘化 5	1848	明治 37	1904	昭和 37	1962	平成 37	2025
元和 7	1621	延宝 5	1677	享保20	1735	寛政 2	1790	嘉永 1		明治 38	1905	昭和 38	1963	平成 38	2026
元和 8	1622	延宝 6	1678	享保21	1736	寛政 3	1791	嘉永 2	1849	明治 39	1906	昭和 39	1964	平成 39	2027
元和 9	1623	延宝 7	1679	元文 1		寛政 4	1792	嘉永 3	1850	明治 40	1907	昭和 40	1965	平成 40	2028
元和10	1624	延宝 8	1680	元文 2	1737	寛政 5	1793	嘉永 4	1851	明治 41	1908	昭和 41	1966	平成 41	2029
寛永 1		延宝 9	1681	元文 3	1738	寛政 6	1794	嘉永 5	1852	明治 42	1909	昭和 42	1967	平成 42	2030
寛永 2	1625	天和 1		元文 4	1739	寛政 7	1795	嘉永 6	1853	明治 43	1910	昭和 43	1968	平成 43	2031
寛永 3	1626	天和 2	1682	元文 5	1740	寛政 8	1796	嘉永 7	1854	明治 44	1911	昭和 44	1969	平成 44	2032
寛永 4	1627	天和 3	1683	元文 6	1741	寛政 9	1797	安政 1		明治 45	1912	昭和 45	1970	平成 45	2033
寛永 5	1628	天和 4	1684	寛保 1		寛政10	1798	安政 2	1855			昭和 46	1971	平成 46	2034
寛永 6	1629	貞享 1		寛保 2	1742	寛政11	1799	安政 3	1856			昭和 47	1972	平成 47	2035
寛永 7	1630	貞享 2	1685	寛保 3	1743	寛政12	1800	安政 4	1857	大正 1	1912	昭和 48	1973	平成 48	2036
寛永 8	1631	貞享 3	1686	寛保 4	1744	寛政13	1801	安政 5	1858	大正 2	1913	昭和 49	1974	平成 49	2037
寛永 9	1632	貞享 4	1687	延享 1		享和 1		安政 6	1859	大正 3	1914	昭和 50	1975	平成 50	2038
寛永10	1633	貞享 5	1688	延享 2	1745	享和 2	1802	安政 7	1860	大正 4	1915	昭和 51	1976	平成 51	2039
寛永11	1634	元祿 1		延享 3	1746	享和 3	1803	万延 1		大正 5	1916	昭和 52	1977	平成 52	2040
寛永12	1635	元祿 2	1689	延享 4	1747	享和 4	1804	万延 2	1861	大正 6	1917	昭和 53	1978	平成 53	2041
寛永13	1636	元祿 3	1690	延享 5	1748	文化 1		文久 1		大正 7	1918	昭和 54	1979	平成 54	2042
寛永14	1637	元祿 4	1691	寛延 1		文化 2	1805	文久 2	1862	大正 8	1919	昭和 55	1980	平成 55	2043
寛永15	1638	元祿 5	1692	寛延 2	1749	文化 3	1806	文久 3	1863	大正 9	1920	昭和 56	1981	平成 56	2044
寛永16	1639	元祿 6	1693	寛延 3	1750	文化 4	1807	文久 4	1864	大正 10	1921	昭和 57	1982	平成 57	2045
寛永17	1640	元祿 7	1694	寛延 4	1751	文化 5	1808	元治 1		大正 11	1922	昭和 58	1983	平成 58	2046
寛永18	1641	元祿 8	1695	宝曆 1		文化 6	1809	元治 2	1865	大正 12	1923	昭和 59	1984	平成 59	2047
寛永19	1642	元祿 9	1696	宝曆 2	1752	文化 7	1810	慶応 1		大正 13	1924	昭和 60	1985	平成 60	2048
寛永20	1643	元祿10	1697	宝曆 3	1753	文化 8	1811	慶応 2	1866	大正 14	1925	昭和 61	1986	平成 61	2049
寛永21	1644	元祿11	1698	宝曆 4	1754	文化 9	1812	慶応 3	1867	大正 15	1926	昭和 62	1987	平成 62	2050
正保 1		元祿12	1699	宝曆 5	1755	文化10	1813	慶応 4	1868			昭和 63	1988	平成 63	2051
正保 2	1645	元祿13	1700	宝曆 6	1756	文化11	1814	明治 1	1868			昭和 64	1989	平成 64	2052

編集委員の皆さんより

生まれ育って七十五年、わがふるさとは大場なり！
願わくば 大場村にて春死なん 桜吹雪の舞い散る頃に。

西行もじり 山崎直明

大和町に住んで三十五年何も知らなかった地元を知る事ができました。小田原衆所領役帳の「中野内大場一貫文源七郎分」の一行は、想像を広げてくださいました。
有り難うございました。

石川久

編集委員の、この若い高齢者パワーは大したものです。久しぶりの宿題・受験勉強を思い出し、集中力・探究心が爆発しました。私たちがつくる私たちの居場所づくりが本格的に稼働し、いきいきと暮らせる大和町が見えてきたなと感じました。

勝岡鉦一

一つの目的に向かって取り組み、大和町の歴史を知り、多くの方々と知り合うことができ、充実した年月でした。あれもこれも入りたい項目もあり、まだまだ未完成だと思いますが、ひとまず「完成」の喜びで一杯です。

吉光寺久明

「温故知新」昔のを知って、新しいことを見つける、まさに大和町の昔を知るよい機会に出合えたことを有難く感謝したいと思います。

涌井友子

個人と同様に、地域にも素晴らしい歴史が有ることに再認識しました。これからは我が町の歩みと将来について胸を張ってPR出来ることに喜びを感じています。

そして進行中の新しいまちづくりで、更に魅力に富んだ、大和町を期待しています。

松澤勇治

探ったり想ったり、足かけ？年

大和町めぐり、夜もすがら

下條文子

大和町に住んで四十三年、大和の歴史の流れ 知れば知るほど魅力に取りつかれました。これからも、明るく豊かな町づくりが進められる事を願って。

友田勝恵

このうるわしの建設は設計が重要で大変だとはわかっていましたが、実はそれ以前でした。確かめる事は多く材料も不足し定規も自分達で作る事から始める必要がありました。江戸時代からの地図や公文書の記録、年表等が、その定規に使えるとわかり、建てながら少しずつ構造を確かめて行きました。やがて不足していた材料となる貴重な資料等も、皆様から頂く事が次第に増え、こうして竣工にこぎつけました。最後の仕上げは何度も手直しをして、勉強にもなりました。応援頂いた皆様への感謝をこめて。

ようこそ皆さま

近藤敏明

大和町うるわし 東京都中野区大和町の歴史 中野区大和区民活動センター運営委員会発行
大和地域歴史編集委員会編集 平成 27 年 住所〒165-0034 東京都中野区大和町 2-44-6
連絡先 TEL 03-3339-6125 FAX 03-3339-6126

E-mail nakano_yamato@coast.ocn.ne.jp URL <http://www.nakano-yamato.gr.jp/>

表紙：中野区大和町の道路から見える、朝のスカイツリー

裏表紙：町の北を流れる、妙正寺川の夕暮れ 撮影石川久氏

大和町うるわし

東京都中野区大和町の歴史

中野区大和区民活動センター運営委員会発行

平成27年

大和町うるわし 東京都中野区大和町の歴史

中野区大和区民活動センター運営委員会発行

大和地域歴史編纂委員会編集 平成27年

住所 〒165-0034 東京都中野区大和町 2-44-6

連絡先 TEL 03-3339-6125 FAX 03-3339-6126

E-mail nakano_yamato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www.nakano-yamato.gr.jp/>